Empowered by Innovation NEC

VALUESTAR L

VALUESTAR F

# 2 準備と設定

「あなたのパソコン」として使うために

パソコンは、ほかの電化製品とちがって
電源をいれただけでは使えません。
付属品をとりつけ、あなた個人が使うための
設定をし、インターネットにつなぐところまで、
この本の手順にそって、準備してみましょう。

もう一台パソコンを買ったときの
内容の移しかえや、設定を最初から
やり直す方法も、この本がご案内します。

新しいパソコンがやってきました！

箱を開いて、

嬉しいような、そわそわするような、

そんな、新しい道具を手にするときの気持ちを

たいせつにしながら、

間違いなく確実に、

パソコンの準備と設定を進めていけるよう、

この本は作られています。

853-810601-328-A

# 『準備と設定』の読み方

## 第1章～第3章まで

**「箱を開けて最初にすること」「電源を入れる前に接続しよう」「セットアップを始める」**

パソコンの置き場所を確認したり、箱の中のケーブルや部品を接続する手順、はじめて電源を入れたときの設定（Windows のセットアップ）手順を説明しています。

## 第4章

**「基本中の基本の操作」**

電源の入れ方／切り方、音量調節、CD-ROM などのディスクの扱い方など、基本的な操作について説明しています。

## 第5章・第6章

**「これからインターネットを始めるかたへ」「パソコンを買い換えたかたへ」**

インターネットに接続する方法について説明しています。これまでにパソコンを持っていなかったかたは第5章へ、以前に持っていたパソコンでもインターネットを利用していたかたは第6章へ進んでください。第6章では、以前のパソコンの設定やデータを新しいパソコンに移す方法も説明しています。

## 第7章

**「前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ」**

複数のパソコンをネットワーク接続して利用したいかたは、この章をご覧ください。

## 第8章

**「再セットアップする」**

パソコンの調子が悪くなったときなどに、買ってきたときの状態に戻す「再セットアップ」について説明しています。

## 第9章

**「パソコン内部に取り付ける」**

このパソコンに、PCI ボードやメモリを取り付ける方法を説明しています。

853-810601-328-A
2004年9月　初版

# このマニュアルの表記について

## ◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります

**ポイント**　そのページで説明している手順で、とくに大切なことです。

　してはいけないことや、注意していただきたいことです。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているソフトの破壊、パソコンの破損などの可能性があります。

## ◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

**【　】**　【　】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。

**CD/DVD ドライブ**　DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW ドライブ（DVD+R 2層書込み）、DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW ドライブ、および CD-R/RW with DVD-ROM ドライブのいずれかを指します。

**「サポートナビゲーター」**　電子マニュアル「サポートナビゲーター」を起動して、各項目を参照することを示します。「サポートナビゲーター」は、デスクトップの（困ったときのサポートナビゲーター）をダブルクリックして起動します。

## ◆このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

次ページの表をご覧になり、ご購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

**このパソコン**　表の各モデル（機種）を指します。

**液晶ディスプレイセットモデル**　液晶ディスプレイがセットになっているモデルのことです。

**DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW（DVD+R 2層書込み）モデル**　DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW ドライブ（DVD+R 2層書込み）（DVD スーパーマルチドライブ（DVD+R 2層書込み））を搭載しているモデルのことです。

**DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW モデル**　DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW ドライブ（DVD スーパーマルチドライブ）を搭載しているモデルのことです。

**CD-R/RW with DVD-ROM モデル**　CD-R/RW with DVD-ROM ドライブ（マルチプレードライブ）を搭載しているモデルのことです。

**TV モデル**　テレビ / 地上アナログデータ放送を見るための機能を搭載しているモデルのことです。

**BS/ 地上デジタル TV モデル**　地上アナログテレビ / 地上アナログデータ放送、地上デジタル放送、BS・110度CS デジタル放送を見るための機能を搭載しているモデルのことです。

**Windows XP Home Edition モデル**　Microsoft® Windows® XP Home Edition があらかじめインストールされているモデルのことです。

**Windows XP Professional モデル**　Microsoft® Windows® XP Professional があらかじめインストールされているモデルのことです。

**Office 2003モデル**　Office Personal 2003またはOffice Professional 2003があらかじめインストールされているモデルのことです。

**Office Personal 2003モデル**　Office Personal 2003があらかじめインストールされているモデルのことです。

**Office Professional 2003モデル**　Office Professional 2003があらかじめインストールされているモデルのことです。

| シリーズ名 | 型名（型番） | 表記の区分 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | CD/DVDドライブ | ディスプレイ | キーボード | TV機能 | OS | 添付ソフト |
| VALUESTAR L | VL900/AD (PC-VL900AD) | DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW (DVD+R 2層書込み)モデル | 液晶ディスプレイセットモデル (TVチューナ内蔵23型ワイド液晶(F23W11(A))) | PS/2キーボード | TVモデル（プリセット機能付リモコン添付） | Windows XP Home Editionモデル | Office Personal 2003モデル |
| | VL800/AD (PC-VL800AD) | | 液晶ディスプレイセットモデル (17型ワイド液晶(F17W91)) | | BS/地上デジタルTVモデル（リモコン添付） | | |
| | VL770/AD (PC-VL770AD) | | 液晶ディスプレイセットモデル (19型液晶(F19R31)) | | TVモデル（リモコン添付） | | |
| | VL700/AD (PC-VL700AD) | | | | | | |
| | VL590/AD (PC-VL590AD) | | 液晶ディスプレイセットモデル (17型液晶(F17R41)) | | | | |
| | VL570/AD (PC-VL570AD) | | 液晶ディスプレイセットモデル (17型液晶(F17R31)) | | | | |
| | VL350/AD (PC-VL350AD) | | 液晶ディスプレイセットモデル (15型液晶(F15T81(A))) | | | | |
| VALUESTAR F | VF700/AD (PC-VF700AD) | | 液晶ディスプレイセットモデル (17型液晶(F17R31(W))) | PS/2キーボード（ファミリーボタン | | | |

## ◆ VALUESTAR Gシリーズについて

VALUESTAR Gシリーズの各モデルについては、添付の『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

## ◆本文中の画面やイラスト、ホームページについて

本文中の画面やイラスト、ホームページは、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。

記載しているホームページの内容やアドレスは、本冊子制作時点のものです。

## ◆このマニュアルで使用しているソフトウェア名などの正式名称

| （本文中の表記） | （正式名称） |
|---|---|
| **Windows、Windows XP、Windows XP Home Edition** | Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack 2 |
| **Windows、Windows XP、Windows XP Professional** | Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版 Service Pack 2 |
| **Windows 2000 Professional** | Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版 |
| **Windows Me、Windows Millennium Edition** | Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 |
| **Windows 98 Second Edition** | Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版 |
| **Windows 98** | Microsoft® Windows® 98 operating system 日本語版 |
| **Windows 95** | Microsoft® Windows® 95 operating system 日本語版 |
| **Office Personal 2003** | Microsoft® Office Personal Edition 2003 (Microsoft® Office Word 2003、Microsoft® Office Excel 2003、Microsoft® Office Outlook® 2003、Microsoft® Office Home Style+) |
| **Office Professional 2003** | Microsoft® Office Professional Enterprise Edition 2003(Microsoft® Office Word 2003、Microsoft® Office Excel 2003、Microsoft® Office Outlook® 2003、Microsoft® Office PowerPoint® 2003、Microsoft® Office Access 2003、Microsoft® Office Publisher 2003、Microsoft® Office InfoPath™ 2003) |
| **Outlook、Outlook 2003** | Microsoft® Office Outlook® 2003 |
| **Home Style+** | Microsoft® Office Home Style+ |
| **インターネットエクスプローラ、Internet Explorer** | Microsoft® Internet Explorer 6.0 Service Pack 2 |
| **アウトルックエクスプレス、Outlook Express** | Microsoft® Outlook® Express 6.0 |
| **マカフィー・ウイルススキャン** | マカフィー®・ウイルススキャン |
| **マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス** | マカフィー®・パーソナルファイアウォールプラス |
| **BIGLOBEでインターネット** | BIGLOBEインターネット接続ツール |
| **RecordNow !** | Sonic RecordNow !™Version7.2 |

## ご注意

（1）本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
（2）本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
（3）本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、NEC 121 コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
（4）当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、（3）項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
（5）本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
（6）海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
（7）本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® XP Home EditionまたはMicrosoft® Windows® XP Professional、および本機に添付の CD-ROM、DVD-ROM は、本機のみでご使用ください。
（8）ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。

---



---



---

**■輸出に関する注意事項**
本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
従いまして、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

**■Notes on export**
This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1: NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

---

# 目次

第 1 章

# 箱を開けて最初にすること

この章には、パソコンの箱を開けて最初にすることが書いてあります。添付品が全部そろっているか、型名や製造番号が合っているか確認しましょう。また、パソコンの置き場所を決めましょう。

**この章の所要時間：約 10 分**

# 添付品はそろっていますか？

**ポイント**
- 『スタートシート』で確認

## 1 『スタートシート』を見る

添付品の箱の中に『スタートシート』が入っています。スタートシート裏面の「添付品を確認する」を見て、添付品が全部そろっているか確認してください。万一、足りないものがあったり、添付品の一部が破損していたときは、すぐに下記までお問い合わせください。

**VALUESTAR G シリーズをご購入の場合は、『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、添付品を確認してください。**

困ったときには…
NEC 121 コンタクトセンター
フリーコール 0120-977-121

### 添付品を確認する

このページのチェックリストを見ながら、添付品がそろっているか確認をしてください。万一、添付品が足りない場合は、すぐにNEC 121コンタクトセンター 0120-977-121（フリーコール）へお問い合わせください。携帯電話、PHSからは03-6670-6000までお願いいたします。※通話料は、お客様のご負担となります。

- □ パソコン本体
- □ キーボード

※ディスプレイの添付品については、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

**VALUESTAR Gシリーズをご購入の場合**
VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいた場合、お客様の選択により添付品が異なります。添付品の確認をするときには、『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

マニュアルなど
- □ スタートシート（このシート）
- □ ソフトウェアのご使用条件（お客様へのお願い）／ソフトウェア使用条件適用一覧（1枚になっています。箱の中身を確認後必ずお読みください）
- □ 安全にお使いいただくために
- □ クイック操作シート
- □ はじめよう!ブロードバンド インターネット活用ブック
- □ 筆王 ユーザーズガイド for NEC
- □ 添付書類保管ファイル
- □ 121wareガイドブック
- □ 準備と設定
- □ 活用ブック
- □ TVモデルガイド
- □ MediaGarage操作ガイド

地上デジタル放送、BS・110度CSデジタル放送を楽しむための添付品（VL800/ADのみ）
- □ パソコンで楽しむBSデジタル放送
- □ 地上デジタルTVモデルガイド
- □ BS・110度CSデジタル放送パンフレット／加入契約申込書
- □ B-CASカード
- □ ICカードBOX

- □ マウス
- □ スタビライザ
- □ リモコン
- □ リモコン用アルカリ電池（単3形、2本）
- □ アース付き電源ケーブル
- □ モジュラーケーブル
- □ リモコン用受信ユニット（VL350/ADのみ）

Microsoft® Office Personal Edition 2003の添付品
- □ Microsoft® Office Personal Edition 2003 パッケージ

©NEC Corporation, NEC Personal Products,Ltd. 2004
日本電気株式会社、NECパーソナルプロダクツ株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
その他、記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

NECパーソナルプロダクツ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11-1（ゲートシティ大崎ウエストタワー）

2004年9月 Printed in Japan

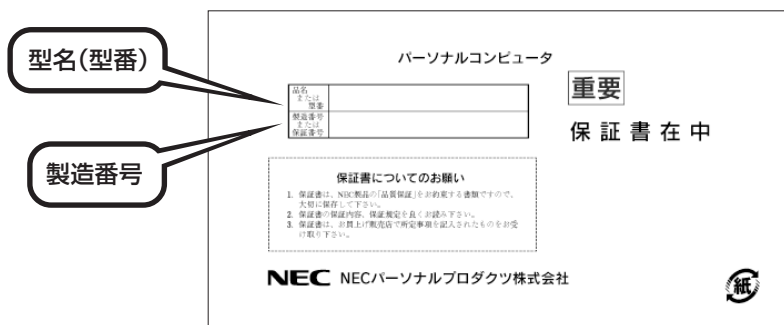
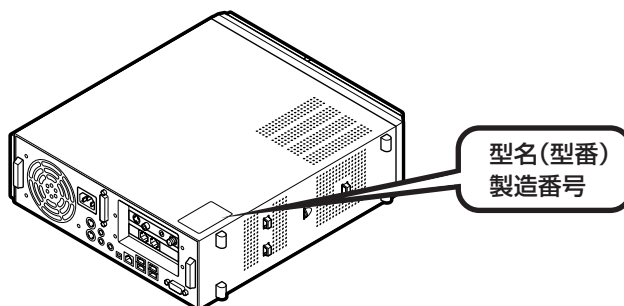
このマニュアルは再生紙（古紙率100%）を使用しています。

上の図は、VALUESTAR Lの『スタートシート』です。添付品の内容はモデルにより異なります。

# 型名(型番)と製造番号を確認する

🔍 ポイント

- 保証書と本体のラベルの記載が一致していることを確認する
- パソコン本体とディスプレイの両方とも

## 1 パソコン本体の保証書を見る

## 2 パソコン本体のラベルと一致しているか確認する

## 3 ディスプレイについても、同じように確認する

ディスプレイの製造番号は、背面に記載されています。

・機器に記載された番号が保証書と異なっている場合、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

・保証書は、所定事項（販売店名、お買い上げ日など）が記入されていることを確認して、保管しておいてください。保証期間中に万一故障した場合は、保証書記載内容に基づいて修理いたします。保証期間終了後の修理についてはNEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

# パソコンの置き場所を決める

**ポイント**
- キーボードやマウスを使うために十分余裕のある場所に
- 電話回線や電源などの場所にも気を付ける

## 1 パソコンの設置環境

**◆屋内であること**
屋外には設置しないでください。

**◆しっかりした台の上**
適当なテーブルや机がないときは、市販のパソコンラックを使うこともできます。

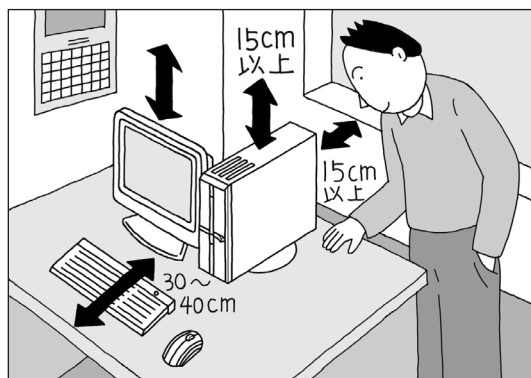
**◆温度は 10 ～ 35℃、湿度は 20 ～ 80%**
室内の温度と湿度が高く、機械やガラスなどの温度が低いと、水滴がついてしまうことがあります（結露）。パソコンが結露したときは、電源を入れずに 1 時間以上置き、水滴が蒸発してから使ってください。

**◆ホコリの少ない場所**
ホコリの多い場所に置くと、パソコンの内部にホコリがたまって故障の原因となることがあります。ホコリの少ない場所を選んでください。

## 2 パソコン周囲の広さ

### 本体前に 30 ～ 40cm
キーボードを置き、ゆったりマウスを操作できる広さが必要です。

### 本体後ろに 15cm 以上
本体の後ろ側に通風孔があるため、最低でも壁などから15cm以上離してください。できれば50cm程度の余裕があると、あとからケーブルなどを接続するときに作業が楽です。

### 本体の上にも 15cm 以上
本体の上の面にも通風孔があるため、15cm以上の空間を確保してください。またディスプレイの背面にも通風孔があるので、15cm 以上あけてください。

パソコンを使っているときは、本体やディスプレイ上に紙や布を置いて通風孔をふさがないようにしてください。内部の温度が上昇し、動作不良や故障の原因になります。

## 3 こんな場所にはパソコンを置かないで!

小さなお子さんがいる場合は、キーボードやマウスなどをお子さんが引っ張って落としてしまうことがあるので、十分気を付けてください。

## 4 電源コンセントや電話回線などの近くに置く

**◆電源コンセントについて**

・ラジオやテレビに雑音が入ることがあるため、これらの機器とは別のコンセントに接続してください。
・添付の電源ケーブルを直接電源コンセントに接続してください。
・コンセントが足りなくてパソコン用のテーブルタップを使うときは、テーブルタップの合計電力を守ってください。
・アース線を接続できるよう、アース端子のあるコンセントを使ってください。コンセントにアース端子がないときは、お近くの電器店など電気工事士の資格を持った人にアース端子付きコンセントの取り付けを相談してください。

**◆電話回線について**

インターネットを利用するときは、パソコンに添付されているモジュラーケーブルが電話回線の接続口(モジュラーコンセント)に届く範囲にパソコンを設置してください。インターネットに接続するための機器(ケーブルモデムやルータなど)を利用するときは、それらの機器の近くにパソコンを設置します。

**◆アンテナ線について(TV モデルのみ)**

パソコンでテレビを楽しむには、アンテナ線の位置や長さに注意が必要です。アンテナ線の接続については、『TV モデルガイド』、『パソコンで楽しむ BS デジタル放送』(BS/ 地上デジタル TV モデルのみ)、『地上デジタル TV モデルガイド』(BS/ 地上デジタル TV モデルのみ)をご覧ください。

## 5 パソコンの近くに置いてはいけないもの

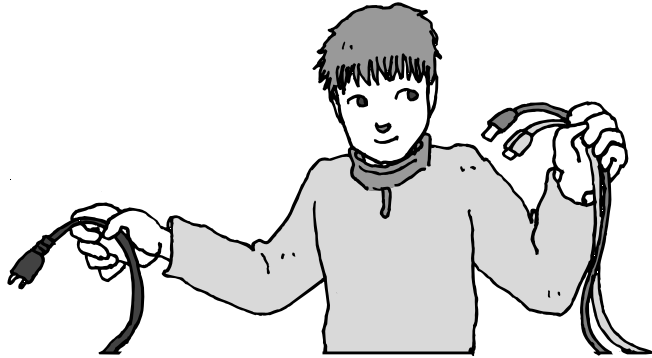
**◆扇風機や大型のスピーカ、温風式こたつなど（磁気を発生するもの）**
強い磁気を発生する装置が近くにあると、ディスプレイの表示や色が乱れることがあります。パソコン用スピーカなど、磁気をもらさないように設計された装置であれば、近くに置いてもかまいません。

**◆ストーブなどの暖房器具**
暖房器具の近くにパソコンを置くと、熱で変形したり、異常な動作をすることがあります。

**◆ほかのディスプレイやテレビ、ラジオ**
ほかのディスプレイやテレビの表示が揺れたり、色が乱れたりすることがあります。テレビやラジオの音声に雑音が入ることがあります。

**◆コードレス電話、携帯電話**
通話中に雑音が入ることがあります。パソコン側も電波の影響を受けるため、スピーカに雑音が入ることがあります。

第 2 章

# 電源を入れる前に接続しよう

**パソコン本体とディスプレイの置き場所を決めたら接続です。いろいろなケーブルをつなぐので、じっくり説明を読んで慎重にやりましょう。次ページから順番に作業を進めてください。電源ケーブルの接続は最後ですよ。**

この章の所要時間：約20分

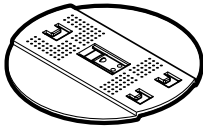
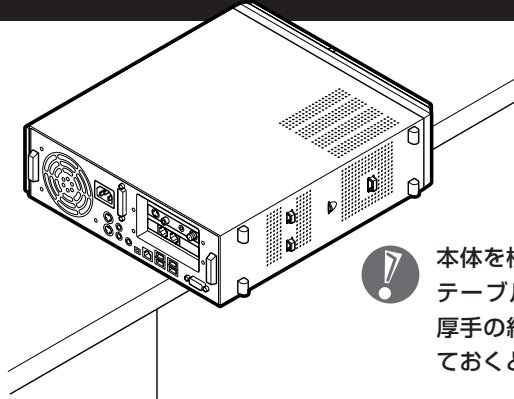


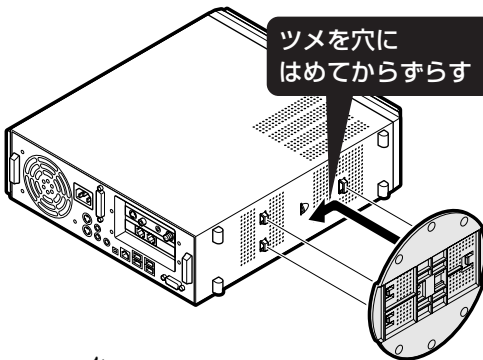
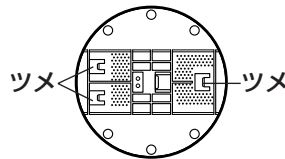
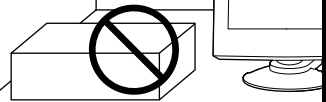
**インターネットや周辺機器はあとから接続**

ここではまだ、電話回線には接続しません。また、プリンタなどの周辺機器があるときも、まだ接続しないでください。「第3章　セットアップを始める」で説明している作業が終わってから、電話回線や周辺機器の接続を行います。

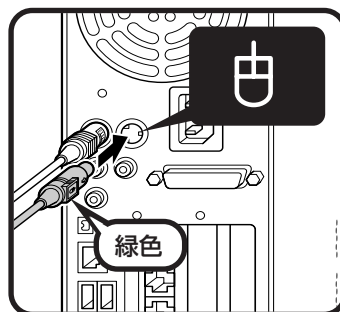
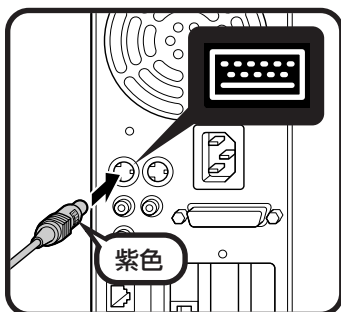
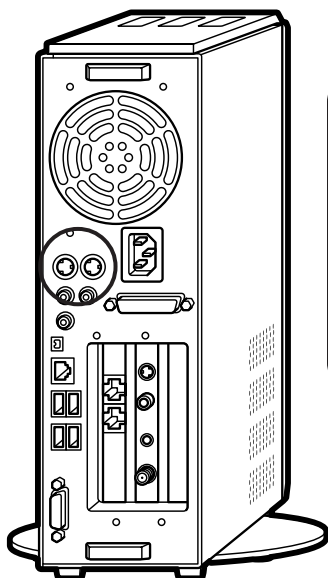
# スタビライザ(台座)を取り付ける

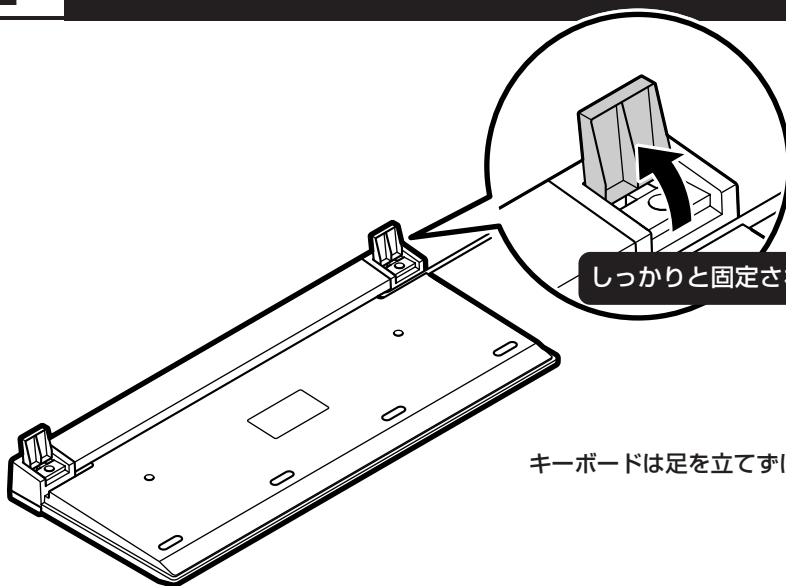
**ポイント**
- スタビライザは、パソコンを倒れにくいようにする部品
- ツメをはめるだけで取り付けできる(ネジ回し不要)

## 1 スタビライザを用意して、本体を横に置く

本体を横に倒すときは、机やテーブルを傷つけないよう、厚手の紙や布などを下に敷いておくとよいでしょう。

## 2 スタビライザをはめこむ

このパソコンは、横置きで使用することはできません。必ず縦置きでお使いください。

# キーボードを接続する

**ポイント**
- プラグは２つ
- マークを見て、プラグの向きを合わせる

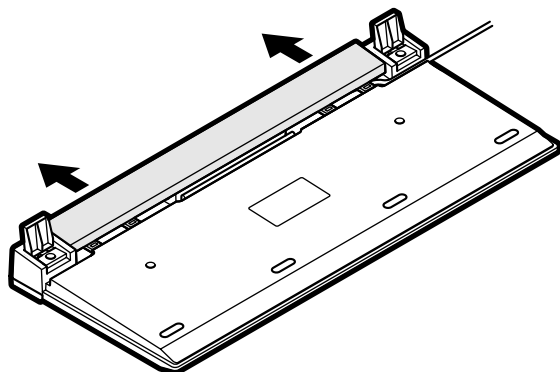
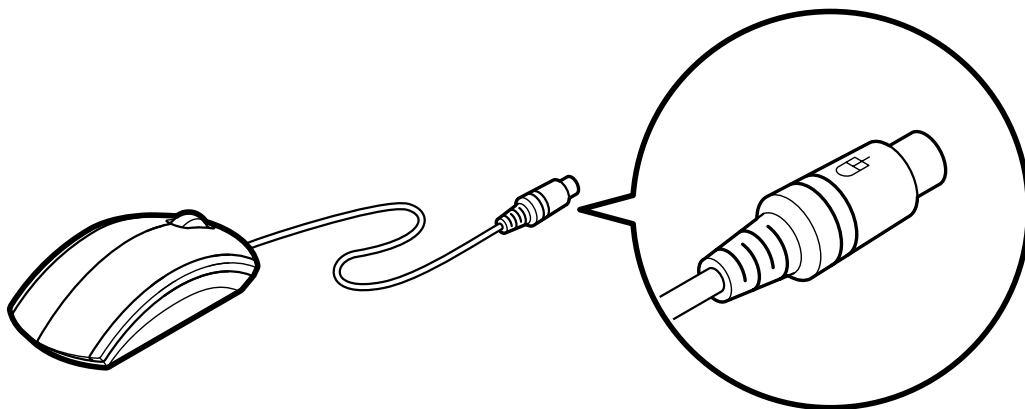
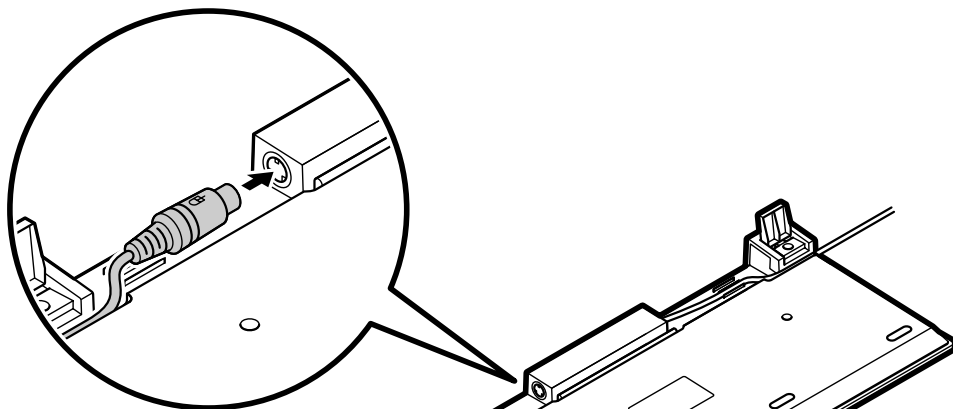
## 1 本体背面のコネクタにキーボードのプラグを差し込む

プラグを差し込むときは、無理に押し込まないでください。うまく差し込めないときは、もう一度プラグの向きを確認してください。

## 2 キーボード裏面の足を立てる

キーボードは足を立てずに使うこともできます。

# マウスを接続する

**ポイント**

- コネクタは、キーボードの裏側
- ケーブルカバーを外して接続する
- プラグの向きを合わせる

## 1 キーボード裏面のケーブルカバーを外す

## 2 (マウスマーク)が見えるようにマウスのプラグを持つ

## 3　キーボード裏面のコネクタに差し込む

プラグを差し込むときは、無理に押し込まないでください。うまく差し込めないときは、もう一度プラグの向きを確認してください。

## ケーブルの収納方法

ケーブルは、両側、片側どちらにも出すことができます。

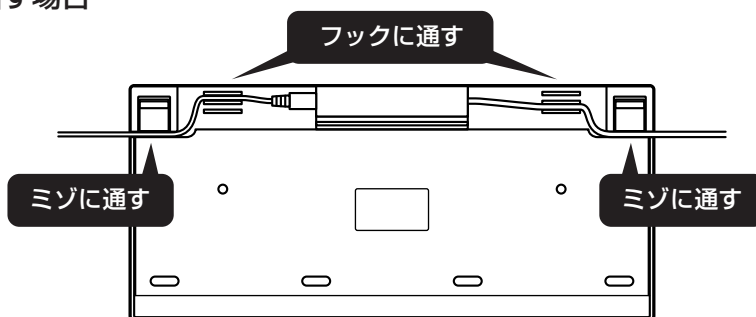
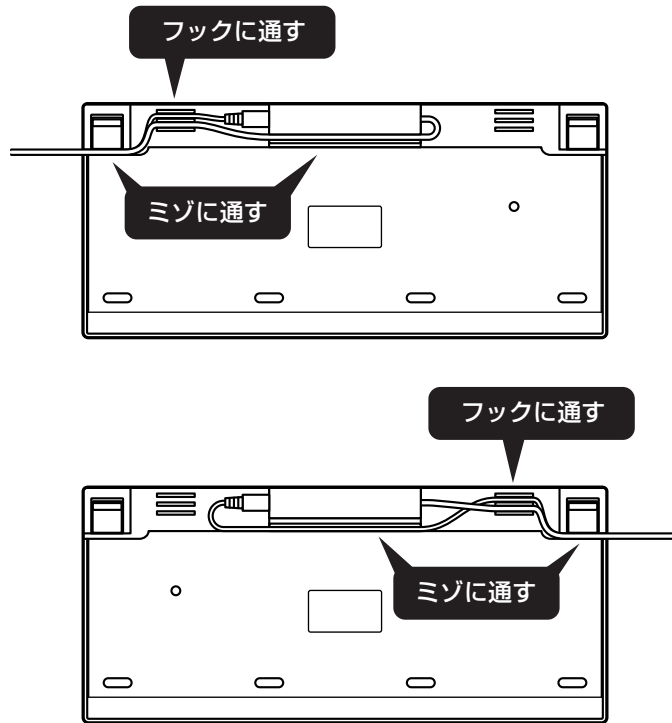
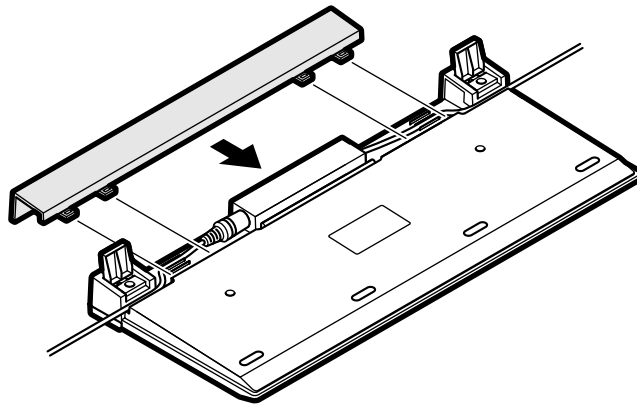
### 両側に出す場合

### 片側に出す場合

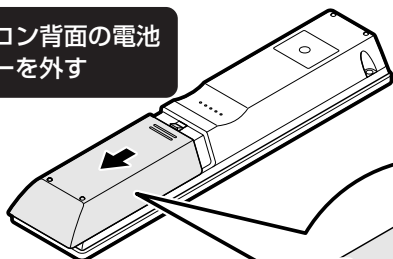
フックに通す

ミゾに通す

フックに通す

ミゾに通す

## 4 ケーブルカバーをもとどおりはめる

# リモコンを使う準備をする

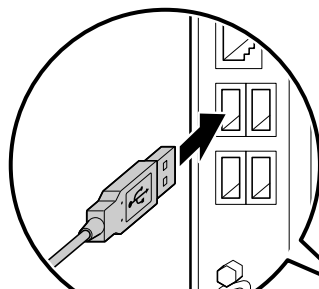
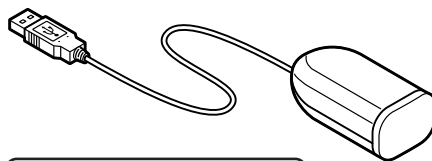
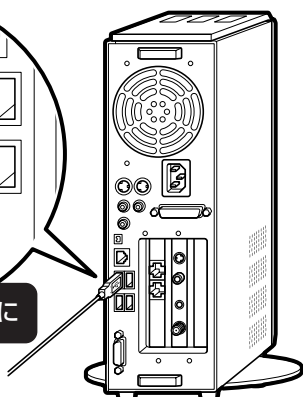
**ポイント**

- ●乾電池を入れる
- ●＋（プラス）と－（マイナス）の向きを間違えないように

## 1 リモコンに乾電池を入れる

ご使用の環境や方法にもよりますが、このリモコンの電池寿命はアルカリ乾電池で約 100 時間です。

入れたら電池カバーをもとどおりにはめてください。

## 2 リモコン用受信ユニットを接続する（15型液晶ディスプレイセットモデルのみ）

15型液晶ディスプレイ:F15T81(A)がセットのモデルの場合は、添付のリモコン用受信ユニットを接続します。

リモコン用受信ユニット

リモコンを使うときは、リモコン用受信ユニットをパソコン本体の上など赤外線をさえぎるものがない場所に置いてください。

**リモコン用受信ユニットをパソコン本体の上に置くときは、パソコン本体の通風孔をふさがないようにしてください。**

# ディスプレイを接続する F23W11(A)

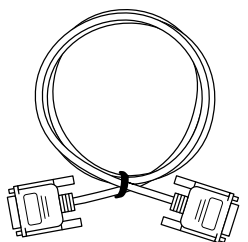
**ポイント**

- ディスプレイの型番によって手順が異なるので要注意
- F17W91 なら、26 ページへ
- F19R31 なら、30 ページへ
- F17R41 なら、35 ページへ
- F17R31/F17R31(W)なら、39ページへ
- F15T81(A)なら、43ページへ

## 1 ディスプレイの型番を確認し、接続用ケーブルを出しておく

このページで説明するのは、次のディスプレイです。

**◆TVチューナ内蔵23型ワイド液晶ディスプレイ:F23W11(A)**

ディスプレイの型番は、ディスプレイ背面に記載されています。

ビデオ信号ケーブル

オーディオケーブル

USBケーブル

ケーブルの形状は、モデルによって多少異なります。

## 2 ディスプレイ背面のカバーを外す

## 3 ビデオ信号ケーブルをディスプレイに接続する

このコネクタに接続

台形の金具の長い辺が上

うまく差し込めないときは、プラグの向きを確認してください。無理に押し込むとコネクタを壊してしまうおそれがあります。向きを合わせたら、奥までしっかり差し込んでください。

2つとも最後まで回して、しっかり固定する

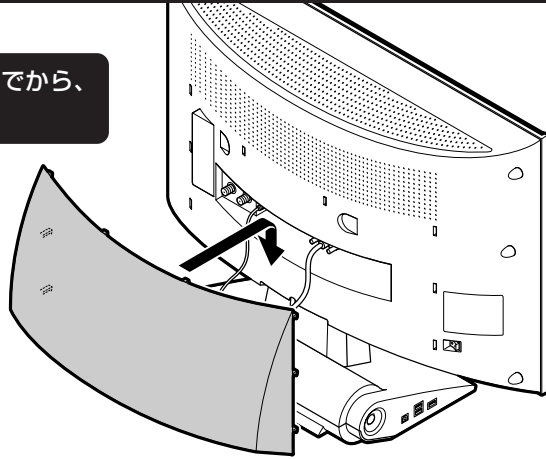
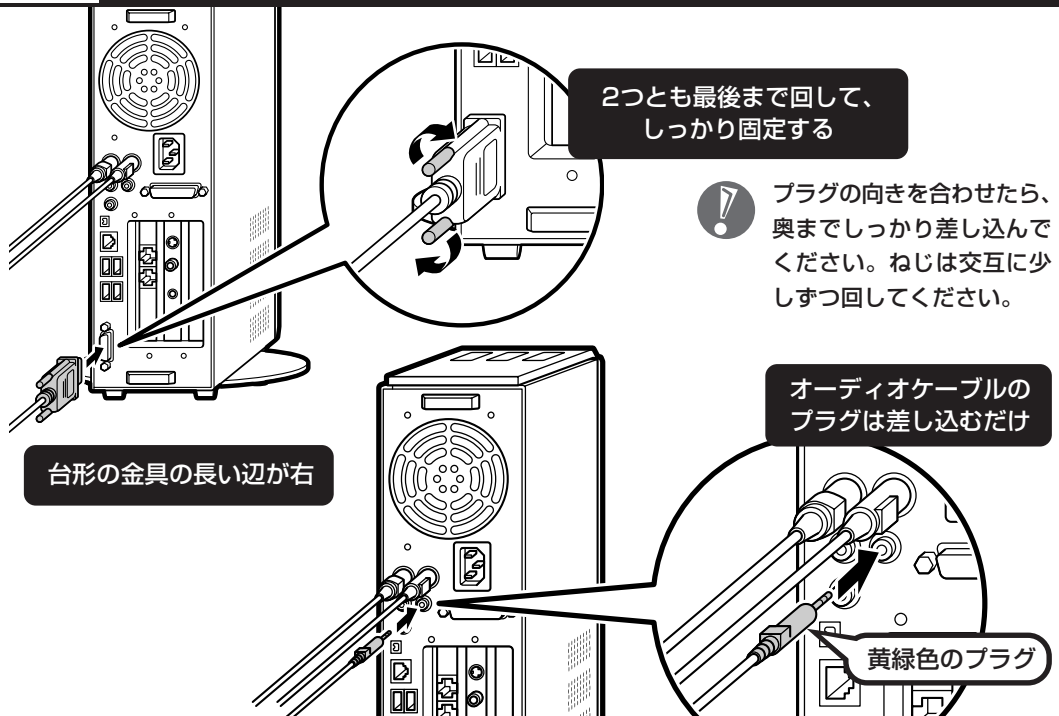
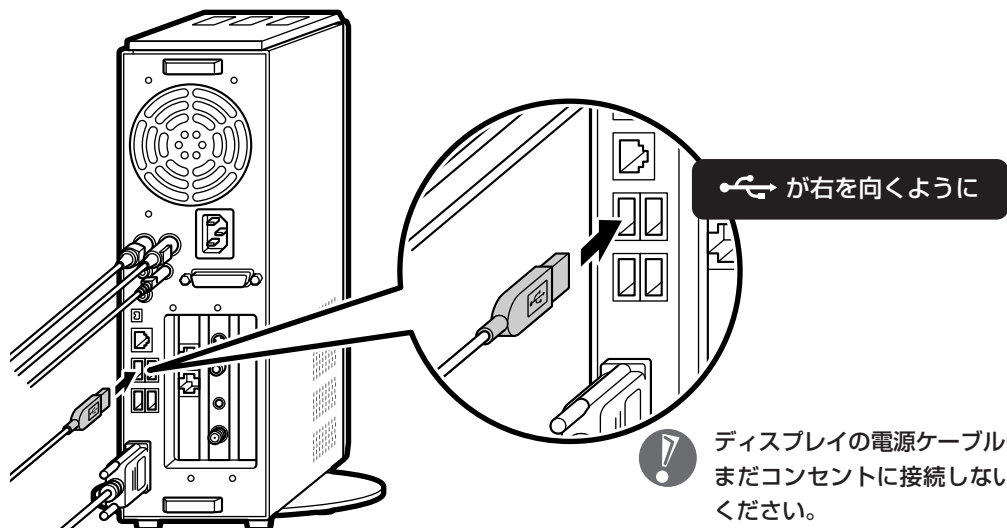
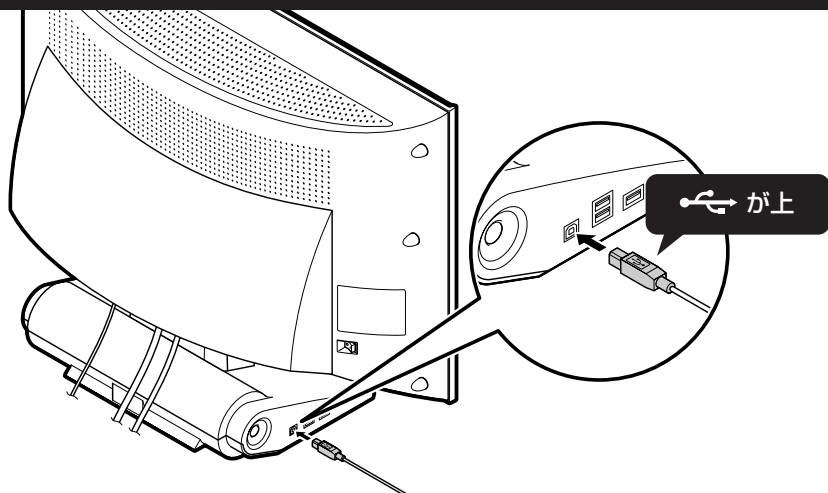
ねじを締めるときは、交互に少しずつ回してください。片方だけ締めようとすると、プラグが斜めに入り込んでしまい、接続不良になることがあります。

## 4 オーディオケーブルをディスプレイに接続する

## 5 ディスプレイ背面のカバーを元に戻す

8つの穴にツメを差し込んでから、
下に押し下げる

## 6 ビデオ信号ケーブルとオーディオケーブルをパソコンに接続する

プラグの向きを合わせたら、奥までしっかり差し込んでください。ねじは交互に少しずつ回してください。

## 7 USBケーブルを接続する

ディスプレイの電源ケーブルは、まだコンセントに接続しないでください。

「電源ケーブルを接続する」（46 ページ）に進む

# ディスプレイを接続する F17W91

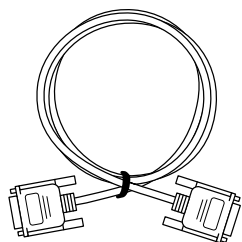
**ポイント**

- ディスプレイの型番によって手順が異なるので要注意
- F23W11(A)なら、22ページへ
- F19R31なら、30ページへ
- F17R41 なら、35 ページへ
- F17R31/F17R31(W)なら、39ページへ
- F15T81(A)なら、43ページへ

## 1 ディスプレイの型番を確認し、接続用ケーブルを出しておく

このページで説明するのは、次のディスプレイです。

◆ 17 型ワイド液晶ディスプレイ：F17W91

ディスプレイの型番は、ディスプレイ背面に記載されています。

ビデオ信号ケーブル

オーディオケーブル

ケーブルの形状は、モデルによって多少異なります。

## 2 ディスプレイ背面のカバーを外す

上にずらしてから手前に引く

## 3 ビデオ信号ケーブルをディスプレイに接続する

このコネクタに接続

台形の金具の長い辺が上

うまく差し込めないときは、プラグの向きを確認してください。無理に押し込むとコネクタを壊してしまうおそれがあります。向きを合わせたら、奥までしっかり差し込んでください。

2つとも最後まで回して、しっかり固定する

ねじを締めるときは、交互に少しずつ回してください。片方だけ締めようとすると、プラグが斜めに入り込んでしまい、接続不良になることがあります。

## 4 オーディオケーブルをディスプレイに接続する

## 5 ディスプレイ背面のカバーを元に戻す

## 6 ビデオ信号ケーブルとオーディオケーブルをパソコンに接続する

2つとも最後まで回して、
しっかり固定する

プラグの向きを合わせたら、奥までしっかり差し込んでください。ねじは交互に少しずつ回してください。

台形の金具の長い辺が右

オーディオケーブルの
プラグは差し込むだけ

黄緑色のプラグ

## 7 ディスプレイ背面から出ているUSBケーブルをパソコンに接続する

ディスプレイの電源ケーブルは、まだコンセントに接続しないでください。

「電源ケーブルを接続する」（46 ページ）に進む

# ディスプレイを接続する F19R31

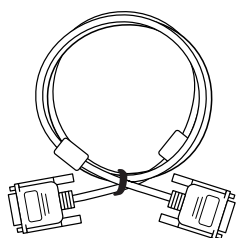
**ポイント**

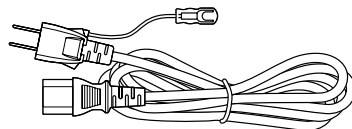
- ディスプレイの型番によって手順が異なるので要注意
- F23W11(A)なら、22ページへ
- F17W91なら、26ページへ
- F17R41なら、35ページへ
- F17R31/F17R31(W)なら、39ページへ
- F15T81(A)なら、43ページへ

## 1 ディスプレイの型番を確認し、接続用ケーブルを出しておく

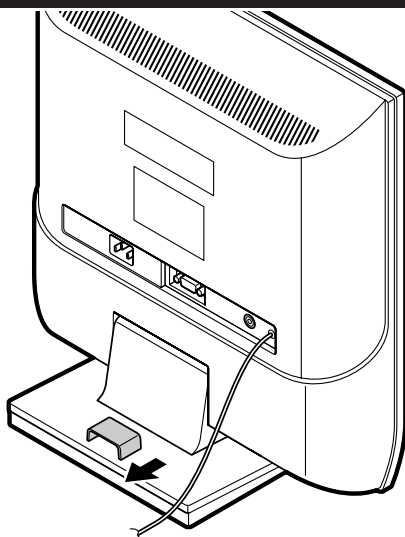
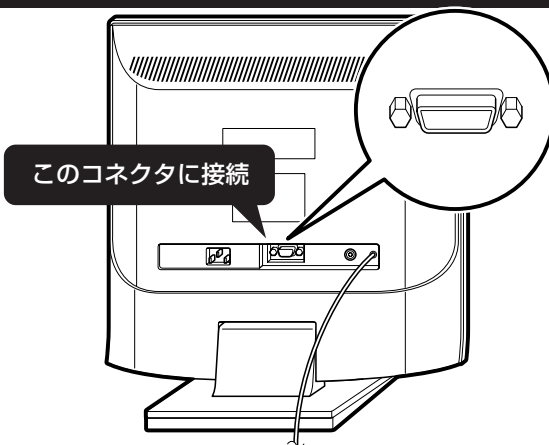
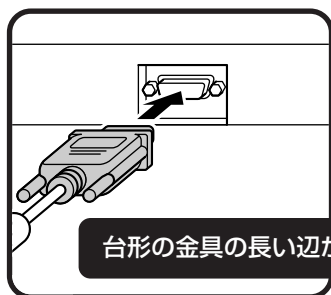
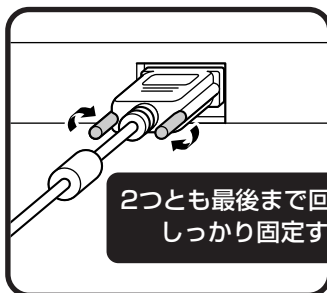
**このページで説明するのは、次のディスプレイです。**

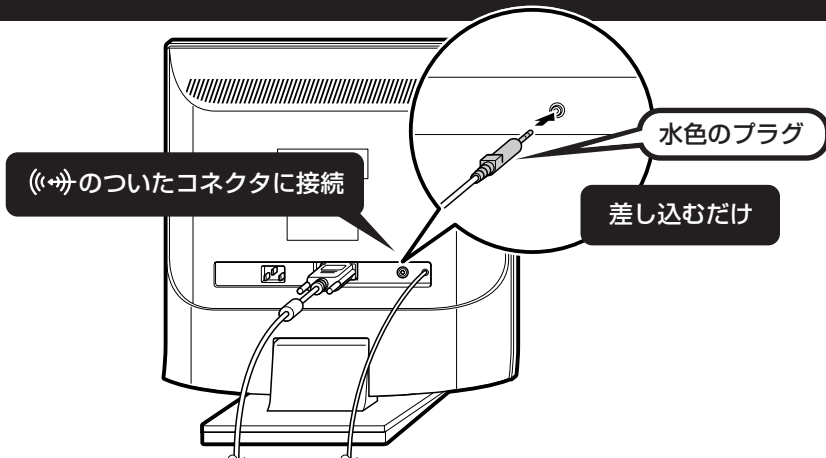
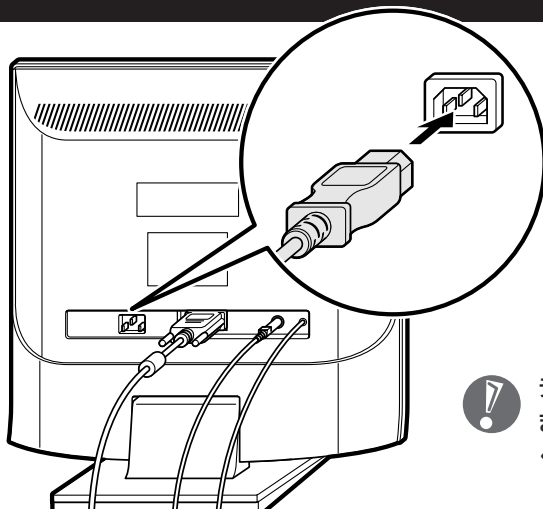
◆ 19型液晶ディスプレイ：F19R31

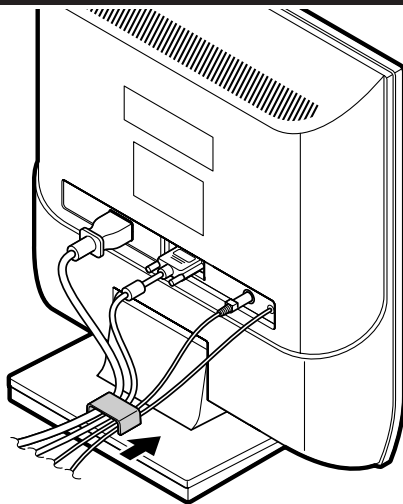
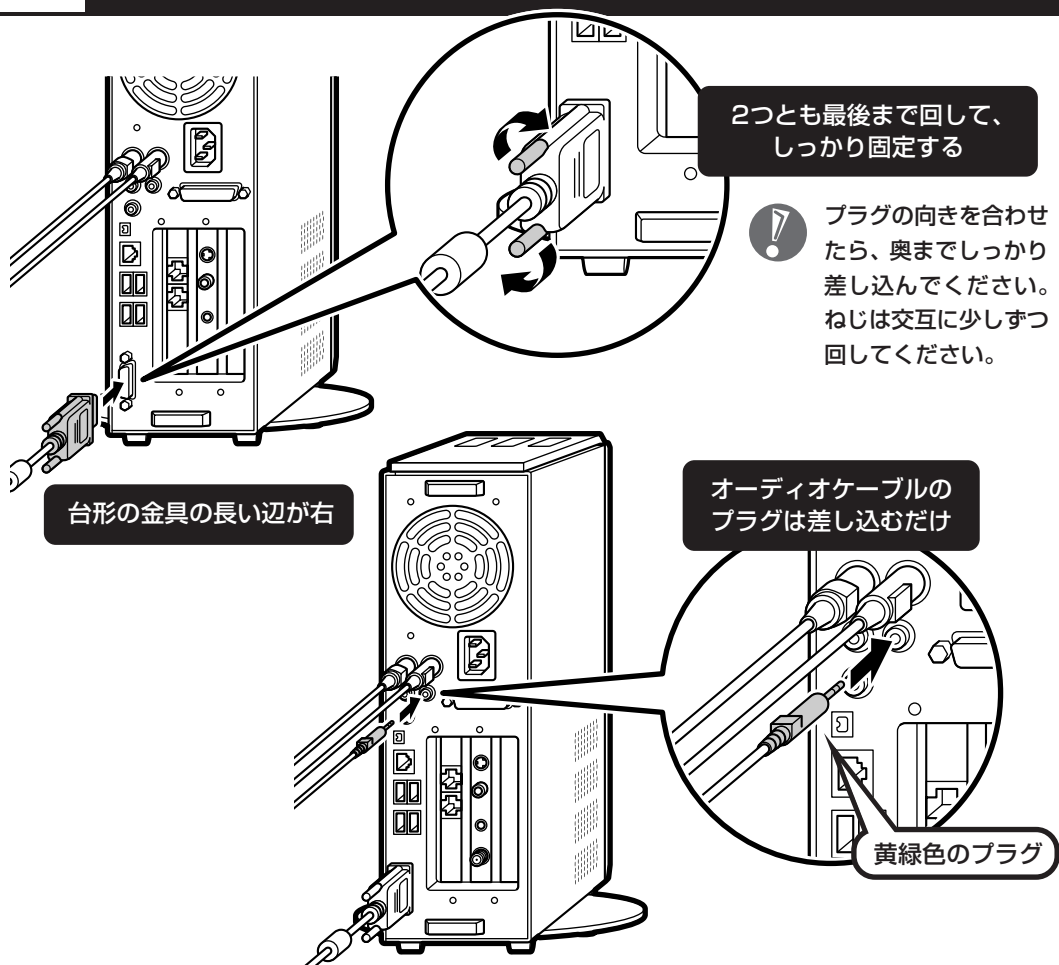
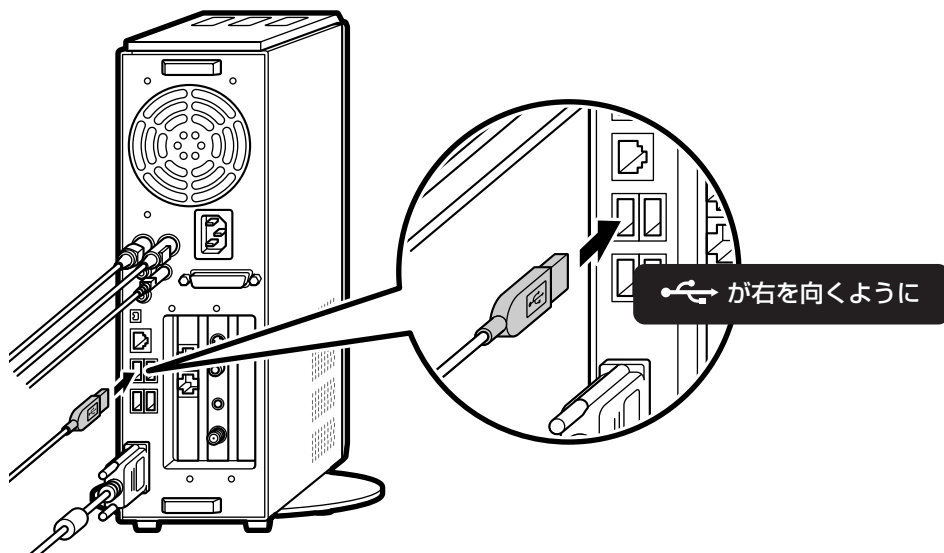
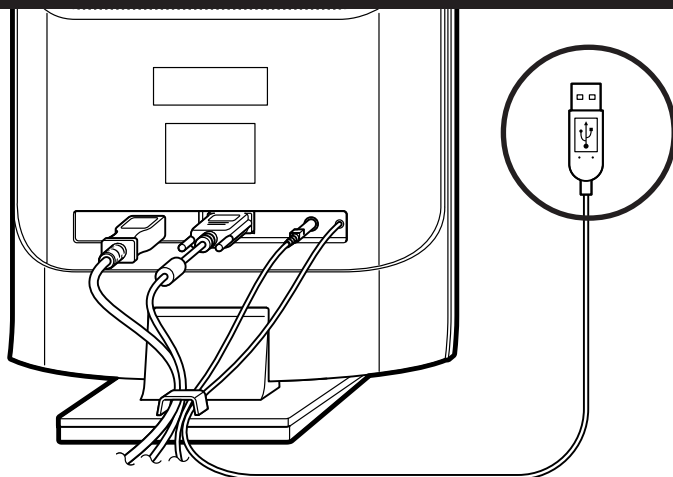
ディスプレイの型番は、ディスプレイ背面に記載されています。

ビデオ信号ケーブル

オーディオケーブル

電源ケーブル

ケーブルの形状は、モデルによって多少異なります。

## 2 ディスプレイ背面のケーブルカバーを外す

## 3 ビデオ信号ケーブルをディスプレイに接続する

うまく差し込めないときは、プラグの向きを確認してください。無理に押し込むとコネクタを壊してしまうおそれがあります。向きを合わせたら、奥までしっかり差し込んでください。

ねじを締めるときは、交互に少しずつ回してください。片方だけ締めようとすると、プラグが斜めに入り込んでしまい、接続不良になることがあります。

## 4 オーディオケーブルをディスプレイに接続する

## 5 電源ケーブルをディスプレイに接続する

ディスプレイの電源ケーブルは、まだコンセントに接続しないでください。

## 6 ケーブル類をまとめてカバーに通し、カバーを元に戻す

## 7 ビデオ信号ケーブルとオーディオケーブルをパソコンに接続する

## 8 ディスプレイ背面から出ているUSBケーブルをパソコンに接続する

「電源ケーブルを接続する」(46 ページ) に進む

# ディスプレイを接続する F17R41

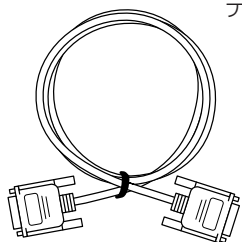
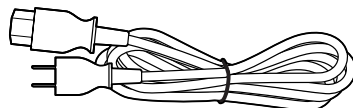
**ポイント**

- ディスプレイの型番によって手順が異なるので要注意
- F23W11(A)なら、22ページへ
- F17W91なら、26ページへ
- F19R31なら、30ページへ
- F17R31/F17R31(W)なら、39ページへ
- F15T81(A)なら、43ページへ

## 1 ディスプレイの型番を確認し、接続用ケーブルを出しておく

**このページで説明するのは、次のディスプレイです。**

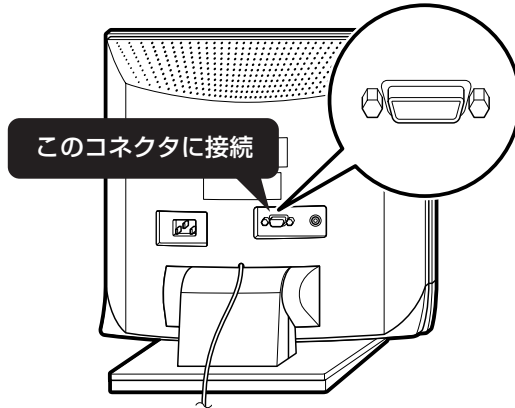
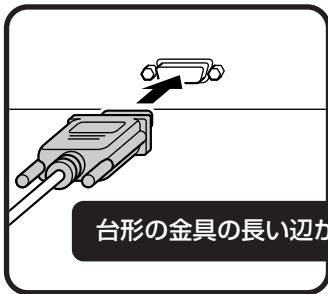
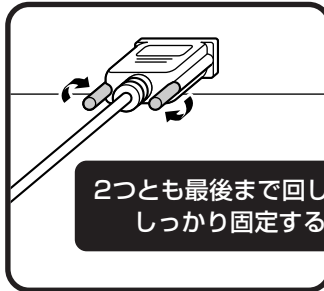
◆ 17型液晶ディスプレイ：F17R41

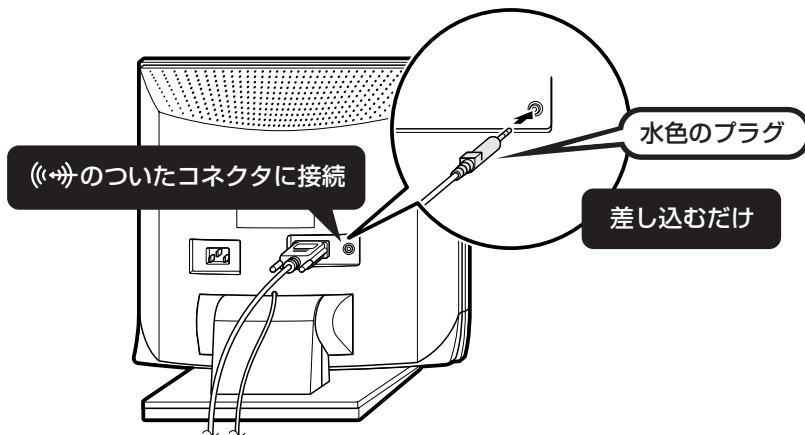
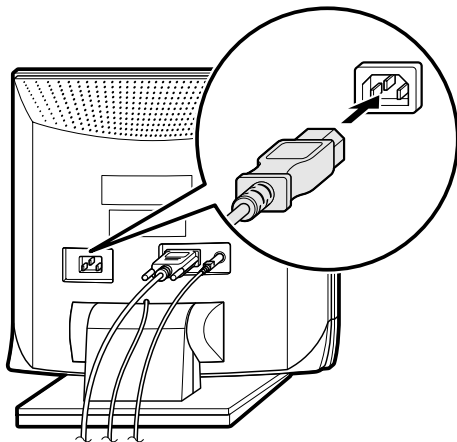
ディスプレイの型番は、ディスプレイ背面に記載されています。

ビデオ信号ケーブル

オーディオケーブル

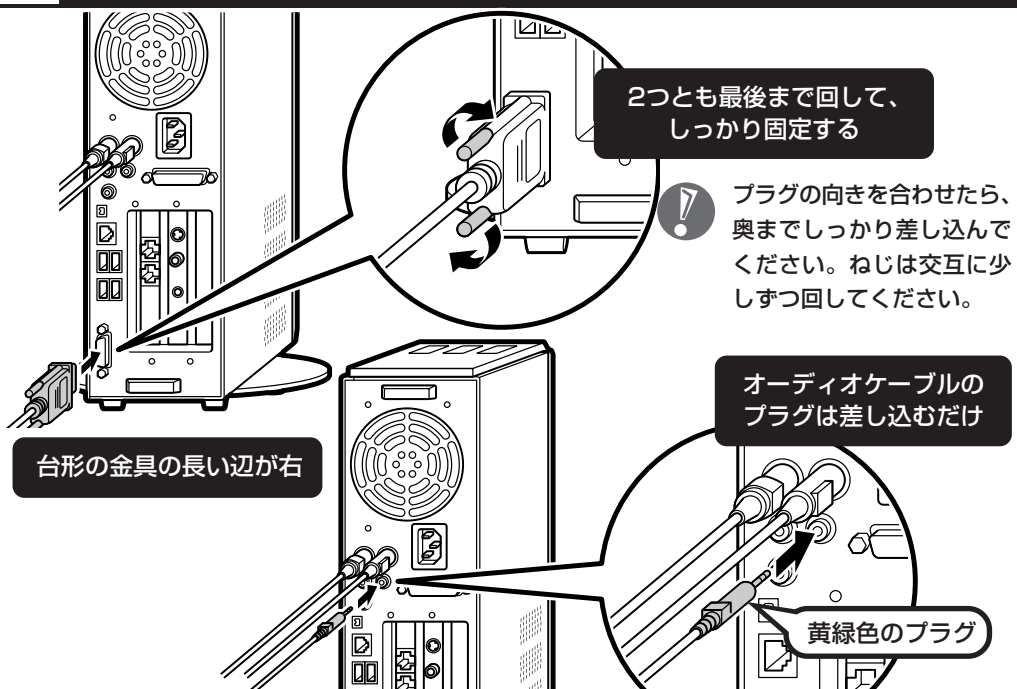
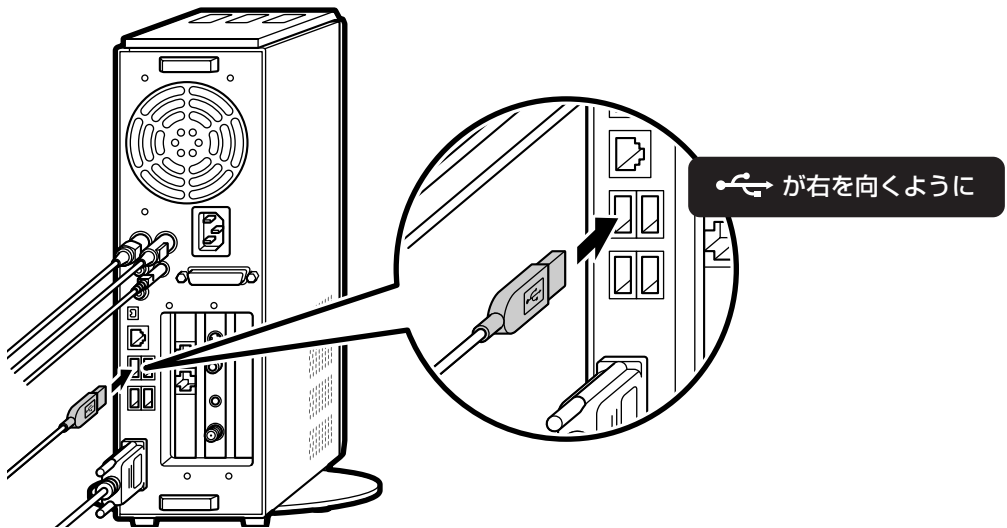
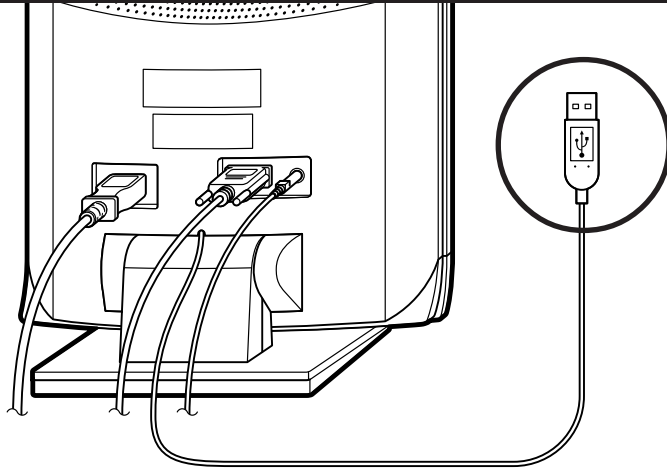
電源ケーブル

ケーブルの形状は、モデルによって多少異なります。

## 2 ビデオ信号ケーブルをディスプレイに接続する

うまく差し込めないときは、プラグの向きを確認してください。無理に押し込むとコネクタを壊してしまうおそれがあります。向きを合わせたら、奥までしっかり差し込んでください。

ねじを締めるときは、交互に少しずつ回してください。片方だけ締めようとすると、プラグが斜めに入り込んでしまい、接続不良になることがあります。

## 3 オーディオケーブルをディスプレイに接続する

## 4 電源ケーブルをディスプレイに接続する

ディスプレイの電源ケーブルは、まだコンセントに接続しないでください。

## 5 ビデオ信号ケーブルとオーディオケーブルをパソコンに接続する

プラグの向きを合わせたら、奥までしっかり差し込んでください。ねじは交互に少しずつ回してください。

## 6 ディスプレイ背面から出ているUSBケーブルをパソコンに接続する

「電源ケーブルを接続する」(46 ページ)に進む

# ディスプレイを接続する F17R31/F17R31(W)

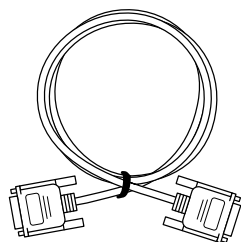
ポイント

- ディスプレイの型番によって手順が異なるので要注意
- F23W11(A)なら、22ページへ
- F17W91 なら、26 ページへ
- F19R31 なら、30 ページへ
- F17R41 なら、35 ページへ
- F15T81(A)なら、43ページへ

## 1 ディスプレイの型番を確認し、接続用ケーブルを出しておく

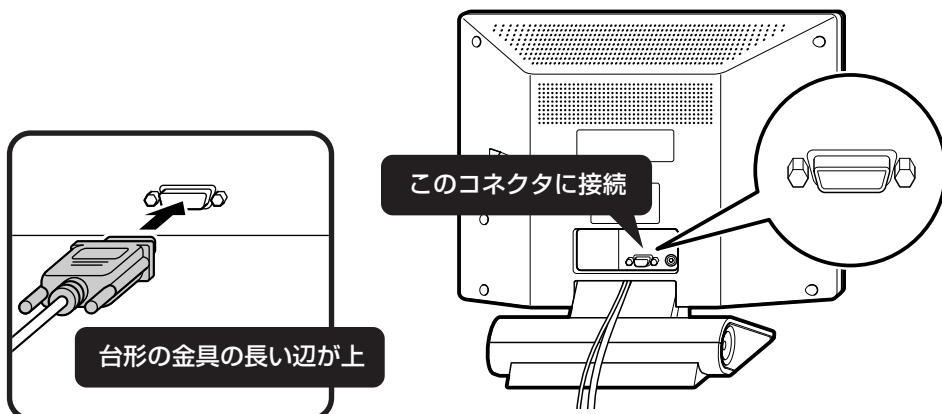
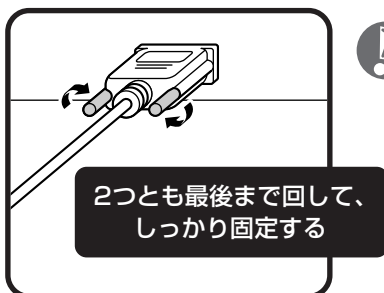
このページで説明するのは、次のディスプレイです。

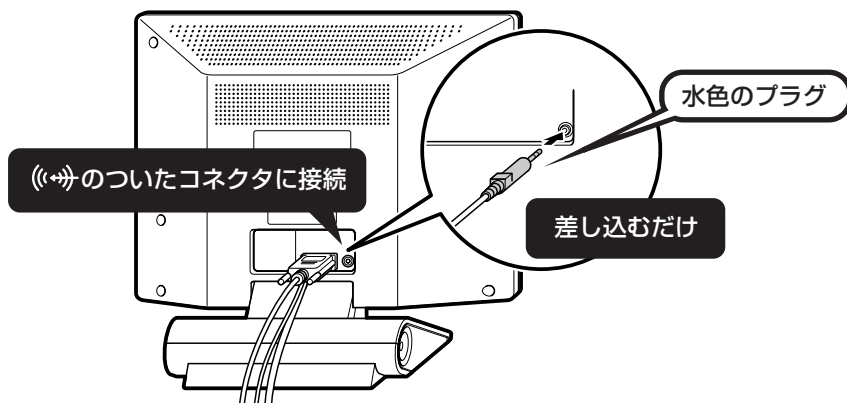
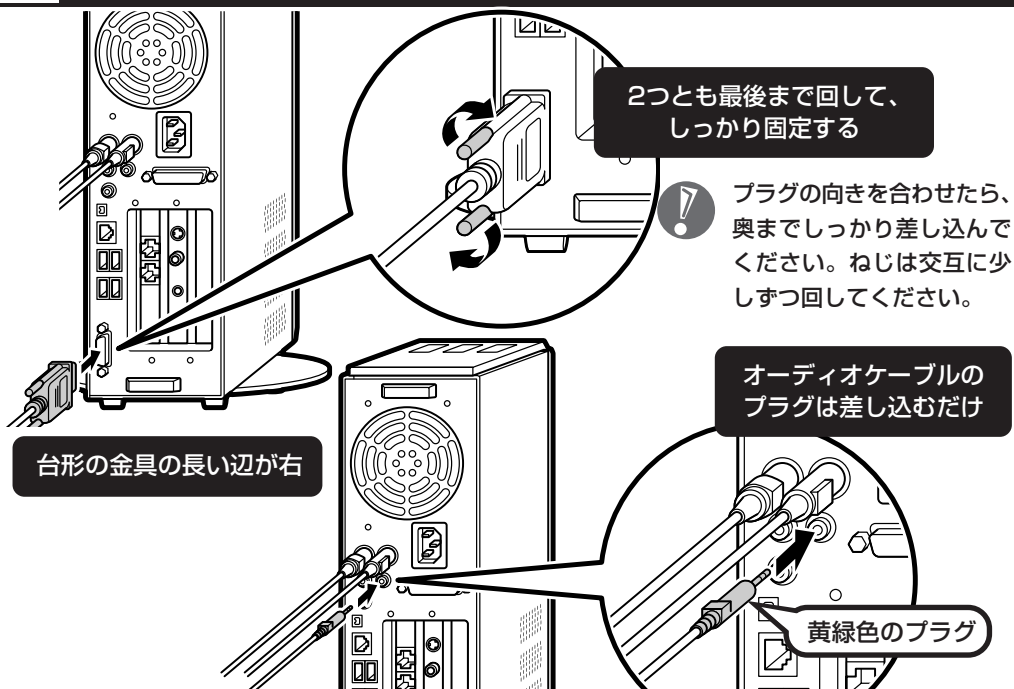
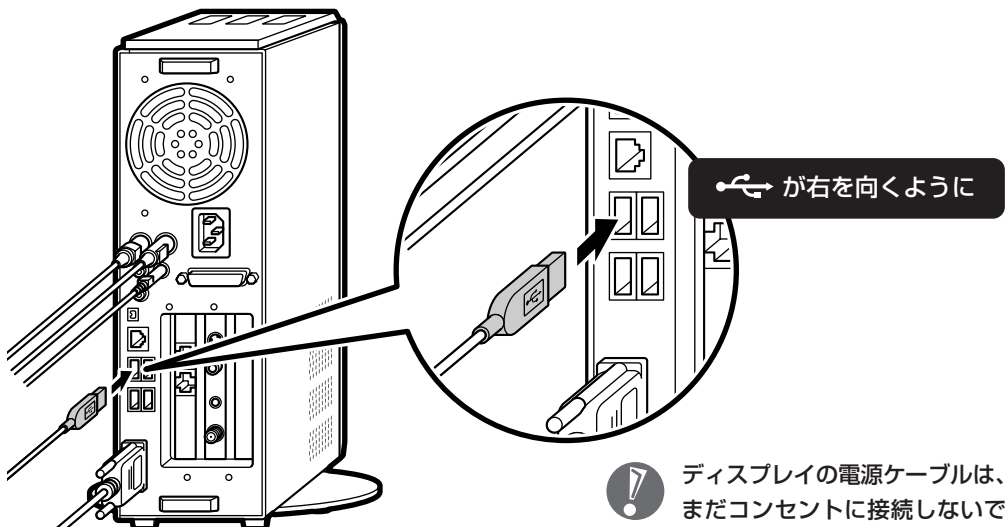
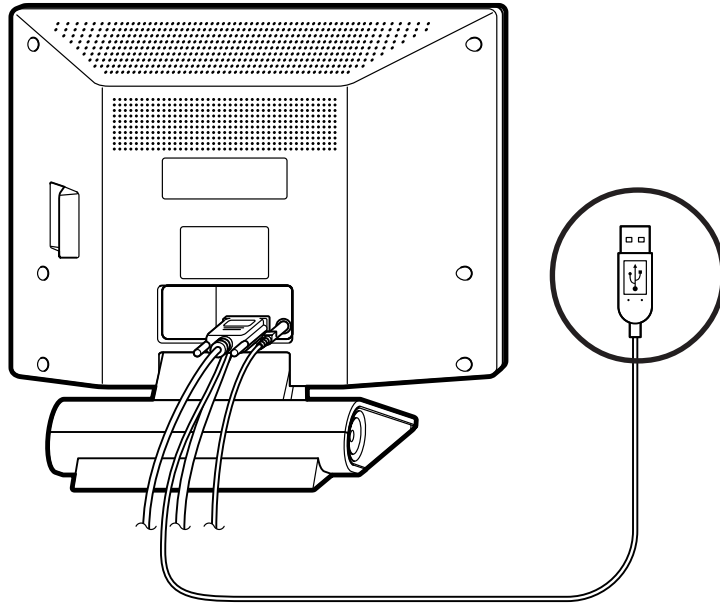
◆ 17 型液晶ディスプレイ：F17R31/F17R31(W)

ディスプレイの型番は、ディスプレイ背面に記載されています。

ビデオ信号ケーブル

オーディオケーブル

ケーブルの形状は、モデルによって多少異なります。

## 2 ビデオ信号ケーブルをディスプレイに接続する

うまく差し込めないときは、プラグの向きを確認してください。無理に押し込むとコネクタを壊してしまうおそれがあります。向きを合わせたら、奥までしっかり差し込んでください。

ねじを締めるときは、交互に少しずつ回してください。片方だけ締めようとすると、プラグが斜めに入り込んでしまい、接続不良になることがあります。

## 3 オーディオケーブルをディスプレイに接続する

# 4 ビデオ信号ケーブルとオーディオケーブルをパソコンに接続する

## 5 ディスプレイ背面から出ているUSBケーブルをパソコンに接続する

「電源ケーブルを接続する」(46 ページ) に進む

# ディスプレイを接続する F15T81(A)

**ポイント**

- ディスプレイの型番によって手順が異なるので要注意
- F23W11(A)なら、22ページへ
- F17W91なら、26ページへ
- F19R31なら、30ページへ
- F17R41なら、35ページへ
- F17R31/F17R31(W)なら、39ページへ

## 1 ディスプレイの型番を確認し、接続用ケーブルを出しておく

このページで説明するのは、次のディスプレイです。

◆ 15型液晶ディスプレイ：F15T81(A)

ディスプレイの型番は、ディスプレイ背面に記載されています。

ビデオ信号ケーブル

オーディオケーブル

ケーブルの形状は、モデルによって多少異なります。

## 2 ビデオ信号ケーブルをディスプレイに接続する

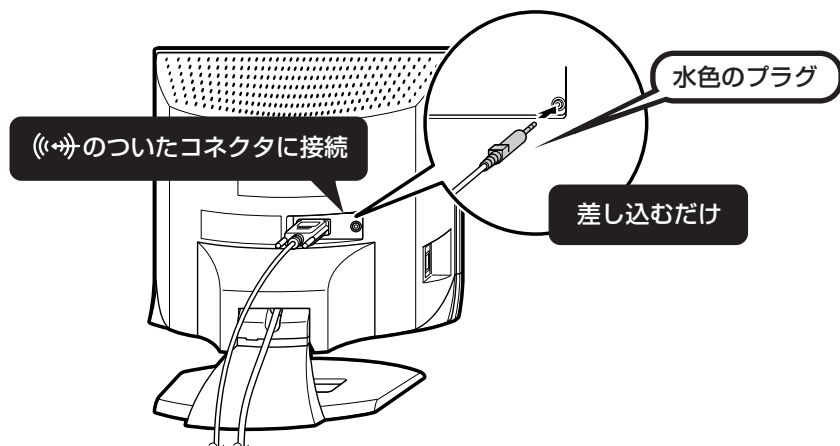
うまく差し込めないときは、プラグの向きを確認してください。無理に押し込むとコネクタを壊してしまうおそれがあります。向きを合わせたら、奥までしっかり差し込んでください。

ねじを締めるときは、交互に少しずつ回してください。片方だけ締めようとすると、プラグが斜めに入り込んでしまい、接続不良になることがあります。

## 3 オーディオケーブルをディスプレイに接続する

のついたコネクタに接続

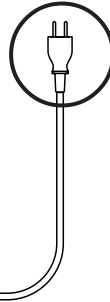
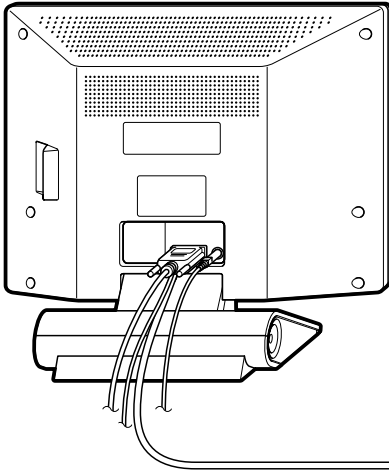
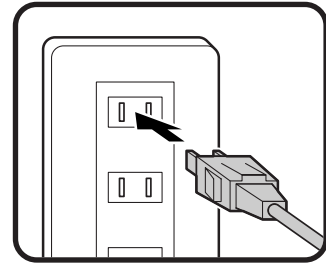
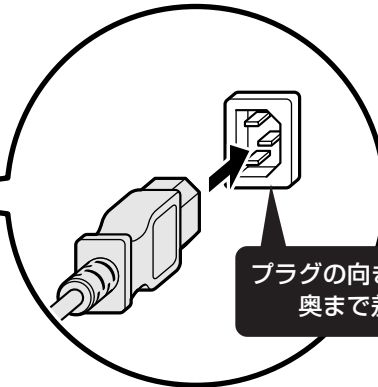
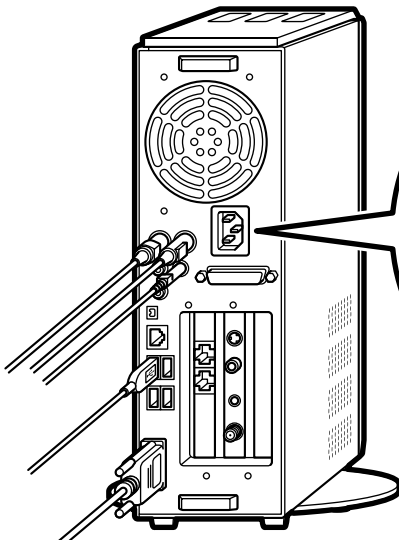
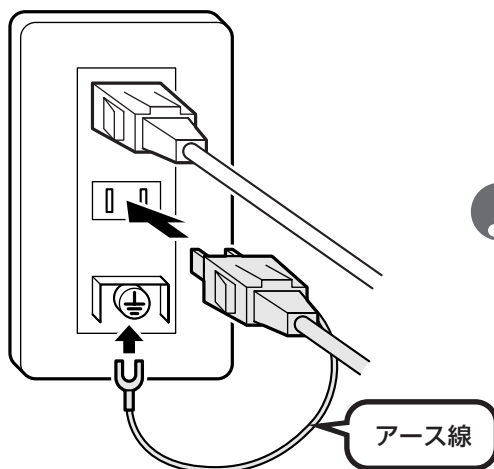
水色のプラグ

差し込むだけ

## 4 ビデオ信号ケーブルとオーディオケーブルを パソコンに接続する

「電源ケーブルを接続する」（46 ページ）に進む

# 電源ケーブルを接続する

**ポイント**
- ディスプレイ、パソコン本体の両方ともつなぐ
- もう一度、全体の接続を見なおす

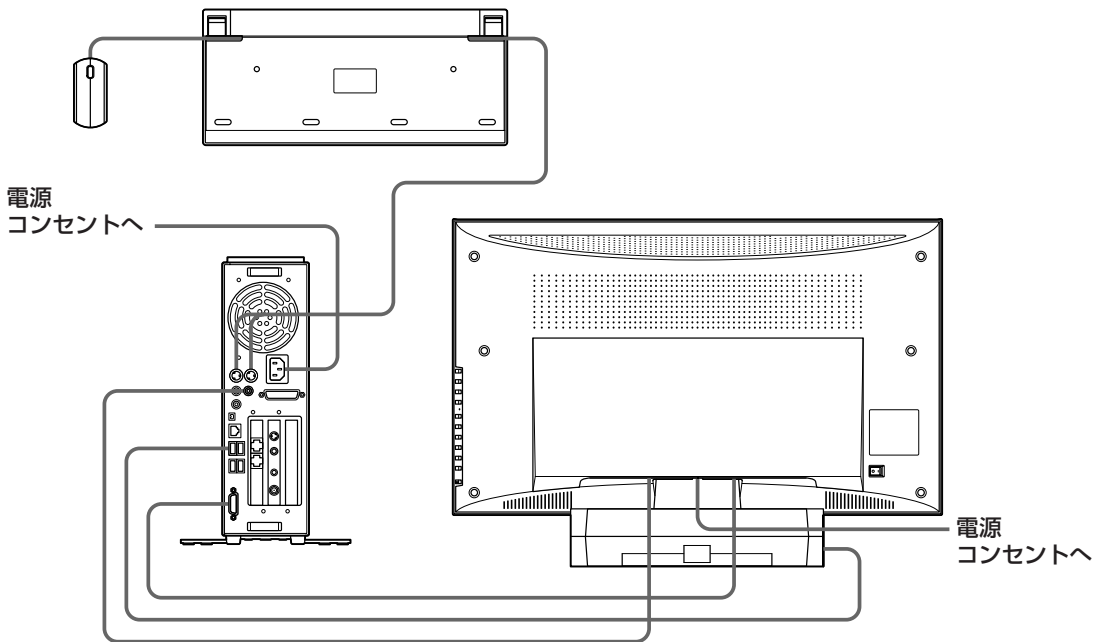
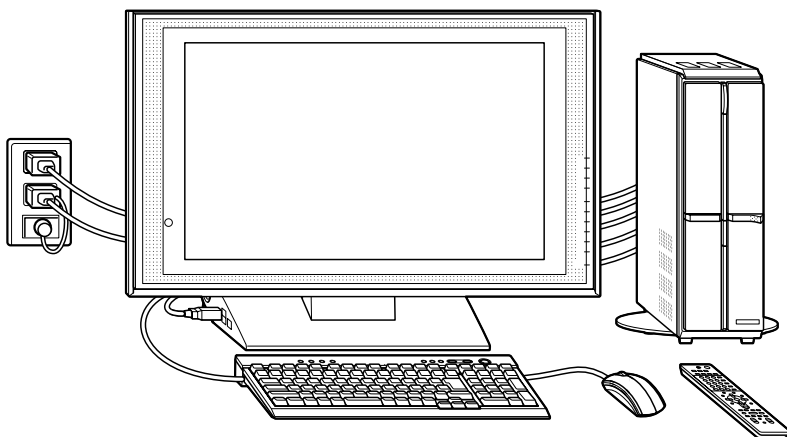
## 1 ディスプレイの電源ケーブルをコンセントに差し込む

- モデルによって、ディスプレイ背面の形状は異なります。
- F19R31の場合は、プラグに付いているアース線を接続してください。

## 2 パソコン本体背面に電源ケーブルを接続する

## 3 もう一方のプラグをコンセントに差し込む

・アース線の端子部分にはキャップが付いています。接続するときに取り外してください。

・電話線用のアース端子には接続しないでください。通話中に雑音が入るおそれがあります。

・アース端子付きのコンセントが利用できないときは、お近くの電器店など電気工事士の資格を持つ人にアース端子付きコンセントの取り付けをご相談ください。

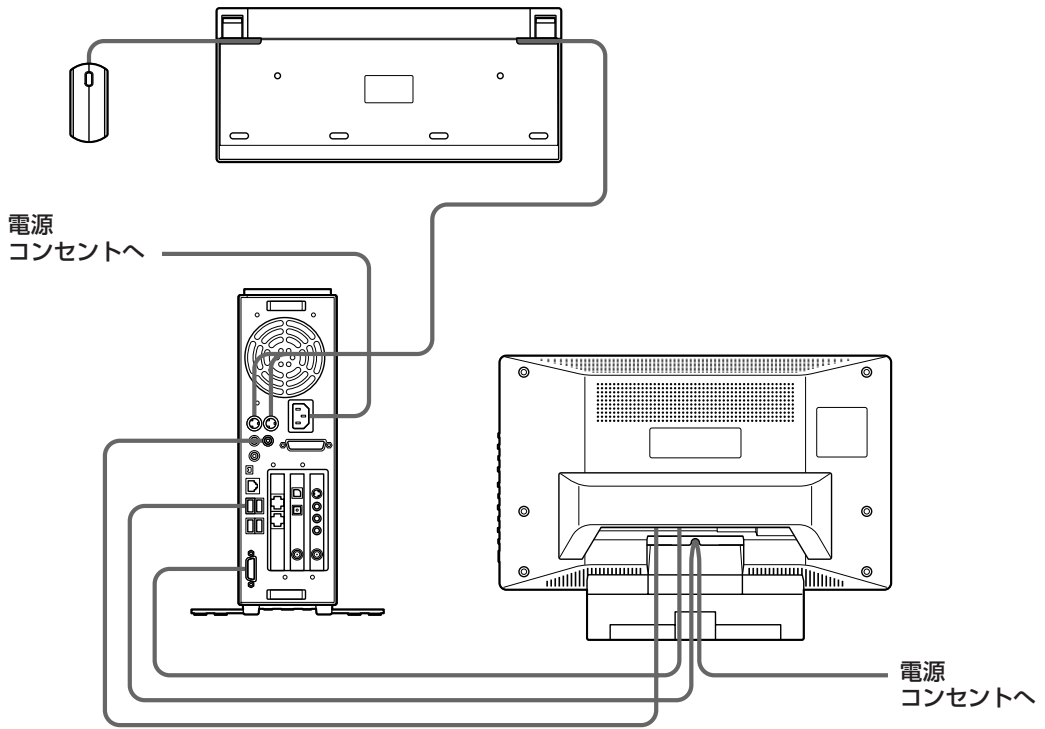
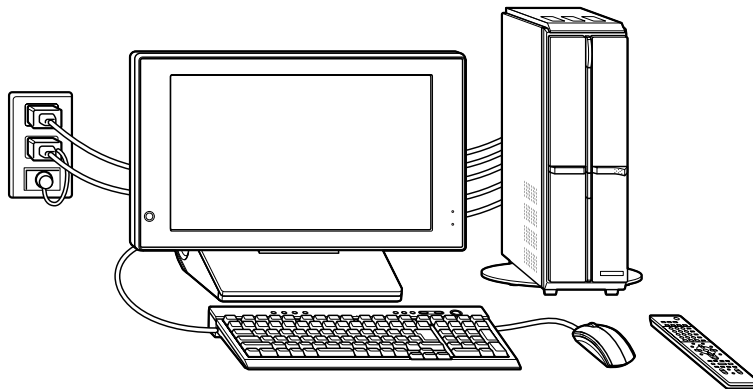
**これで接続は完了です。**

次ページからの接続完成図で確認してください。完成図は、お買い求めのディスプレイのモデルに合ったものをご覧ください。

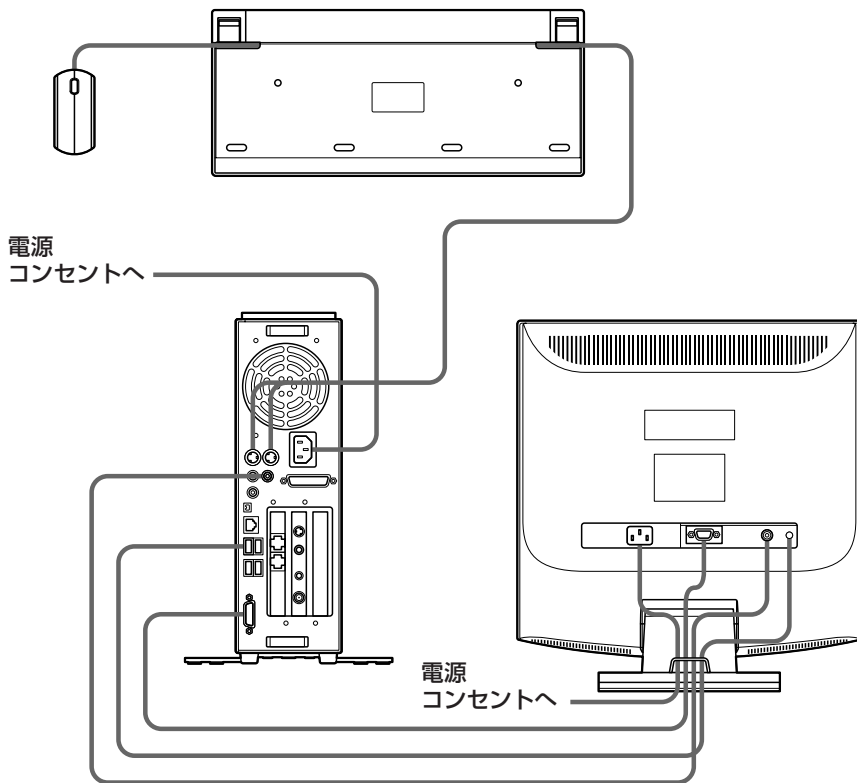
## TVチューナ内蔵23型ワイド:F23W11(A)

接続完成図（前面）

## 17型ワイド:F17W91

### 接続完成図（背面）

電源
コンセントへ

電源
コンセントへ

### 接続完成図（前面）

## 19型:F19R31

### 接続完成図（背面）

### 接続完成図（前面）

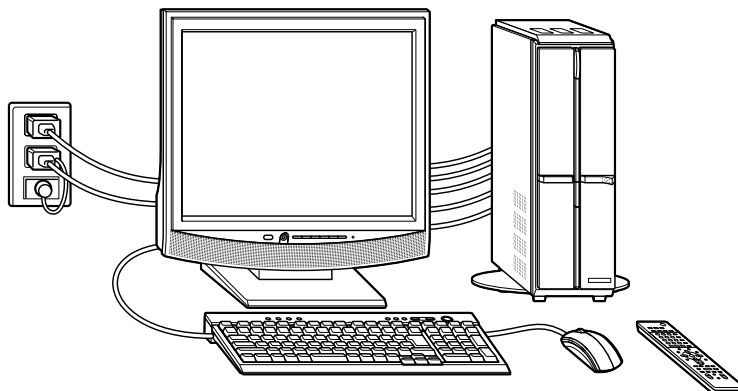
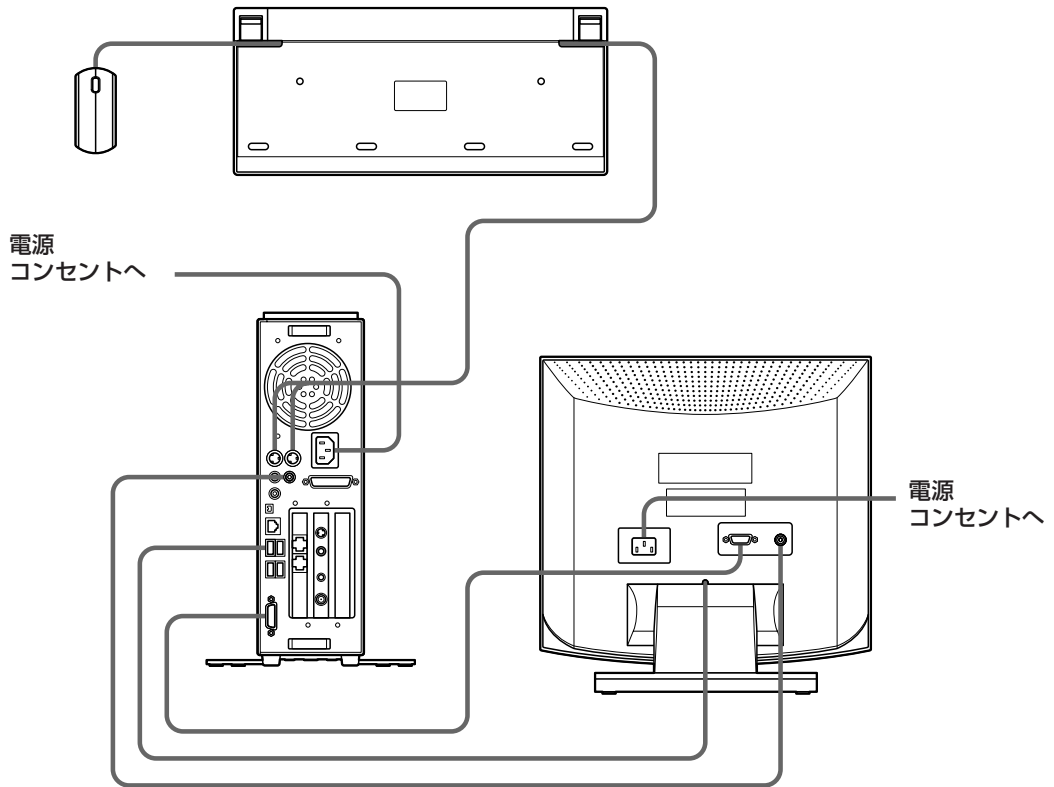
## 17型:F17R41

### 接続完成図（背面）

電源
コンセントへ

電源
コンセントへ

### 接続完成図（前面）

## 17型:F17R31/F17R31(W)

### 接続完成図（背面）

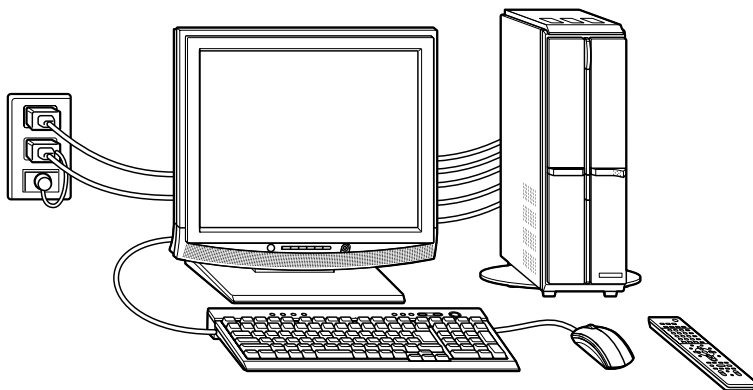
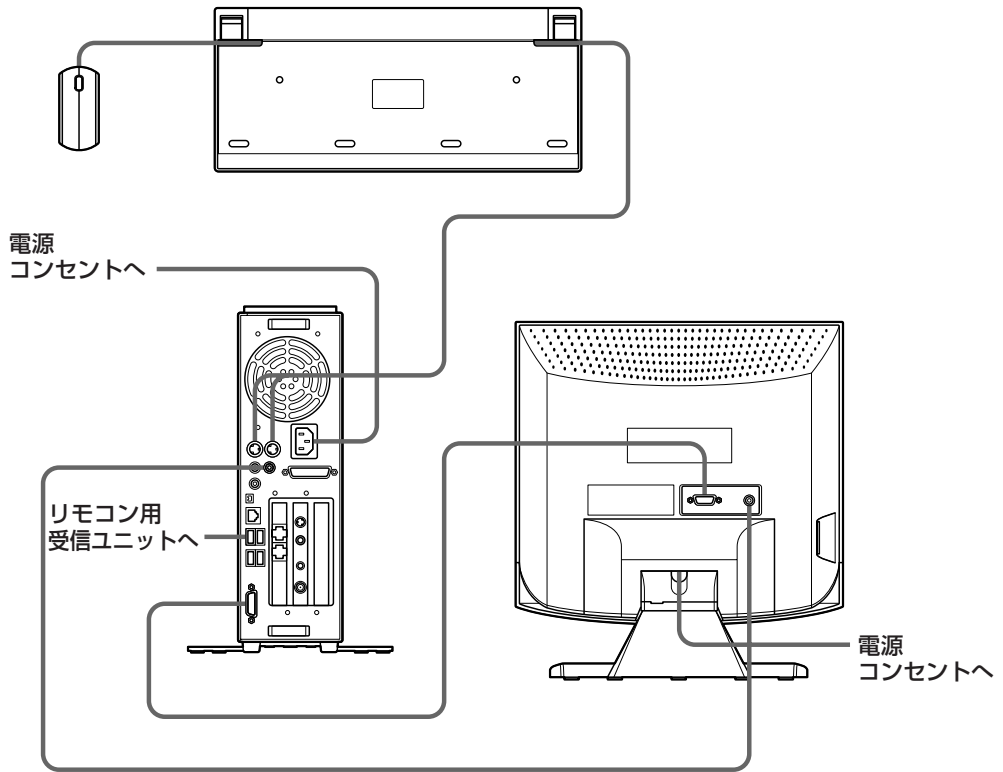
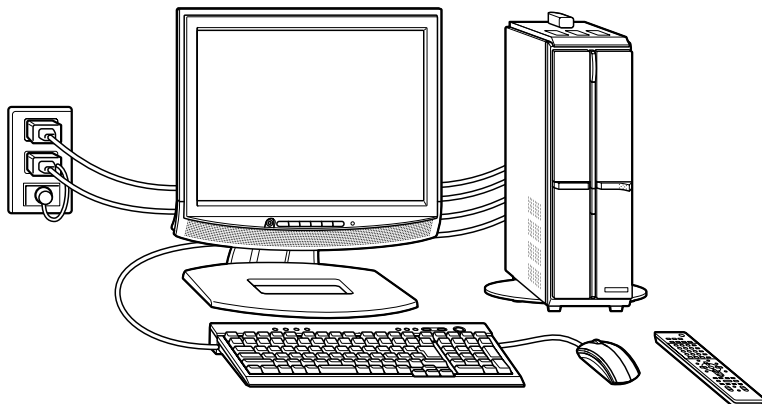
### 接続完成図（前面）

## 15型:F15T81(A)

### 接続完成図（背面）

電源
コンセントへ

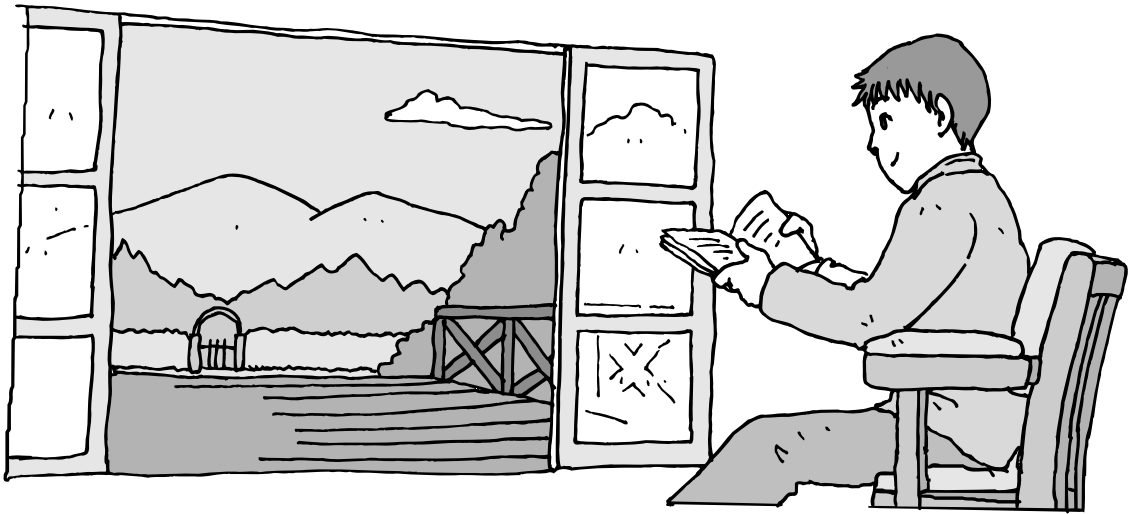
リモコン用
受信ユニットへ

電源
コンセントへ

### 接続完成図（前面）

## インターネット、TVアンテナ、周辺機器などの接続はあとから

ここまでの接続が終わったら、続けて「第３章　セットアップを始める」に進んでください。第３章で説明している作業が終わってからインターネット、TV アンテナ、周辺機器などの接続を行います。

**電源ケーブルなどが人の通る場所にないことを、もう一度確認してください。ケーブルを足にひっかけたりするとパソコンの故障の原因になるだけでなく、思わぬけがをすることもあります。**

第3章

# セットアップを始める

今度は、いよいよパソコンの電源を入れます。最初に電源を入れるときは、「セットアップ作業」といって、自分の名前を登録したりする操作が必要です。このあとの説明をよく読んで、ゆっくり確実に操作してください。

**この章の所要時間：約30分**

# 電源を入れる

**ポイント**

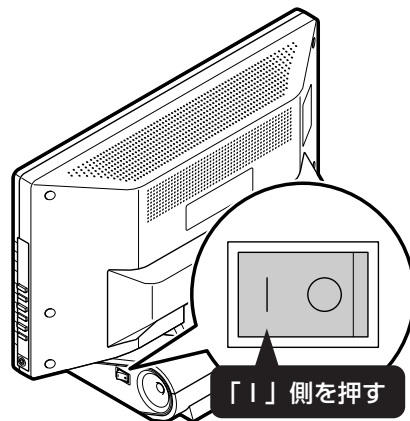
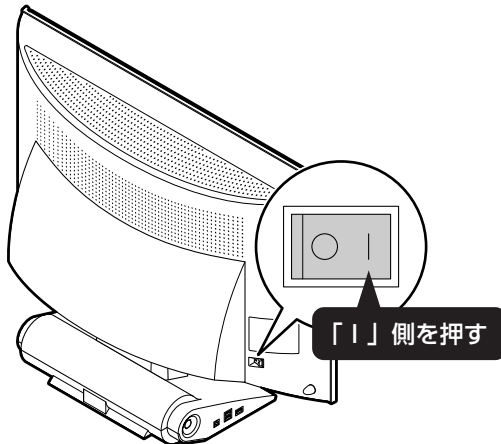
- 電源スイッチの場所を確認しておく
- 先にディスプレイ、次にパソコン本体の順に

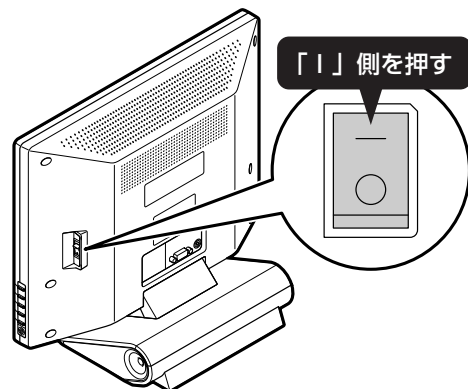
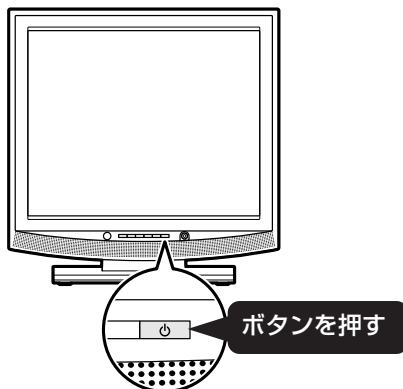
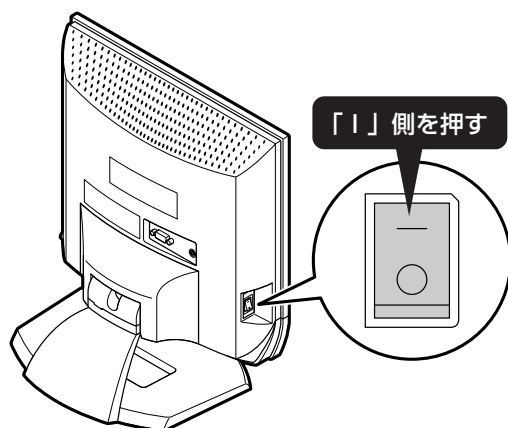
## 1 ディスプレイの電源を入れる

お買い求めのモデルによって、電源スイッチの場所や形が違っています。

**液晶ディスプレイは、非常に高精度な技術で作られていますが、画面の一部にごくわずかな黒い点や、常時点灯する赤、青、緑の点が見えることがあります。また見る角度によっては、色むらや明るさのむらが見えることがあります。これらは、液晶ディスプレイの特性によるものであり、故障ではありません。**

**TVチューナ内蔵23型ワイド:F23W11(A)**

**17型ワイド:F17W91**

**19型:F19R31または**
**17型:F17R41**

**17型:F17R31/F17R31(W)**

**15型:F15T81(A)**

ディスプレイ前面の電源ランプ（⏻）が点灯していない場合は、前面にある電源ボタン（⏻）を押してください。

## 2 パソコン本体の電源を入れる

電源スイッチを押しても、電源ランプが点灯しない場合、電源ケーブルが正しく接続されていないことが考えられます。第2章の「電源ケーブルを接続する」（46ページ）をご覧ください。

## 画面が表示されるまで数分かかることもある

電源スイッチを押してから、次ページの画面が表示されるまでに数分かかることがあります。その間、NECのロゴ（社名のマーク）やWindowsのマークなどが表示されたり、画面が真っ暗になったりしますが、故障ではありません。あわてて電源を切ったりせずに、そのままお待ちください。

## 操作の途中では、絶対に電源を切らない!

セットアップ手順がすべて終わるまでに、約30分かかります。77ページまでの手順が完了する前には、絶対に電源を切らないでください。電源ケーブルをいきなり抜いたりするのも、絶対ダメです。セットアップ手順が完了しないうちに電源を切ると、故障の原因になります。

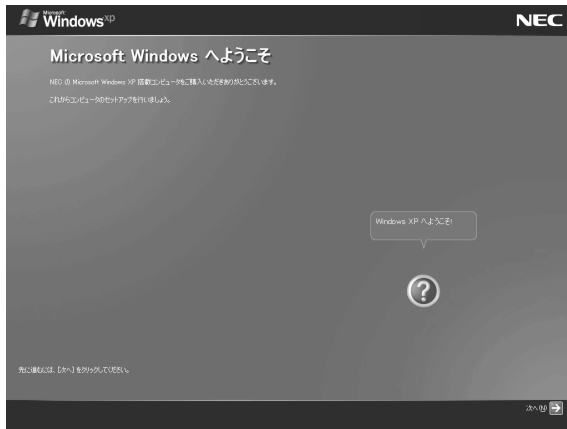
## 停電などのときは

万一、停電などの理由で電源が切れてしまったときは、一度電源ケーブルをコンセントから抜いて1分ほど待ち、再度コンセントに差しなおしてから、電源スイッチを押してください。セットアップの画面が表示されるときは、その画面からセットアップ手順を続けてください。セットアップの画面が表示されないときは、NEC121コンタクトセンターにお問い合わせください。

# では、始めましょう

**ポイント**

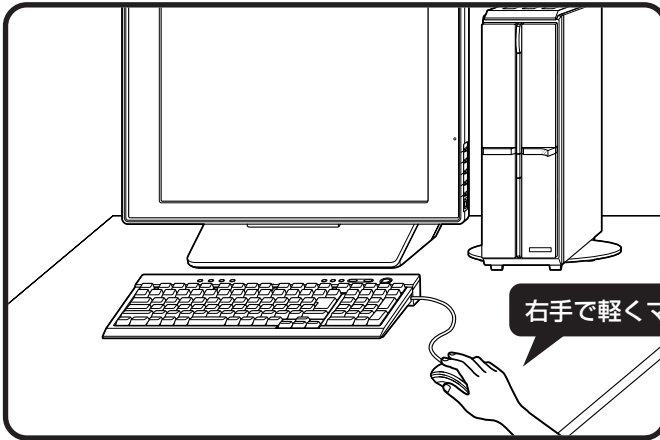
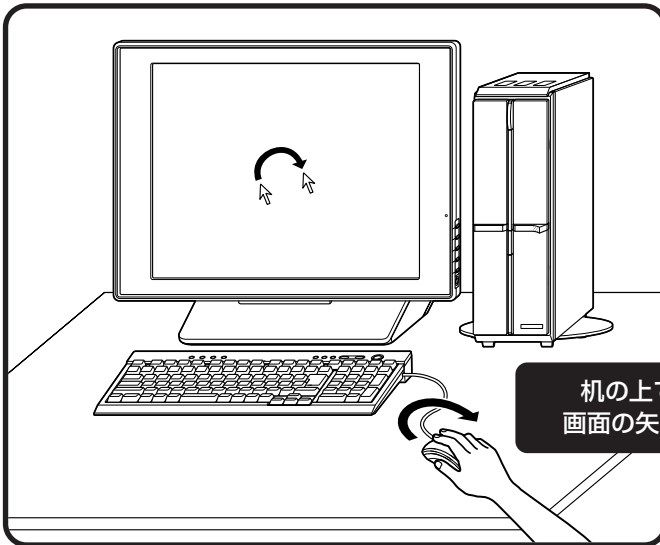
- 画面の矢印を動かしてみる
- 「クリック」という操作を覚える

## 1 セットアップの最初の画面を確認する

「Microsoft Windows へようこそ」という画面が表示されていますね。これがセットアップ作業の出発点です。

### ⌛は、「何もしないで待ってて」の合図

パソコンの内部で何かの処理が進んでいて、操作できないときには、画面に⌛のマークが出ることがあります。このマークが表示されているときや、「しばらくお待ちください」などと文字が表示されているときは、キーを押したり、マウスのボタンを押したりせずに、待っていてください。

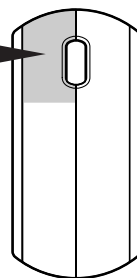
パソコン内部での処理の進み具合を示すグラフが表示されることもあります。その場合も、何も操作せずに待ってください。

## 2 マウスを動かす

このマウスは、マウス底面から出ている赤い光をセンサーが検知して、動きを判断します。濃淡のはっきりした模様や柄のないところ、光沢や反射のないところで使うと、センサーが光を検知しやすく、快適に動きます。

マウスを動かすと、その動きに合わせて画面の矢印が動きます。マウスを動かすときは、マウスの前後左右に10cm程度のスペースをあけるとよいでしょう。肩の力を抜き、手首だけで動かすことがコツです。

まだ、マウスのボタンを押さないでください。

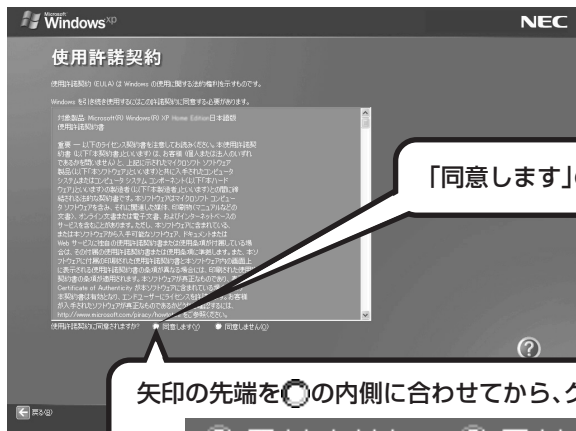
## 3 画面内の右下を見る

「次へ」の［→］に、マウスの矢印（マウスポインタ）を合わせてマウスの左ボタンを押すと、画面の表示が切り替わって「使用許諾契約」と書かれた画面になります。

### クリック

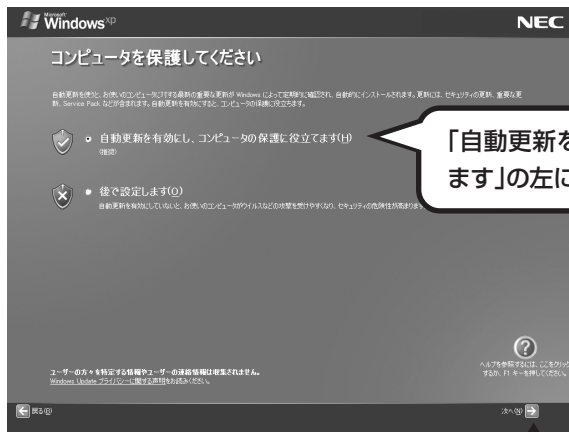
このような操作で、手順を次に進めたり、次のページを表示したりすることができます。
画面の絵や文字などに矢印を合わせてマウスの左ボタンを１回押す操作を「クリック」と呼びます。パソコンを使うときの一番基本的な操作なので、覚えてくださいね。

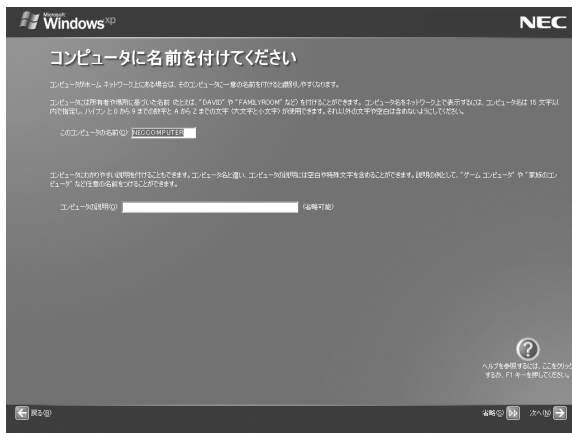
# 画面を見ながら手順を進める

**ポイント**
- 画面に書かれたことを読みながら
- 指示にしたがってクリック

## 1 使用許諾契約に同意する

これで、使用許諾契約に同意することになります。「同意します」の左が◯から◉に変わらないときは、マウスの矢印がうまく合っていなかったので、やりなおしてください。

**「使用許諾契約」とは、このパソコンに入っているソフトを違法にコピーして他人に渡したりしないという約束をしていただくことです。この契約に同意していただけない場合は、パソコンを使うことができません。画面に表示されている契約文の続きを読むには、文書表示欄の右下にある▼をクリックします。**

## 2 コンピュータを保護する設定をする

Windowsがいつも最新の状態になるように、インターネット経由で定期的に更新情報が確認され、自動的にインストールされるようになります。

## 3 次の画面に進む

このまま、をクリックする

・キーボードの操作に慣れていないかたは、名前を付けずにこのまま次に進んでかまいません。

・キーボードを使った文字入力に慣れている場合、半角英数文字でコンピュータの名前を入力してください。適当な名前を思いつかなければ、「VALUESTAR」とするとよいでしょう。すでに何台かパソコンをお持ちの場合、「PC1」、「PC2」のように数字で区別してもかまいません。

・コンピュータの名前はセットアップが終わってから変更することもできます。

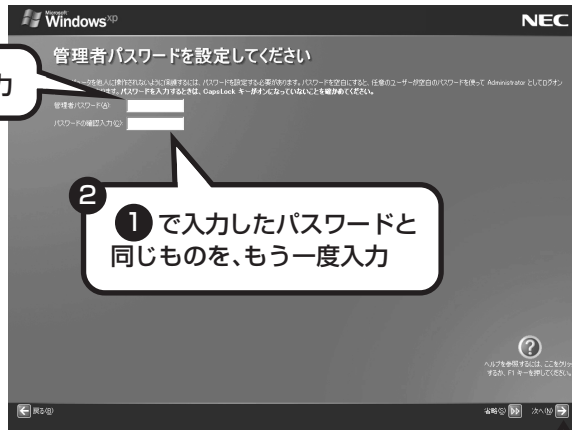
**次の文字列は、パソコンのシステムですでに使われているため、入力しないでください。**
CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ～ COM9、LPT1 ～ LPT9

**Windows XP Home Editionモデルの場合**

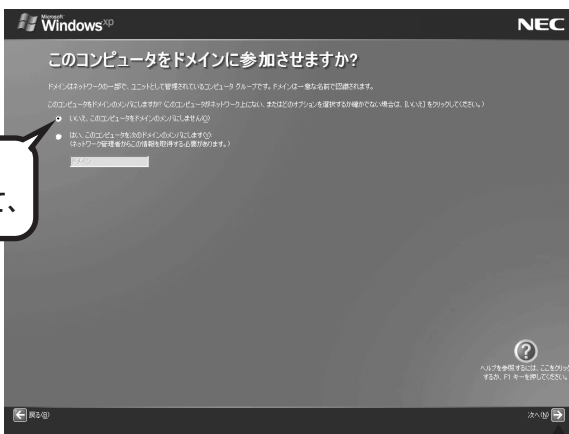
67 ページに進んでセットアップ作業を進めてください。

**Windows XP Professionalモデルの場合**

次ページへ進んで作業を進めてください。

# 4 管理者パスワードを設定する（Windows XP Professionalモデルのみ）

・入力したパスワードは「●●●」のように表示されます。これは、入力したパスワードが他人に見られてもわからないようにするためです。

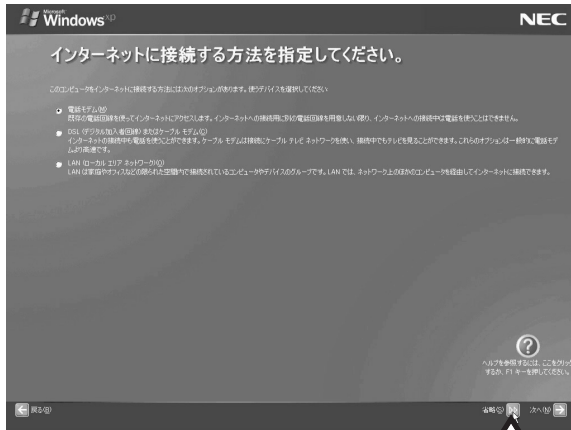
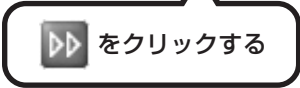
・覚えやすく、忘れにくいパスワードを決めてください。大文字、小文字も入力したとおりに区別されます。

## 5 ドメインに参加させないようにして、次に進む（Windows XP Professionalモデルのみ）

・上の画面が表示されたときはコンピュータをドメインに参加させずにセットアップ作業を進めてください。

・上の画面が表示されずに次ページの画面が表示されることもあります。その場合、次ページの説明にしたがって進めてください。

・必要なら、セットアップ作業が終わってからドメインに参加するように設定することができます。「ドメイン」とは、企業や学校などがまとまってネットワークを管理するときのグループを意味しています。詳しくは、企業や学校などのネットワーク管理者におたずねください。

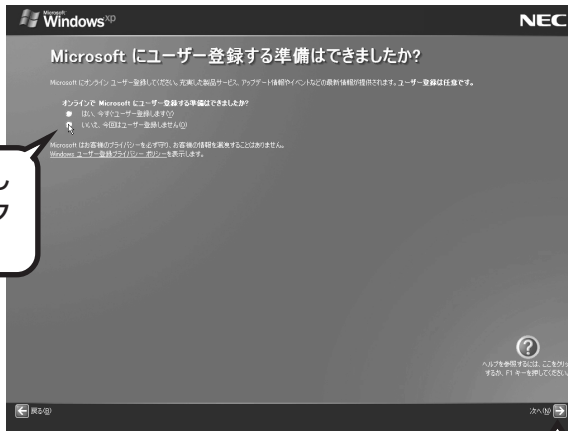
# 6 インターネットの接続方法を省略する

下の画面がどちらも表示されずに次ページの画面が表示された場合、次ページの説明にしたがって進めてください。

インターネットへの接続は、セットアップ作業が終わってから別に設定します。ここでは、そのまま をクリックしてください。

をクリックする

「インターネット接続が選択されませんでした」と表示されたときも、 をクリックしてください。

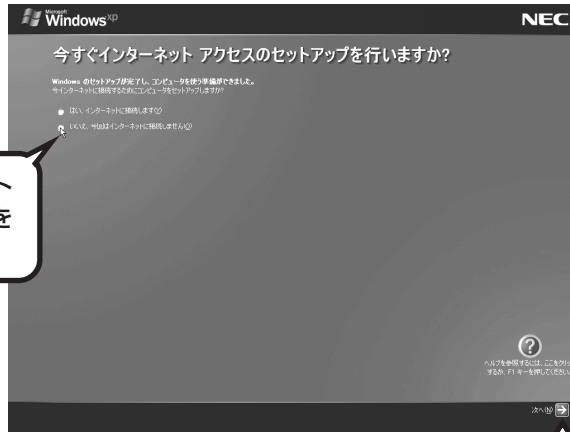
をクリックする

## 7 ユーザー登録せずに次へ進む

「いいえ、今回はユーザー登録しません」の左にある◯をクリックして◉に変えてから、

・「今すぐインターネットアクセスのセットアップを行いますか？」と表示されたときは、そのまま次ページの説明にしたがって進めてください。

・「いいえ、…」を選択しないで手順を進めるとセットアップが途中で止まってしまいます。必ず、「いいえ、…」の左にある◯をクリックして◉に変えてください。

・Microsoftへのユーザー登録は、セットアップ作業が終わってから行います。

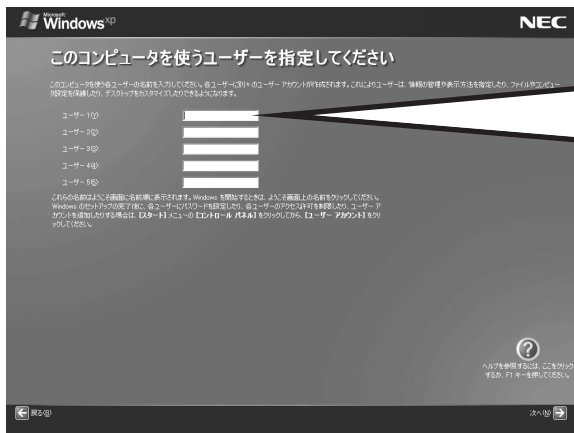
# 8 インターネット接続せずに次へ進む

・「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたときは、そのまま次ページの説明にしたがって進めてください。

・「いいえ、…」を選択しないで手順を進めるとセットアップが途中で止まってしまいます。必ず、「いいえ、…」の左にある◯をクリックして◉に変えてください。

・インターネットへの接続は、セットアップ作業が終わってから別に設定します。

# キーボードを使って自分の名前を入れる

● ローマ字(アルファベット)で名前を入れる

## 1 「ユーザー1」欄に自分の名前を入れる

ここに小さな縦棒(｜)が点滅しているのを見てから、キーボードの【半角/全角】キーを1回押して、キーボードから自分の名前をローマ字で入力する

【例】「mita」と入力する場合なら

点滅していないときは、「ユーザー1」欄をクリックしてください。

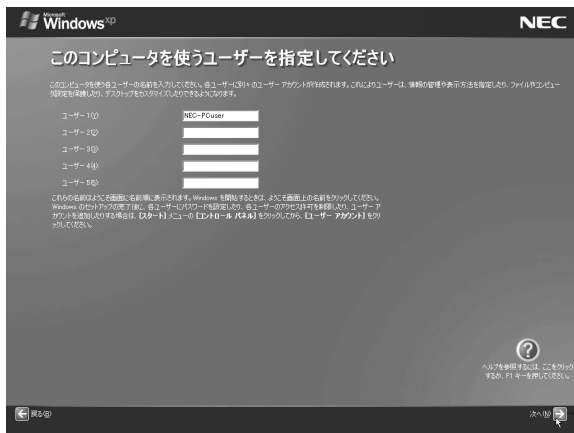
・ここでは「ユーザー1」欄だけ入力してください。ユーザー名の追加や変更は、セットアップが終わったあとでできます。

・次の文字列は、パソコンのシステムですでに使われているため、入力しないでください。
CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ～ COM9、LPT1 ～ LPT9

### 入力を間違えたら

キーボードの【BackSpace】キーを押してください。

### ひらがなが表示されるときは

キーボードの【BackSpace】キーを押して、表示された文字をすべて消してください。
次に、キーボードの【半角/全角】キーを押すと、アルファベットが表示されるようになります。

### 入力した名前を控えておく

ユーザー名：

| |
|---|
| |

パソコンの再セットアップ作業を行うとき、この名前が必要です。上の欄に控えておいてください。

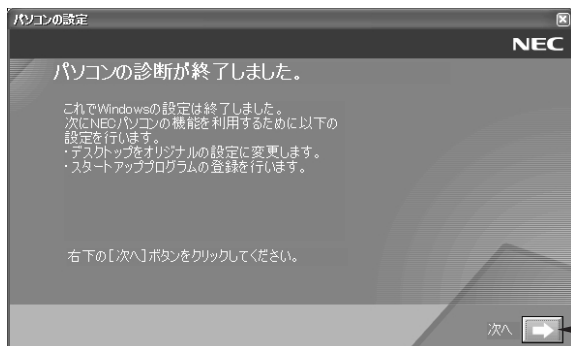
## 2 さらにセットアップ作業を進める

をクリックする

をクリックすると、しばらくしてからパソコンの電源が切れ、自動的に再度電源が入ります（これを「再起動」といいます）。
次ページの画面が表示されるまで何も操作せずに待っていてください。

**パソコンが再起動しても、**
**まだセットアップ作業が残っています。**

続けて次ページ以降の作業を進めてください。

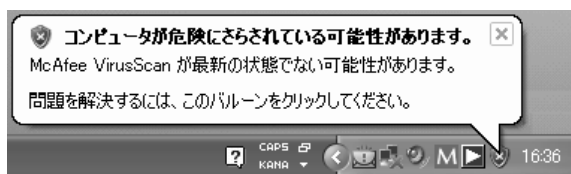
## 3 残りのセットアップ作業に進む

画面には「パソコンの診断が終了しました」と表示されますが、お買い求めの機種によって、あと少しセットアップを進める必要があります。

### VALUESTAR Fの場合

次ページの「ファミリー環境を設定する」に進んでください。

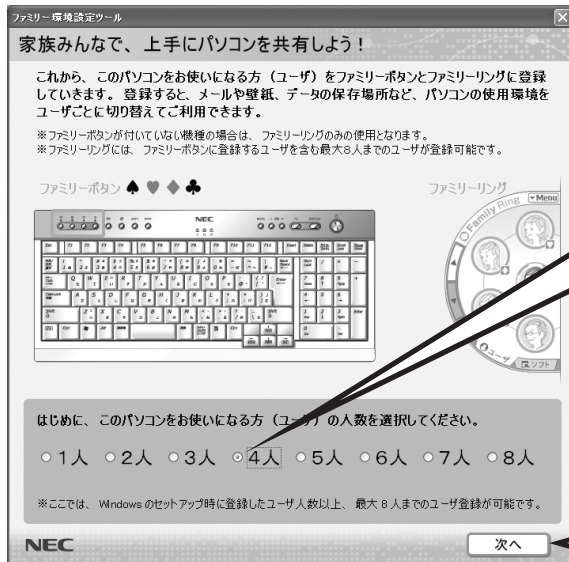
### VALUESTAR Lの場合

75ページの「121ポップリンクを設定する」に進んでください。

**画面右下に次のようなメッセージが表示される場合があります。**

ここではこのメッセージをクリックせずに、セットアップ作業を進めてください。

# ファミリー環境を設定する VALUESTAR Fのみ

ポイント
- ここでは、パソコンを共有する人数を指定するだけ
- 家族の名前などは、あとから『活用ブック』を見て追加する

## 1 このパソコンを何人で使うか選ぶ

人数の左側にある○をクリックして、◉にする
（図は、4人で使う場合の例です）

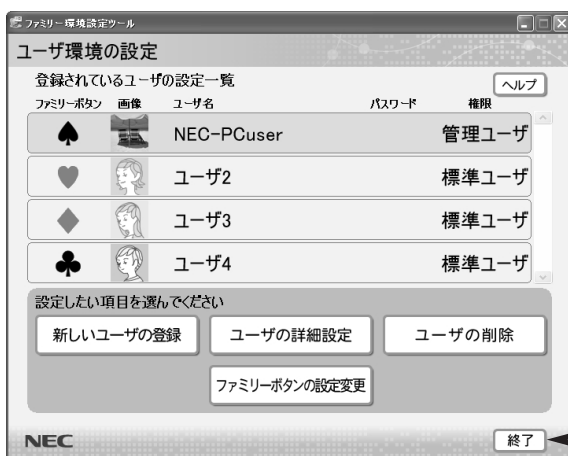
人数を選んだら、「次へ」をクリック

VALUESTAR Fは、ファミリーボタンを利用して1台のパソコンを家族で使うことができます。
ここでは、パソコンを共有する人数を選んでください。

## 2 登録を完了する

70ページで入れた名前がここに表示される

選択した人数分が表示されます。「ユーザ2」、「ユーザ3」などの名前はあとから変更することができます。人数を増やしたり減らしたりすることもできるので、今は、このまま登録を完了します。

「登録完了」をクリック

この画面に変わったら、「終了」をクリック

ファミリーボタンの使い方、名前（ユーザー名）を変更する方法などについては、『活用ブック』をご覧ください。

# 121ポップリンクを設定する

● NECから新しい情報が届くように、「利用する」を選ぶ

## 1 [→] をクリックする

「利用する」の左が◉になっていることを確認して、

[→] をクリック

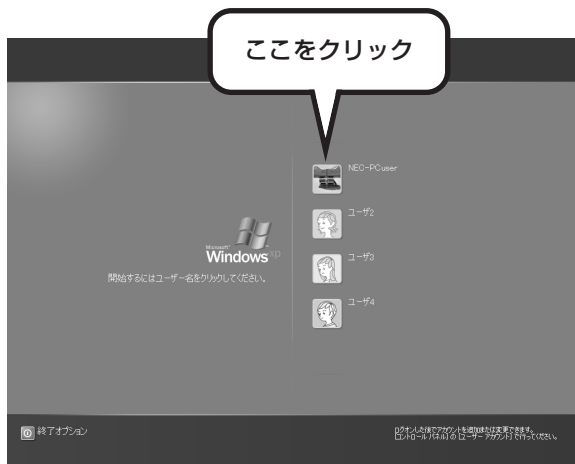
この画面に変わったら、[→] をクリック

121（ワントゥワン）ポップリンクは、お使いのパソコンに適したサービスサポート情報（危険度の高いウイルスに対するセキュリティパッチやアップデートモジュール）を、NECからインターネット経由でお知らせするサービスです。このパソコンでインターネット接続できるようになってから、新しい情報が発表されるたびに自動的に届くようになります。

**121ポップリンクの設定は、あとから利用しないように変更することもできます。**

## 2 サポートサービスの映像を見る

このパソコンの3つのサポートサービスを紹介する映像が流れます。映像が終了したら、「完了」をクリックしてください。
パソコンの電源が切れ、自動的に再度電源が入ります（再起動）。

## 3 自分の名前をクリック（VALUESTAR Fのみ）

VALUESTAR Fでは、電源を入れたあと最初に誰が使う画面を表示するのかを決める必要があります。ここでは、70ページで入れた自分の名前がついたマークをクリックしてください。
VALUESTAR Lの場合は、この画面は表示されません。次ページへ進んでください。

**次ページの画面が表示されるまで何も操作せずに待っていてください。**

# ここで一段落

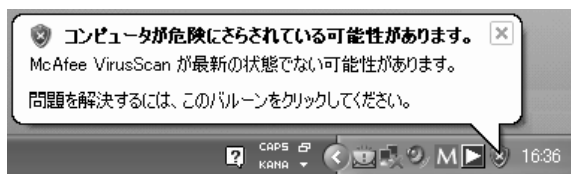
ポイント

● パソコンを使い始めるときの画面を見ておこう

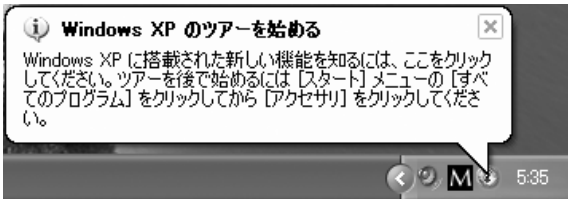
再起動後、「システムの復元ポイントの設定」画面が表示されます。しばらくすると、もう一度再起動します。
ここまでの操作で、パソコンに自分の名前などを登録する、最初のセットアップ手順は一段落です。次回から、パソコンの電源を入れると、1〜2分後には、いつもこの画面が表示されるようになります。

複数のユーザーを登録している場合、左の画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。

VALUESTAR Lの場合、
このマークは表示されません。

画面右下に次のようなメッセージが表示される場合があります。

これは、このパソコンに入っているウイルス対策ソフト「マカフィー・ウイルススキャン」が最新の状態ではない可能性があることをお知らせするものです。「マカフィー・ウイルススキャン」のアップデート機能を使って、ソフトを最新の状態にする必要があります。手順については、「サポートナビゲーター」-「つながった後のインターネット」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルス対策ソフトをアップデートする」をご覧ください。
なお、このメッセージは、一定期間アップデートを実行していないと、再度表示されます。

また、「McAfee VirusScan が無効になっています」というメッセージが表示される場合があります。「マカフィー・ウイルススキャン」は、ご購入時の状態ではウイルスの侵入を監視する設定になっていますが、その機能が無効になっていないかどうか確認してください。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「つながった後のインターネット」-「ウイルス感染の防止」-「未然に感染を防ぐには」をご覧ください。

## パソコンの操作に慣れていないかたへ

画面右下に「Windows XPのツアーを始める」と表示されることがあります。
Windows XPの新機能を紹介するものですが、パソコンの操作に慣れてから見ることをおすすめします。なお、この表示はしばらくすると自動的に消えます。

# お客様登録のお願い

お客様登録はこれからパソコンを安心・快適にお使いいただく上で非常に重要です。NEC パーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」では、お客様登録されたかたに充実したサポート・サービスを提供しております。この機会に是非ご登録ください。

**登録料・会費無料**

## ご登録の特典

### 特典１　電話サポート

商品についての電話相談窓口「121 コンタクトセンター」をご利用いただけます。
詳しくは『121ware ガイドブック』をご覧ください。

### 特典２　メールサービス

ご利用製品のサポート情報やキャンペーンのご案内などをメールマガジンにてお届けいたします。
詳しくは『121ware ガイドブック』をご覧ください。

### 特典３　インターネットサポート・サービス

121ware.com で「ログイン ID」を取得していただきますと、さまざまなサポート・サービスをご利用いただけます。詳しくは『121ware ガイドブック』をご覧ください。
ログインIDは、「121ware.com」(http://121ware.com/)およびNECショッピングサイト「NEC Direct」(http://www.necdirect.jp/)で共通にご利用いただける ID です。取得方法については『121ware ガイドブック』をご覧ください。

**◆ 121ware.com でご利用いただけるサポート・サービス**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ログインIDをご登録いただくと… | お客様とNECとのコンタクト履歴がわかる！ | 電話サポートがよりつながりやすく！ | 買い取りサービスの申し込みができます！ | |
| ログインIDとE-mailアドレスをご登録いただくと… | 121オリジナルメールマガジンをお届け！ | 「NEC Direct」※でお得にお買い物！ | ※日本電気(株)が運営するショッピングサイトです。 | |
| ログインIDと保有商品をご登録いただくと… | 保有商品の情報をすばやくGET！ | 保有商品に関するQ&A情報をすばやくGET！ | 保有商品に合うモジュールをすばやくGET！ | パソコンを最新の状態に！「自動アップデート」 |
| 他にもいろいろなサービスが！ | フォーラムでコミュニケーション！ | インターネットから電話サポート予約サービス！ | お役立ち情報フォローアップメールサービス！ | |

## お客様登録の方法

お客様登録をして、電話問い合わせの時に必要な「121wareお客様登録番号」と、インターネットサポート・サービスをご利用になる際に必要な「ログインID」を取得してください。
ご登録いただくことでお客様にあったサポート・サービスをご提供させていただきます。

### インターネットによる登録をおすすめします。

「121wareお客様登録番号」と「ログインID」を同時に取得でき、すぐにインターネットサポート・サービスが受けられます。
まだインターネットをお使いになれないお客様にはFAX登録をご用意しております。ただし、FAXからでは「121wareお客様登録番号」のみの取得となり、インターネットでのさまざまなサポート・サービスがご利用いただけません。
インターネットが使えるようになり次第、「ログインID」の取得をおすすめします。

### インターネットによる登録

登録の前に、インターネット接続の設定が必要です。設定の方法については、このマニュアルの第5章または第6章をご覧ください。

インターネットに接続して、NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」のマイアカウント（http://121ware.com/my/）から登録します。詳しくは、『121wareガイドブック』をご覧ください。

### 「FAX」による登録

FAX用紙はNECパソコン情報FAXサービスから取り出してください。

お手持ちのFAXから「0120-977-121」（フリーコール）に電話します。ご希望の窓口案内のアナウンスが流れますので、FAX情報サービス窓口である9番を押します。
FAX情報サービスにつながりますので、アナウンスにしたがい、BOX番号7612と#を押し、お客様登録用紙を取り出してください。必要事項をご記入の上、FAXでお送りください。

# パソコンを安全に使うための設定を行う

**ポイント**

- インターネットを利用するときには不可欠
- Windows を最新の状態に
- ウイルス対策ソフトを最新の状態に

## パソコンやインターネットを安全に使うために

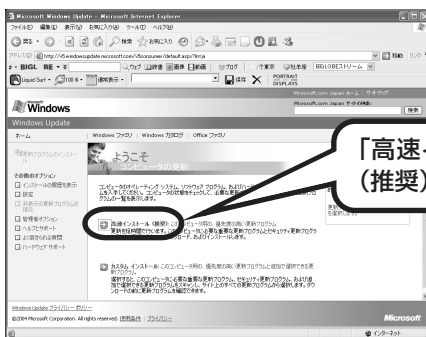
パソコンの誤動作や内部のデータ破壊を引き起こす、コンピュータウイルスなどの不正プログラムの被害が多くなっています。電子メールのやりとり、インターネット経由のソフト入手、他人から受け取ったディスクの使用などが原因となって、知らないうちに不正プログラムがパソコンに侵入することもあります。これらの被害を防ぐには、定期的に次の対策を行ってください。

## Windowsを最新の状態にする

「Windows Update」を使用すると、インターネット経由でWindowsを最新の状態に保つことができます。定期的に（月に１回程度）実行するようにしてください。
また、Office 2003モデルをお使いの場合は、Officeのアップデートも行ってください。

**この設定を行う前に、パソコンをインターネット回線に接続して、インターネットの設定をすませてください。**
**インターネットの設定方法については、第５章または第６章をご覧ください。**

### 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Update」をクリック

インターネットに接続して、「Windows Update」の画面が表示されます。

**通信速度などにより、この画面が表示されるまでにしばらく時間がかかることがあります。**

このあとの操作は、画面に表示される指示をよく読んで進めてください。

Windows最新モジュールのインストール（パソコンへの組み込み）が終了し、パソコンを再起動するようメッセージが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。パソコンが再起動すると、Windowsが最新の状態に更新されています。
Officeのアップデートをする場合は、上記の画面で「Officeファミリ」をクリックし、画面の説明を見ながら操作してください。

# ウイルス対策ソフトを最新の状態にする

## アップデート機能を使う

このパソコンには、ウイルス対策ソフト「マカフィー・ウイルススキャン」が入っていて、パソコンをウイルスから守ることができます。しかし、ウイルスは日々新しいものが出てくるため、アップデート機能でソフトを最新の状態にしておく必要があります。
アップデート機能を使うには、インターネット接続の設定が必要です。インターネットの設定方法については、第５章または第６章をご覧ください。

このパソコンの「マカフィー・ウイルススキャン」では、はじめてアップデート機能を利用した日から90日間、無料でセキュリティサービスのアップデートが受けられます。90日間の無料期間を過ぎると、それ以降のアップデートは有料の契約が必要になりますが、ウイルスチェックの機能は引き続き使うことができます（ただし、新しいウイルスに対応することができなくなるため、ぜひ有料のアップデートサービスを契約して定義ファイルを更新することをおすすめします）。
「マカフィー・ウイルススキャン」のアップデート機能について詳しくは、「サポートナビゲーター」-「つながった後のインターネット」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルス対策ソフトをアップデートする」をご覧ください。
有料のサービスについて詳しくは、無料サービスの開始時に登録したメールアドレス宛に配信されるメールなどの案内にしたがってご確認ください。

アップデートを行っていないと、画面右下に「コンピュータが危険にさらされている可能性があります。」というメッセージが表示されます。定期的にアップデートするようにしてください。

## その他のウイルス対策ソフトを使う

「ソフトチョイスサービス」を利用すると「マカフィー・ウイルススキャン」以外のウイルス対策ソフトを使うことができます。

「マカフィー・ウイルススキャン」以外のウイルス対策ソフトを使用する場合は、必ず「マカフィー・ウイルススキャン」を削除（アンインストール）してください。

## インターネットのセキュリティ対策について知る

インターネットやメールを使い始めると、とても楽しく便利な反面、危険も多くあります。ウイルス（パソコンに誤動作やデータの破壊などのトラブルを引き起こす不正プログラムのこと）や、外部からの不正アクセスといった被害にあわないように、前もって対策が必要です。パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」では、ウイルスとは何か、インターネットのセキュリティ対策などについて詳しく説明しています。デスクトップにある（困ったときのサポートナビゲーター）をダブルクリックしてご覧ください。インターネットを本格的に使い始める前にぜひお読みください。

## 大切なデータはバックアップを取る

### バックアップとは

パソコンに内蔵されているハードディスクには、大切なデータが保存されています。このハードディスクは、ちょっとした衝撃によって壊れたり、長期間使用するうちに突然動かなくなったりすることがあります。このような場合、ハードディスクを交換したり再セットアップすることでパソコンをご購入時の状態に戻すことはできますが、大切なデータが失われてしまいます。万一のアクシデントに備えて、データの控えを残しておきましょう。データの控えのことを「バックアップ」と呼びます。

### DVD-R や CD-R などにもバックアップを取っておく

このパソコンに搭載されている「バックアップ-NX」というソフトを使って、バックアップを取ることができます。

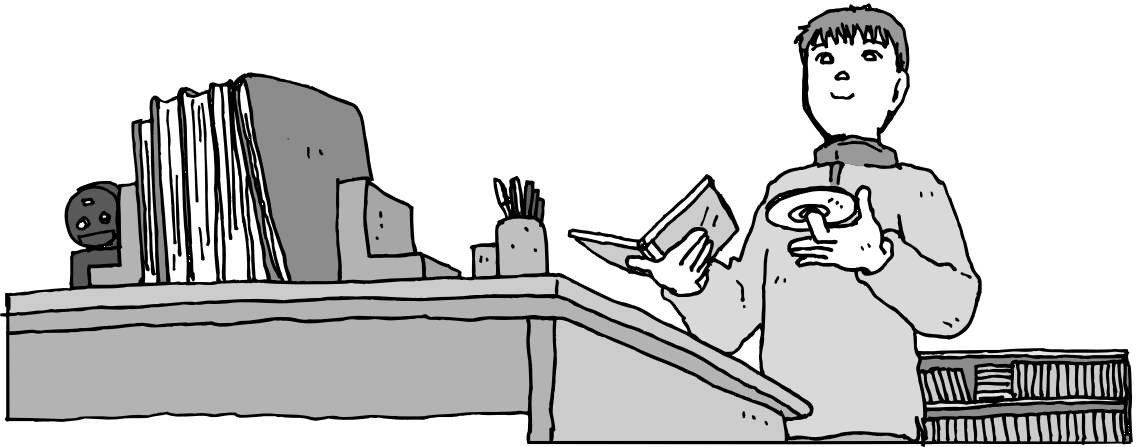
ただし、ハードディスクのDドライブという場所にバックアップを取っておいても、ハードディスク自体が故障したときは、データを元に戻すことができません。別売のDVD-RやCD-Rなどにもバックアップを取っておくことをおすすめします。

### 再セットアップ用 CD/DVD-ROM を作成しておく

トラブルがどうしても解決できないときに行う「再セットアップ」は、通常、ハードディスク内にある再セットアップ用データを使います。けれども、ハードディスクが故障した場合は、この方法で再セットアップすることができなくなります。そのような場合に備え、再セットアップ用CD/DVD-ROMを作成しておき、そのディスクから再セットアップすることができるようにしておきましょう。

再セットアップ用 CD/DVD-ROM を作成する方法については、186 ページをご覧ください。

第4章

# 基本中の基本の操作

**電源の入れ方／切り方、CD-ROMやDVDのディスクをセットする方法など、このパソコンを使うときの最も基本的な操作を説明します。インターネットの接続や設定に進む前に、この章に目をとおしておくとよいでしょう。**

# 電源の切り方

パソコンの電源を切るときは、マウスで操作します。本体のスイッチやボタンを押すのではありません。いきなり電源ケーブルを抜いたりするのは、絶対ダメです。

## 1 画面を見ながら、マウスを操作して電源を切る

❶ スタート をクリックして、

❷「終了オプション」をクリック

この画面が表示されたら、

❸「電源を切る」をクリック

コンピュータの電源を切る

スタンバイ(S)　電源を切る(U)　再起動(R)

キャンセル

## 2 電源が切れたことを確認する

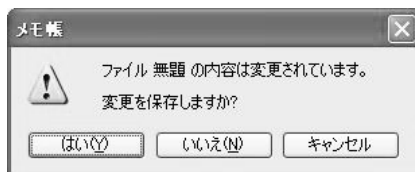
数秒後に、ディスプレイの画面が暗くなり、自動的にパソコン本体の電源が切れます。

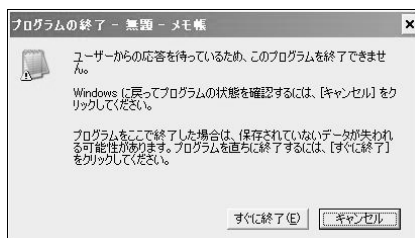
**この操作で、パソコン本体の電源は自動的に切れますが、ディスプレイの電源は切れていません。画面が暗くなって消費電力も少なくおさえられていますが、長時間パソコンを使わないときはディスプレイの電源スイッチを押して電源を切っておきましょう。**
**ディスプレイの電源スイッチの場所は、56ページをご覧ください。**

## 電源が切れるまでに少し時間がかかることも

パソコンの状態によっては、「電源を切る」をクリックした後、電源が切れるまでに数秒以上の時間がかかることもあります。あわてずにお待ちください。

## 保存していない文書があるとき

ワープロなどのソフトを使っていて作成中の文書がある場合、文書を保存してから終了するか、画面にメッセージが表示されることがあります。

そのままにしていると、数秒後、さらにメッセージが表示されます。

「プログラムの終了」と左上に書かれた画面が表示されたら、「キャンセル」をクリックすることをおすすめします。使用中のソフトを終了させてから電源を切るようにしましょう。

## マウスの操作で電源が切れないとき

画面の表示が動かなくなったり、操作の途中でマウスやキーボードが反応しなくなったりして、パソコンの電源が切れなくなってしまうことがあります。その場合、パソコン本体の電源スイッチを４秒以上押し続けると、強制的に電源を切ることができます。強制的に電源を切ったときは、電源が切れてから５秒以上待ち、もう一度電源スイッチを押してパソコンの電源を入れなおしてください。パソコンの電源が入ったら、改めてマウスの操作で電源を切ってください。

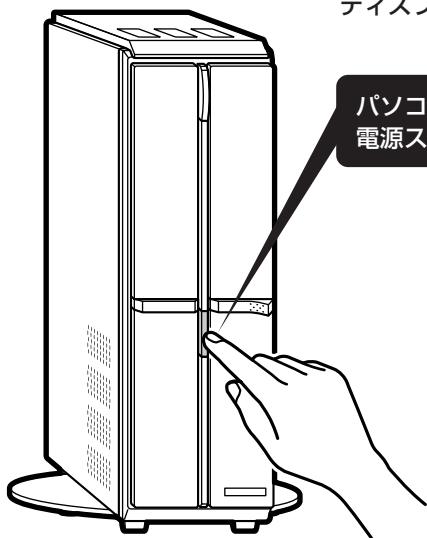
**パソコン本体の電源スイッチを押し続けて強制的に電源を切ると、パソコンに負担がかかります。何度も繰り返すと、パソコンが起動しなくなってしまうこともあるため、この方法で電源を切ることは、できるだけ避けてください。**

# 電源の入れ方

電源を入れるときは、ディスプレイ、パソコン本体の順で電源を入れます。省電力機能が働いて画面に何も表示されていないときは、パソコン本体の電源スイッチを押すと画面が暗くなる前の状態に戻ります。

## 1 ディスプレイ、パソコン本体の順で電源スイッチを押す

ディスプレイの電源スイッチの場所は、56 ページをご覧ください。

ディスプレイや周辺機器の電源が入っていることを確認して

- ディスプレイの電源ランプが点灯しているときは、画面が暗くなっていても電源が入っています。その場合、ディスプレイの電源スイッチを押す必要はありません。パソコン本体の電源を入れると、自動的に画面が表示されます。
- プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、パソコン本体の電源を入れる前に周辺機器の電源を入れてください。

1～2分後に、パソコンを使い始めるときの画面が出てきます。

モデルによって、表示される画面の絵柄が異なります。

複数のユーザーを登録している場合、左の画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。

## 家族を登録しているとき(VALUESTAR Fの場合)

VALUESTAR Fをお使いの場合、家族など自分以外のユーザーを登録すると、ユーザーを選ぶための画面が表示されるので、誰が使うかを最初に選んでください。
自分以外のユーザーを登録する方法については、『活用ブック』をご覧ください。

# スタンバイ機能について

パソコンを使っているとき短時間だけ作業を中断したい場合、そのつど電源を切っていると、作業の再開に時間がかかってしまいます。「スタンバイ機能」を利用すると、パソコンの消費電力を抑えながら、すぐに作業を再開することができます。

## 20分以上使わないと自動的に画面が消える(ご購入時)

マウスやキーボードを操作していない時間が20分以上たつと、画面の表示が消えて暗くなり、パソコン本体の電源ランプが点滅します。この状態を「スタンバイ状態」と呼びます。ご購入時には、自動的にスタンバイ状態になるように設定されています。
スタンバイ状態では、消費電力を抑えるため、パソコン本体に内蔵されているハードディスクの電源も自動的に切れます。

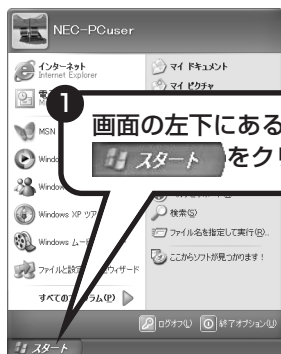
## 元に戻すには、電源スイッチを押す(押し続けないこと)

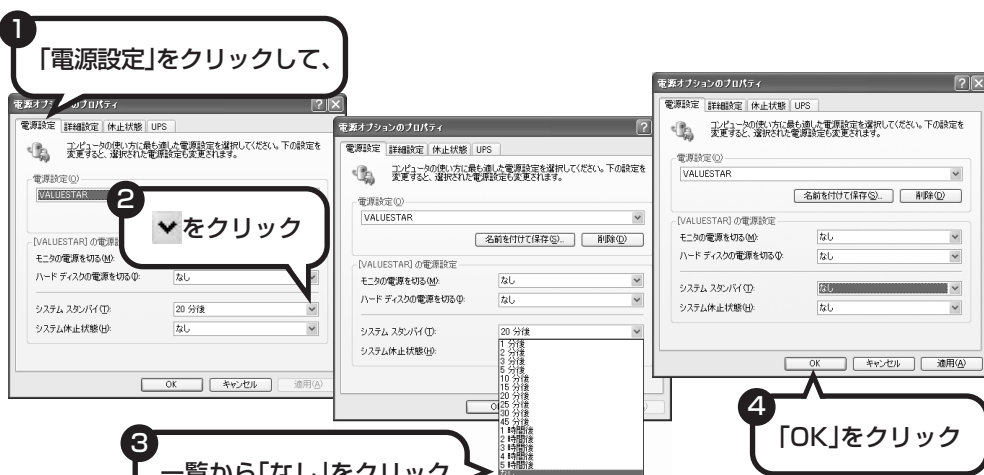
パソコン本体の電源スイッチを押すとスタンバイ状態になる前の画面が表示されます。

- 電源スイッチを押し続けないでください。4秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。
- 電源スイッチを押しても元の画面が表示されないときは、ディスプレイが省電力状態になっていることがあります。その場合、マウスを軽く動かしてください。

## 自動的にスタンバイ状態にならないようにするには

次の手順で、自動的にスタンバイ状態にならないように設定を変えることができます。

### 1 コントロールパネルの画面を表示する

## 2 「パフォーマンスとメンテナンス」、「電源オプション」の順にクリック

## 3 「電源設定」で「システムスタンバイ」を「なし」に変更

これで、設定の変更は終わりです。

### 省電力機能の詳しい説明は、「サポートナビゲーター」で

スタンバイ機能は、このパソコンが備えている「省電力機能」のひとつです。パソコンの使用状態や利用するソフト、周辺機器によっては、省電力機能を使わないほうがよいことがあります。詳しくは、「サポートナビゲーター」に説明があります。

# 各部の名称と役割

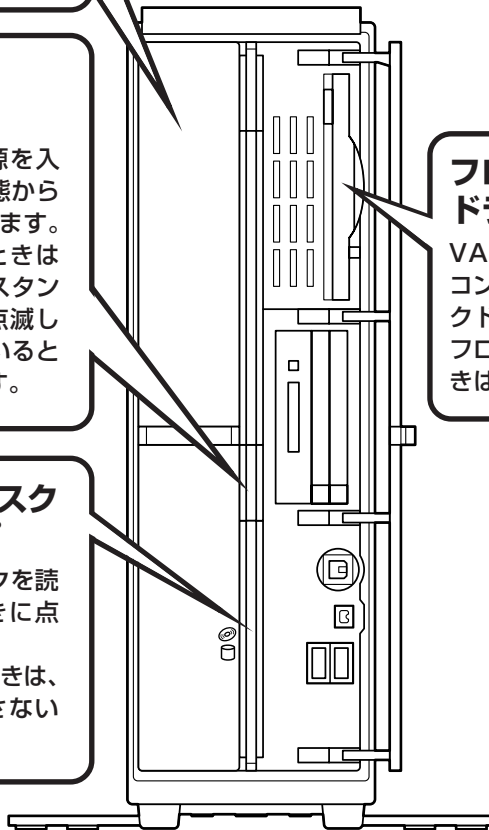
ここでは、基本的なボタンなどに限って説明します。パソコン本体背面の端子類の説明など、詳しい情報を知りたいときは、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

## パソコン本体

**CD/DVDドライブ**
CD-ROMやDVD-ROM、音楽用CDなどを楽しむときは、ここにセットします。

**電源スイッチ/電源ランプ**
パソコン本体の電源を入れるとき、省電力状態から復帰するときに押します。電源が入っているときは青色に点灯します。スタンバイ状態のときは点滅します。電源が切れているときは、消灯しています。

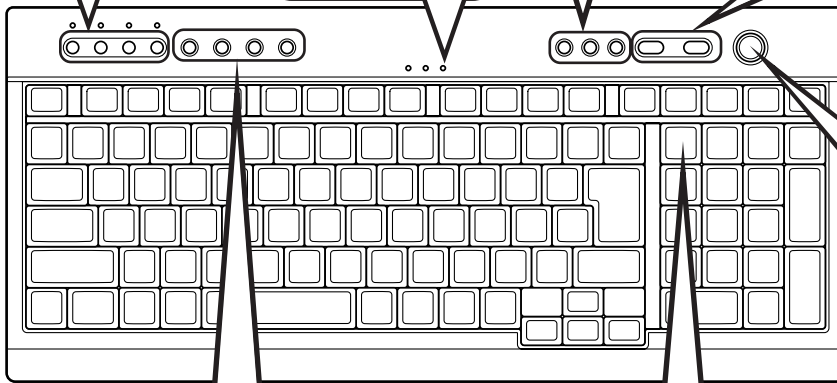
**CD/ハードディスクアクセスランプ**
CDやハードディスクを読み書きしているときに点滅・点灯します。
点滅・点灯しているときは、電源スイッチを押さないでください。

**フロッピーディスクドライブ**
VALUESTAR Fでは、パソコン本体にフロッピーディスクドライブがついています。フロッピーディスクを使うときは、ここにセットします。

## キーボード

### ファミリーボタン
VALUESTAR Fでは、キーボードに、ファミリーボタンが付いています。このボタンで使用者を切り替えることができます。

### ランプ
このランプが点灯しているとき、キーボード右側にある、電卓のように並んだ数字キー(テンキー)で数字を入力できます。

### ボリュームボタン
＋を押すと大きくなり、－を押すと小さくなります。MUTEを押すと音が消えます。

### TVボタン・DVD/CDボタン
TVやDVD、音楽用CDなどを楽しむためのかんたんAV視聴ソフト「Media Garage(メディアガレージ)」が始まります。

### 電源スイッチ
パソコン本体の電源を入れるときや、省電力状態から復帰するときに押します。パソコン本体の電源スイッチと同じように働きます。

### ワンタッチスタートボタン
**(メール)**
メールを利用するためのソフトが始まります。

**(インターネット)**
ホームページを見るためのソフトが始まります。

**SOFT**
このパソコンに入っているいろいろなソフトを利用するための「ソフトナビゲーター」が始まります。

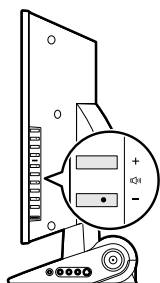
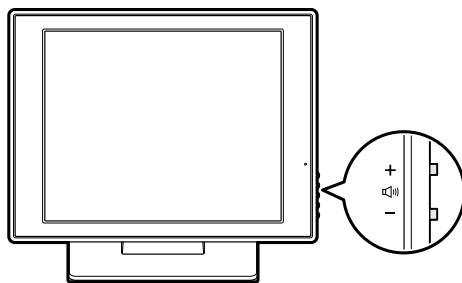
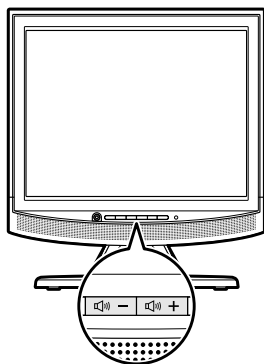
**INFO**
パソコン同士でスケジュールや伝言を共有できるパーソナルライフウィンドウ(VALUESTAR Fではファミリーウィンドウ)が表示されます。

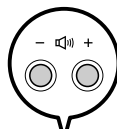
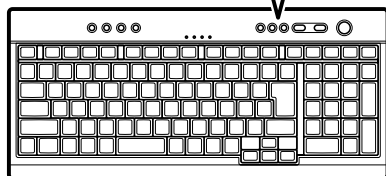
### 【NumLock】キー
このキーを押すと、ランプの点灯／消灯が切り替わります。

# 音量を調節する

パソコンの音が大きすぎる、小さすぎると感じたときは、音量を調節できます。ディスプレイからでも、キーボードのボタンからでも、調節できます。

## ディスプレイから音量を調節する

「+」を押すと大きく、「−」を押すと小さくなります。

TVチューナ内蔵23型ワイド:F23W11(A)

17型ワイド:F17W91、
17型:F17R31/F17R31(W)

19型:F19R31、17型:F17R41、
15型:F15T81(A)

## キーボードから音量を調節する

+を押すと大きくなり、−を押すと小さくなります。

・キーボードの形状は、モデルによって異なります。

・ディスプレイの音量調節で最小になっていると、キーボードのボタンから音を大きくすることができません。

# CD-ROMやDVDの扱い方

CD-ROMやDVDなどをパソコンで楽しむときの取り扱い上の注意、入れ方と出し方を説明します。

- ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、使用時の振動や故障の原因になります。
- Windows 95/98/Me対応のCD-ROMは、このパソコン（Windows XP）で使えないものがあるため、ご購入前に確認してください。
- Macintosh専用と表示されたCD-ROMは使えません。
- このパソコンで使えるディスクについて、詳しくは「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「CD/DVDドライブ」をご覧ください。

## ディスクを取り扱うときの注意

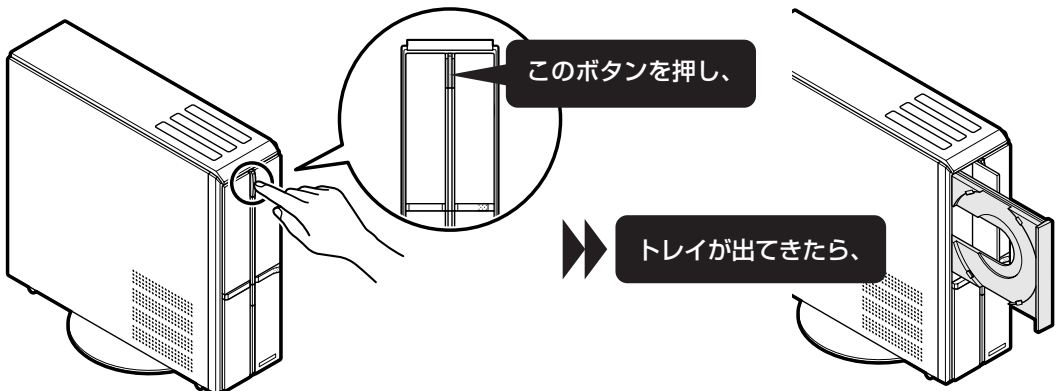
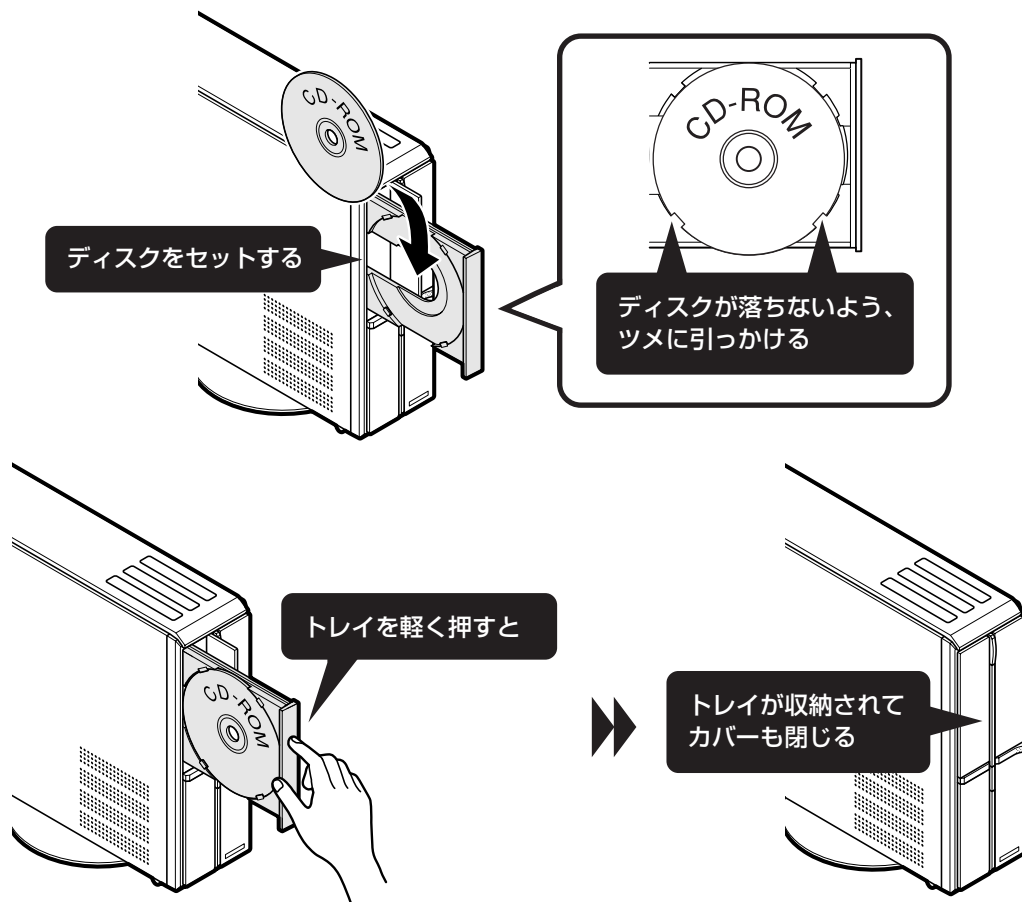
以下の注意事項を守ってください。

- 信号面（文字などが印刷されていない面）に手を触れないように。
- ディスクにラベルを貼ったり、傷つけたりしない。
- ラベル面に文字を書くときは、フェルトペンなどペン先の柔らかいものを使う。
- ディスクの上に重い物を載せない。ディスクを曲げたり落としたりしない。
- 汚れたときは、柔らかい布で内側から外側に向けて拭く。
- 汚れが落ちにくいときは、CD専用のスプレーを使う。
- ベンジン、シンナーなどは使わない。
- ゴミやホコリの多い場所で使わない。
- 直射日光の当たる場所や湿度の高い場所に保管しない。

## 1 イジェクトボタンを押してトレイを出す

トレイは、パソコンの電源が入っているときのみ出し入れできます。

このボタンを押し、

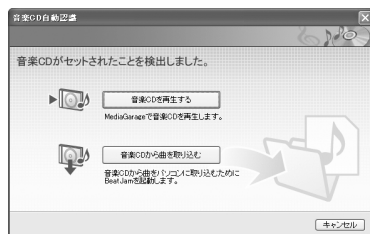
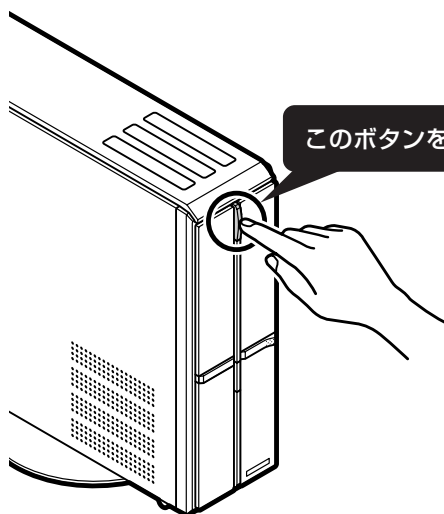
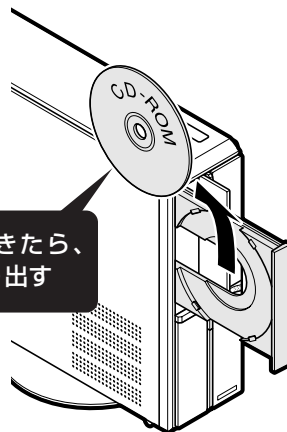
トレイが出てきたら、

## 2 ディスクを入れる



トレイを軽く押すかわりに、イジェクトボタンを押してディスクを収納することもできます。

- CDシングル（直径8cm）の大きさのディスクは使えません。市販のCDシングル用アダプタは使わないでください。故障の原因になります。
- このパソコンを横置きで使うことはできません。

## こんな画面が出てきたら

音楽CD（オーディオCD）を入れてからしばらくすると右のような画面が表示されることがあります。やりたいことを選んでクリックしてください。

※はじめて音楽CDを入れたときは、「「音楽CD自動認識機能」のご案内」が表示されます。利用する状況にあわせて項目を選び、「OK」をクリックしてください。

## 3 ディスクを取り出す

ディスクを取り出したら、トレイを軽く押すか、イジェクトボタンを押してください。トレイが収納されてカバーが閉じます。

# フロッピーディスクの扱い方 VALUESTAR Fのみ

フロッピーディスクを使うときの取り扱い上の注意、入れ方と出し方を説明します。

フロッピーディスクは、1.44Mバイトでフォーマットされたものを使ってください。

## フロッピーディスクを取り扱うときの注意

以下の注意事項を守ってください。

・シャッターを開けて中のディスクに直接触れない。

・ラベルを貼ってから、鉛筆やペンで記入したり、消しゴムを使ったりしない。

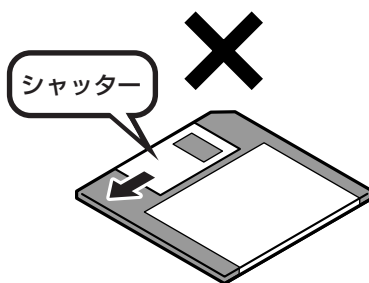
・ラベルは正しい位置に貼る。ラベルを2枚以上重ねて貼らない。

・ゴミやホコリが多い場所で使わない。

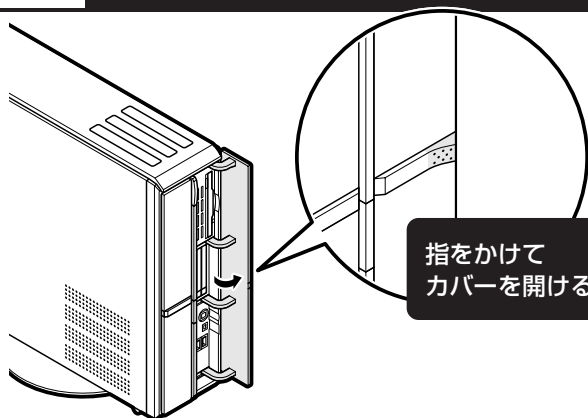
・外側が汚れたものは使わない。

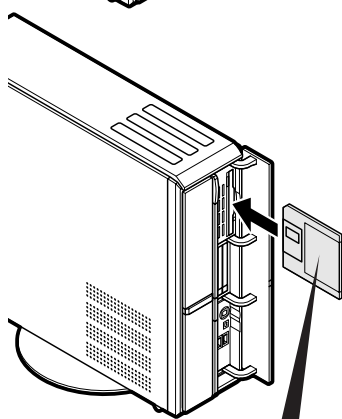
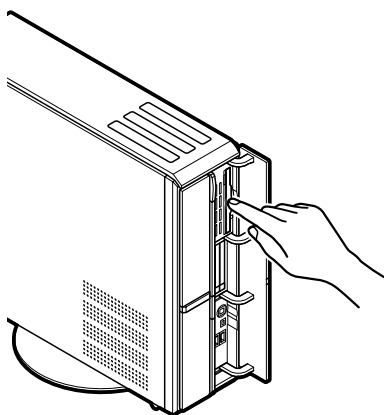
・クリップなどではさんだり、投げたり、落としたりしない。

・上に重い物を載せたり、曲げたりしない。

・直射日光の当たる場所、暖房器具の近くなど温度が高くなる場所に保管しない。

### 磁石に注意

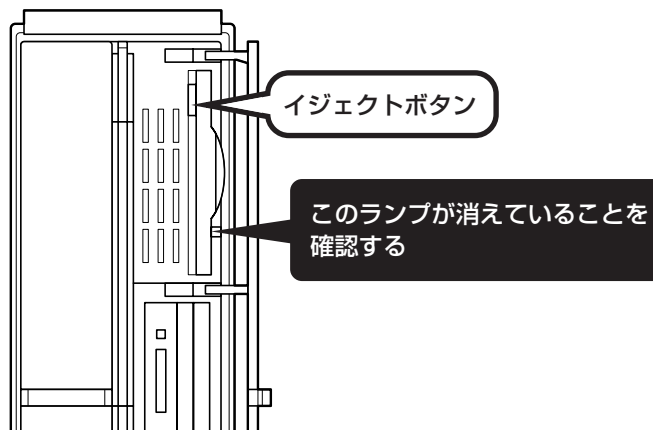
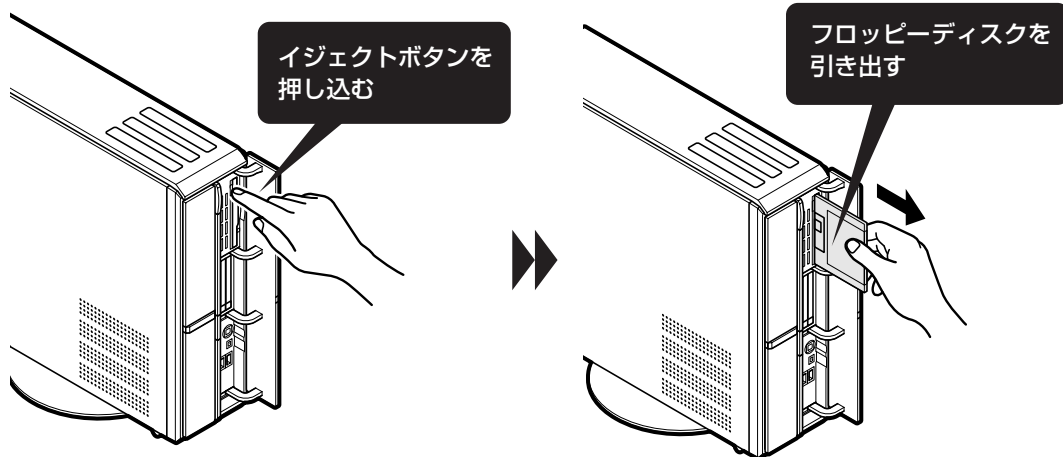
フロッピーディスクは磁力で情報を記憶しています。このため、磁石を近づけると内容が消えたりデータの一部が破損されたりします。磁石はテレビやスピーカにも使われているため、これらの上にフロッピーディスクを置かないでください。ホワイトボードや冷蔵庫に紙を留めておくための磁石も要注意です。

## 1 カバーを開けてフロッピーディスクをセットする

フロッピーディスクを入れる場所をフロッピーディスクドライブといいます。フロッピーディスクドライブにはカバーが付いています。

**パソコンの電源を入れる前にフロッピーディスクをセットしないでください。**

カチャッと音がして、フロッピーディスクがセットされます。

## ファイルを開く・ファイルを保存する

パソコンで作った文書などをフロッピーディスクに保存することができます。保存された文書のことを「ファイル」と呼びます。フロッピーディスクなどに保存されているファイルの内容をパソコンの画面で見ることを「ファイルを開く」といいます。ファイルを保存したり、ファイルを開いたりする方法について、詳しくは『活用ブック』をご覧ください。

## 2 フロッピーディスクを取り出す

ランプが緑色に点灯しているときは、フロッピーディスクにファイルを保存したり、ファイルを開いたりしている途中であることを示します。ランプの点灯中は、フロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスクの内容が破損されることがあります。

フロッピーディスクを曲げないように、まっすぐ引き出してください。

# パソコンがはじめてのかたへ

このパソコンに入っている「パソコンのいろはⅡ」を使って、基本操作を学んでみましょう。パソコンを使うのがはじめてというかたは、インターネットを始める前にキーボードで文字を入力する練習をしておくことをおすすめします。

## 「パソコンのいろはⅡ」で操作を学ぶ

このパソコンには、基本的なことからパソコンの操作が学べる「パソコンのいろはⅡ」が入っています。「パソコンのいろはⅡ」では、文字の入力、電子メールのやりとり、ホームページを見る方法などを学ぶことができます。パソコンの基本操作をおぼえたいかたは、「パソコンのいろはⅡ」で学習を始めてみましょう。

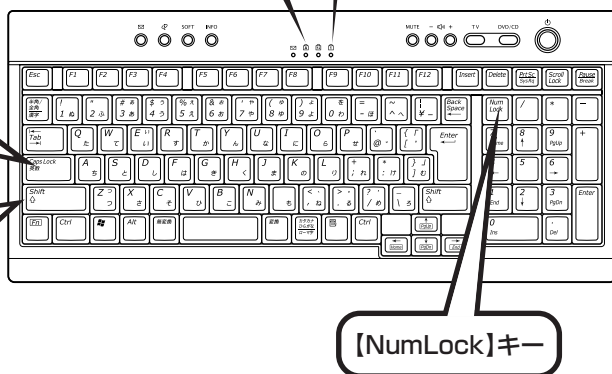
**ほかのソフトが起動しているときは、「パソコンのいろはⅡ」を始める前にすべて終了させてください。**

## 1 キーボードのランプを確認する

**Ⓐランプが消えていること**

このランプが点灯していると、アルファベットが大文字で入力されてしまいます。【Shift】キーを押したまま【CapsLock】キーを押すと、ランプの点灯／消灯が切り替わります。

**①ランプが点灯していること**

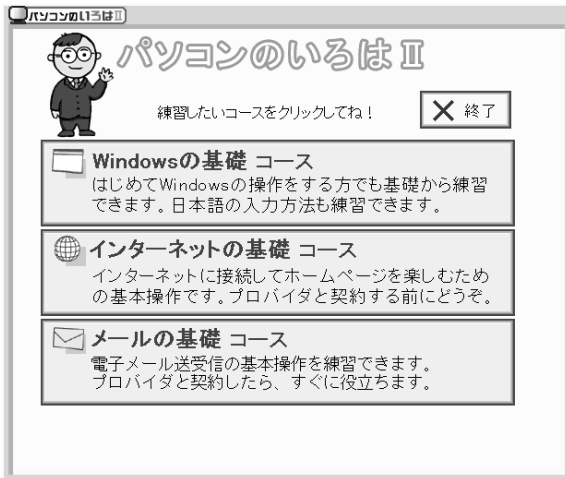
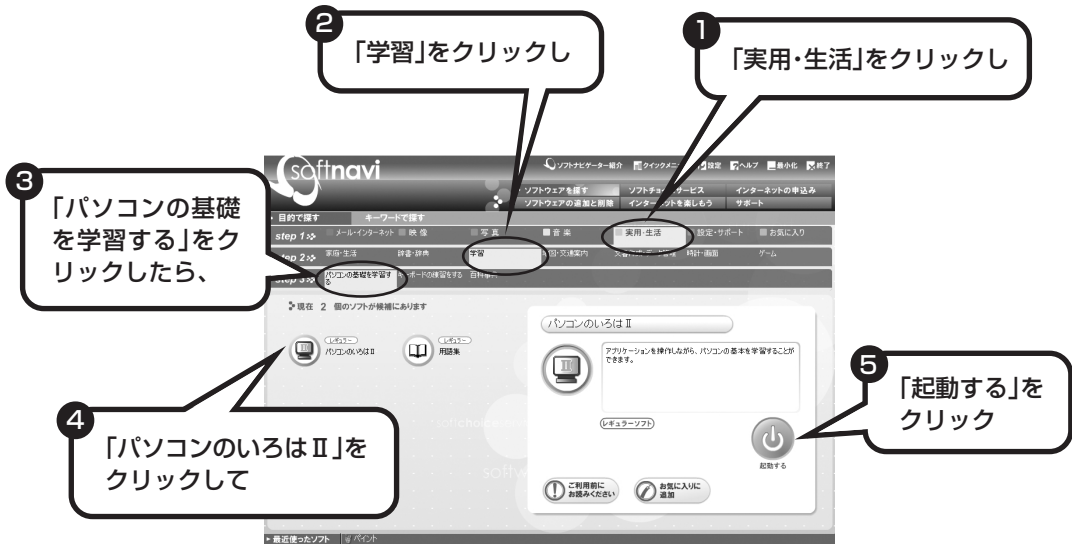
このランプが消えていると、キーボード右側にある電卓のように数字が並んだキー（テンキー）から数字が入力できません。【NumLock】キーを押すと、ランプの点灯／消灯が切り替わります。

キーボードの形状は、モデルによって異なります。

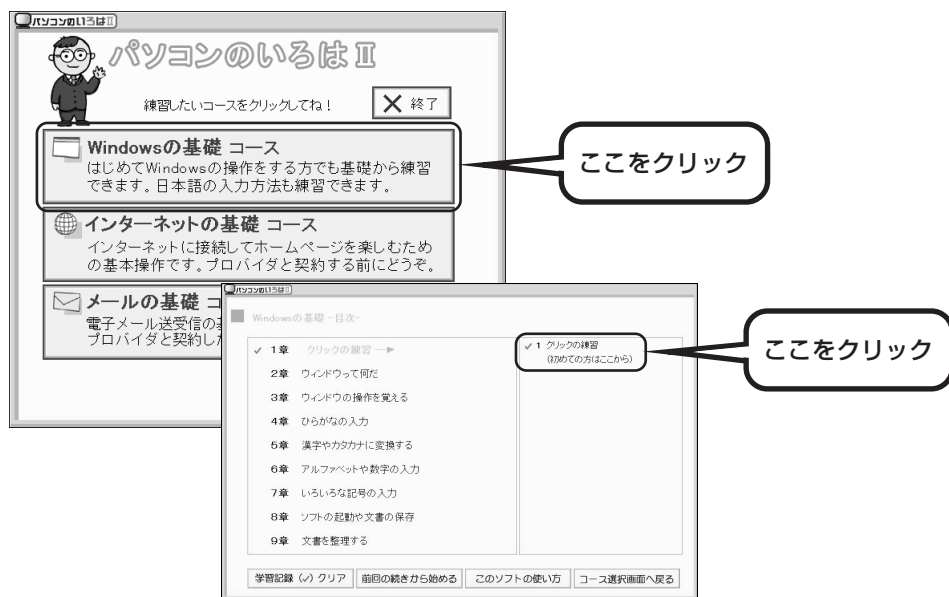
## 2 ソフトナビゲーターを起動する

マウスの矢印を合わせてクリック

### ソフトナビゲーターとは

このパソコンに入っているソフトを見つけたり、使い始めるときに利用します。ソフトナビゲーターについて詳しくは、『活用ブック』をご覧ください。

## 3 「パソコンのいろはⅡ」を始める

「パソコンのいろはⅡ」の最初の画面が表示されます。

## 4 「Windowsの基礎コース」へ進む

パソコンを使うのがはじめてのかたは、「クリックの練習」から始めてください。１～２時間で文字の入力まで練習することができます。練習の途中で「パソコンのいろはⅡ」を終わることもできます。その場合、画面右上に表示されている［終了］をクリックしてください。画面中央に「パソコンのいろはⅡを終了します」と表示されるので、「OK」をクリックします。

**「終了」をクリックしても「パソコンのいろはⅡを終了します」と表示されないときは、キーボードの【Esc】キーを押してから、再度「終了」をクリックしてください。**

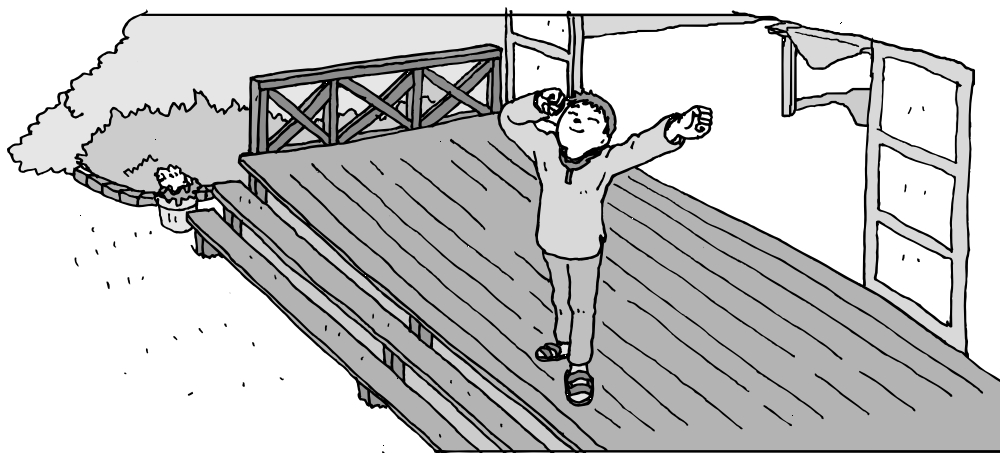
### 「メールの基礎コース」は、インターネットの設定が終わってから

「パソコンのいろはⅡ」には、次の３つのコースがあります。

・Windows の基礎コース
・インターネットの基礎コース
・メールの基礎コース

パソコンがはじめてのかたは、「Windowsの基礎コース」から順番に進めることをおすすめします。「メールの基礎コース」は、メールソフト「Outlook Express」の設定が済んでいないと練習することができません。Outlook Expressを使うには、まずプロバイダに加入して、インターネット接続の設定をする必要があります。加入がまだのかたは、プロバイダに加入して、インターネット接続ができるようにしてください。
プロバイダへの加入、インターネットの設定については、第５章をご覧ください。
Outlook Expressの設定については、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「Outlook Express」をご覧ください。

第5章

# これからインターネットを始めるかたへ

インターネットを利用してホームページを楽しんだり、メールをやりとりするためには、パソコンを通信回線に接続し、インターネット接続業者（プロバイダ）に入会する必要があります。ここでは、はじめて自分のパソコンでインターネットを始めるかたを対象に、接続や設定の手順を説明します。前に持っていたパソコンで、すでにインターネットを利用していたかたは、「第６章　パソコンを買い換えたかたへ」（135ページ）へ進んでください。

# インターネットの魅力

**インターネットは、わずかの間にものすごい勢いで普及が進んで、私たちの生活に身近なものになりました。**

## ホームページ

インターネットは情報の宝庫です。役所などの公共機関や大きな企業だけでなく、近所の商店や小さな工場まで、本当にいろいろな人たちが、自分のホームページを持つようになりました。電車の乗り継ぎや発車時刻をホームページで調べたり、バーゲンセールの目玉商品をホームページで確かめたりするなど、インターネットがあれば、生活のちょっとしたことが便利になります。

## メール

インターネットを利用したメール（「電子メール」とか「eメール」ともいいます）を使うと、家族や友人、仕事や趣味の仲間たちと手軽に連絡することができます。日本全国どこでも、世界中のどこにいる人とでも、料金を気にせず用件を伝えられること。デジカメで取った写真などをメールと一緒に送信できること。相手が都合のよいときにメールを見ればよいので、時間帯を気にしなくてよいこと。このような便利さのために、いまでは、たくさんの人たちにとって、メールが欠かせない通信手段になっています。

## まだまだある、インターネットの魅力

インターネットの通信回線を使って、格安の料金で市外電話や国際電話を利用することができる「IP電話」というサービスを利用することもできます。ホームページを経由して、買い物をしたり（「オンラインショッピング」といいます）、ソフトやデータを自分のパソコンに取り入れたり（「ダウンロード」といいます）、使う人それぞれにインターネットは活用されています。

# いろいろある接続方法

インターネットを利用するための接続方法には、いろいろなものがあります。はじめに、ダイヤルアップ接続か、ブロードバンド接続かを決めましょう。

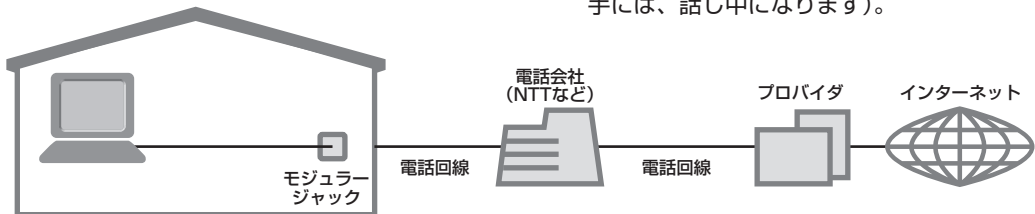
## ダイヤルアップ接続

家庭にある一般の電話回線にパソコンを接続して、インターネットを利用します。このパソコンには、モデム（データを電話回線経由でやりとりできるように変換する装置）が内蔵されているため、添付のモジュラーケーブルを使って、いますぐにインターネットを始めることができます。別に新しい機器をご購入する必要はありません。また、接続した時間分だけ料金を支払うことができるため、利用頻度や利用時間が少ない場合には、いちばん安い料金でインターネットを利用することができます。

### ダイヤルアップ接続の短所も知っておこう

けれども、このあとに説明する「ブロードバンド接続」と比べると、ダイヤルアップ接続には次のような短所もあります。このため、ホームページの利用頻度が少なく、メールを中心にインターネットを利用したいかたに向いています。

・通信速度が遅いため、ホームページがなかなか表示されないことや、動画などを再生できないことがある。

・パソコンでインターネットを利用しているときは、電話が使えない（電話をかけてきた相手には、話し中になります）。

## ブロードバンド接続

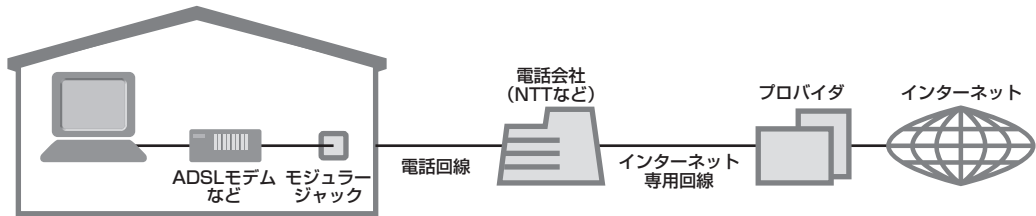
大量のデータを高速に受け取ることができる通信方式を使って、快適にインターネットを利用できるようにする接続方法です。次ページで説明するように、ブロードバンド接続にもいろいろな種類がありますが、おおよそ次のような特徴があります。

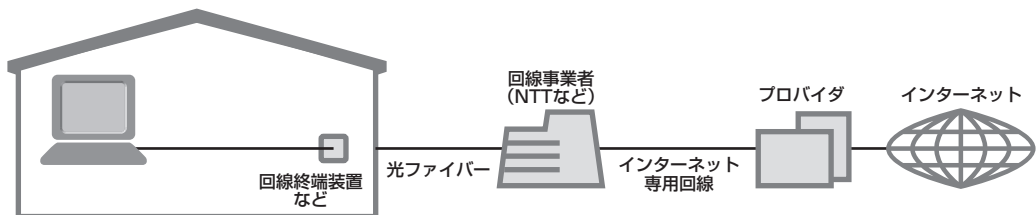
・いくらインターネットを利用しても、月額料金が変わらない（定額料金）。
・パソコンでインターネットを利用しているときも、電話が使える。
・接続するには、別の機器（ADSL モデムなど）が必要になる。
・回線の申し込みや工事が必要になることがある。
・住んでいる地域によっては、利用できないことがある。

# ブロードバンドにもいろいろある

インターネットを高速、快適に利用できるブロードバンド接続には、次のような種類があります。

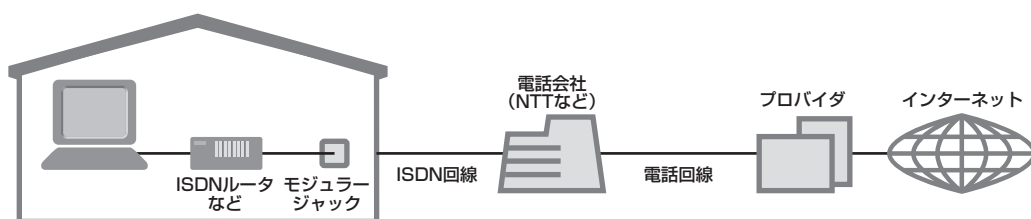
## ADSL(エーディーエスエル)

家庭にある一般の電話回線とパソコンの間に、ADSLモデムなどの接続機器を入れることによって、高速な通信ができます。

## FTTH(エフティーティーエイチ)

光ファイバーを使った回線を利用するもので、ほかのブロードバンド方式よりも高速に接続できます。サービスが提供されていない地域があり、利用料金もほかのブロードバンド方式よりは高めに設定されています。

## CATV(ケーブルテレビ)

ケーブルテレビの回線を使ってインターネットに接続します。ケーブルテレビのサービスが提供されていない地域では利用できません。

## ISDN回線でインターネットも利用できる

NTTのデジタル回線、ISDNに契約している場合、この回線を使ってインターネットを利用することもできます。通信速度は、アナログ回線を使ったダイヤルアップ接続より少し高速になる程度で、ブロードバンド接続ほどの速さを期待することはできませんが、電話とインターネットを同時に利用できます。また、料金も従量制（使った時間に応じて料金が変化）だけでなく、定額制（いくら使っても同じ金額）を選ぶこともできます。

# ブロードバンド接続の流れ

**ADSLの場合を例として、インターネットに接続するまでの流れを説明します。ダイヤルアップ接続するかたは、112ページの「アナログ回線に接続する」へ進んでください。**

## 1 プロバイダや申し込みたいコース(料金プラン)を決める

プロバイダとは、インターネット接続業者のことです。とくに会社を決めていない場合、NECが提供するインターネットプロバイダBIGLOBEに加入することをおすすめします。

## 2 プロバイダに申し込む

このパソコンから直接申し込むことができます。まず、パソコンをアナログ回線に接続してから、113ページの手順に沿って操作を進めます。

## 3 ADSL回線の開通を待つ

ADSLは、回線をNTT東日本またはNTT西日本が提供するもの（フレッツ・ADSL）と、別の回線事業者（イー・アクセスやアッカなどという会社があります）が提供するものがあります。どこが回線を提供するかや、通信速度などによってコース（料金プラン）が分かれています。ADSLを利用できるか適合チェックを行ってから、必要に応じてADSL対応モデムの準備や電話回線の工事などを行います。申し込みから開通までは、通常、数週間かかります（BIGLOBEなどのプロバイダは、申し込んでからADSL回線が開通するまでの間、ダイヤルアップ接続でインターネットを利用できるようにしています）。

## 4 回線装置を接続して、パソコンの設定を変更する

ADSLモデムなどの回線装置をパソコンに接続して、パソコンの設定を変更します。

## 申し込みたいコース(料金プラン)を決めるには

多くのプロバイダは、ブロードバンド方式、回線提供業者、通信速度などの種類別に、たくさんのコース（料金プラン）を用意しています。あらかじめ、プロバイダのパンフレット（BIGLOBEの『インターネット活用ブック』など）を見て検討してください。また、お住まいの地域や建物の状況によって利用できないサービスがあります。申し込みたいコースが利用できるかどうか、プロバイダに問い合わせてください。また、集合住宅の場合は、オーナーや管理組合の承認が必要な場合があるので、こちらも確認してください。

## ADSL以外の接続の場合

### FTTH

NTT東日本および西日本が提供する「Bフレッツ」のコースを選んだ場合、光ファイバーの利用が可能か、NTTの担当者がコンサルティングを行います。詳しくは、プロバイダにお問い合わせください。

### CATV

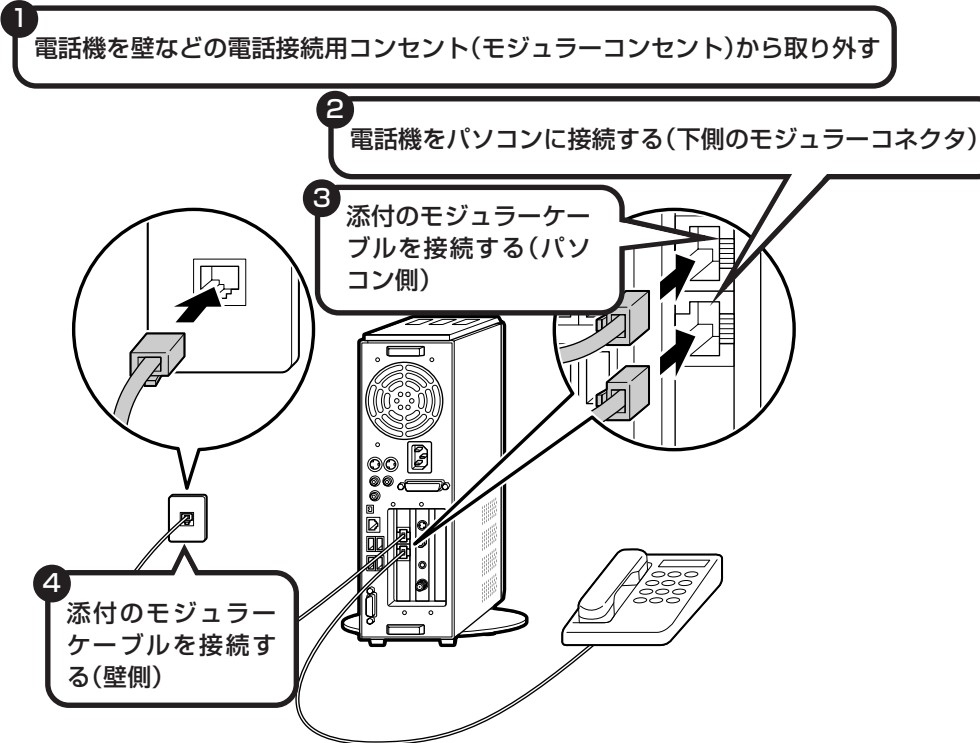
ケーブルテレビ局への申し込みが必要です。申し込み手続きやインターネット接続用機器の設置などについては、ご利用地域のケーブルテレビ局にお問い合わせください。

### ISDN

BIGLOBEの場合、ダイヤルアップコースの中にある「フレッツISDN」が該当します。これまでアナログ回線で電話を利用していたかたは、ISDN回線への切り替え工事を行い、TA（ターミナルアダプタ）などのISDN接続機器を設置する必要があります。

# アナログ回線に接続する

このパソコンからプロバイダに入会を申し込む前に、パソコンと電話線を接続する必要があります。

## 1 図のように接続する

電話機は、パソコンの電源が入っていても切れていても、これまでどおり使用できます。ただし、パソコンでインターネットを利用しているときや、プロバイダへの入会を申し込んでいるときは、電話を使うことはできません。このとき電話がかかってくると、相手に話し中の信号音が聞こえます。

パソコンと電話回線をつなぐモジュラーケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

### インターネット無料体験について

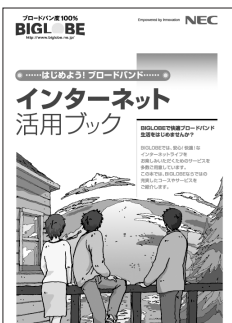
画面に表示されている（インターネット無料体験）をダブルクリックすると、専用ソフトが起動して14日間無料でインターネットを体験できます（電話料金は別途かかります）。プロバイダに入会を申し込む前に、インターネットのホームページを見ることができます。

有効期限は2006年3月31日までです

# プロバイダに加入する

BIGLOBEに加入する場合を例に、プロバイダ（インターネット接続業者）に加入する手順を説明します。

・ここでは、このパソコンから直接加入する手順を説明します。キーボードから自分の名前や住所などを入力する必要があります。

・プロバイダの加入申込書に記入して、FAXや郵送で申し込むこともできます。BIGLOBEの加入申込書は、『インターネット活用ブック』に入っています。
「BIGLOBE電話で入会センター」にてお電話での入会申し込みもできます。

## プロバイダって何をするの？

プロバイダはインターネットに24時間つながっているコンピュータ（「サーバー」といいます）を管理しています。このサーバーが、メールを一時的に預かってくれたり、インターネットにつなげる中継役となってくれるのです。プロバイダは、「ISP（インターネット・サービス・プロバイダの略）」と呼ばれることもあります。

## 1 BIGLOBEへの加入手続きを始める

画面の（BIGLOBEでインターネット）をダブルクリックする。

このあとの手順は、画面に表示される指示にしたがって進めてください。

## その他のプロバイダに加入するには

画面の（インターネットを始めよう）をダブルクリックすると、さまざまなプロバイダに加入する手続きができます。

クリックしたプロバイダのサービス内容などが、同じ画面の右側に表示されます。その中から「入会する」などの表示をクリックすると、各プロバイダへの加入手続きが始まります。

**この方法で加入できるのは、次のプロバイダです。**

BIGLOBE、AOL、DION、OCN、ODN、So-net、@nifty、かるがるネット、Yahoo! BB

---

ケーブルテレビなど、上記以外のプロバイダに加入したい場合、各プロバイダまでお問い合わせください。

# ダイヤルアップ接続の設定

ダイヤルアップ接続を選んでプロバイダに入会したかたは、ここでパソコンの設定を行ってください。ブロードバンド接続を選んだかたで、回線が開通するまでの間ダイヤルアップ接続を行うかたも、同じように設定してください。

## 1 「インターネットのプロパティ」で設定する

## 2 インターネットに接続する

**このパソコンから直接BIGLOBEなどのプロバイダに加入した場合、「ユーザー名」と「パスワード」の欄には加入時の情報が入力されています。これらの欄が空欄になっているときは、申し込んだプロバイダまで設定方法をお問い合わせください。**

### ユーザー名とは

プロバイダに接続するための識別番号で、加入時に決まるものです（一般には、メールアドレスと違って自分で好きなものを選ぶことはできません）。プロバイダによっては、「ユーザID」、「ログインID」、「アカウント名」などと呼ばれることがあります。

### パスワードとは

本人であることを証明するための暗証番号です。他人に悪用されることがないよう「＊＊＊」で表示されます。プロバイダによっては「接続パスワード」などと呼ばれることもあります。

しばらくすると、インターネットに接続され、画面右下に「接続しました」と表示されます。このときに表示されるマークを、「接続アイコン」と呼びます。このマークが出ているときは、インターネットに接続中で、パソコンが電話回線を使用している（＝電話料金がかかっている）ことを表します。

## 正式なIDとパスワードが発行されたときは

プロバイダによっては、最初に加入申し込みを受け付けるときに仮のIDとパスワードを決め、あとから郵送される会員証などで正式のIDとパスワードを知らせてくることがあります。その場合、会員証を受け取ったら、「ユーザー名」と「パスワード」の欄に、正式なものを入力しなおしてください。

## 3 インターネットへの接続を切る

インターネットへの接続を切る（電話を切る）ときは、画面右下に表示されている（接続アイコン）をクリックします。

インターネットへの接続が切れると、（接続アイコン）の表示が消えます。

**メールの設定は、128ページで**

メールを使えるようにするには、このパソコンに入っているメールソフトOutlook 2003の設定を行う必要があります。

# ブロードバンド回線に接続する

ブロードバンドの通信回線が開通したら、パソコンを通信回線に接続します。

## 必要なもの

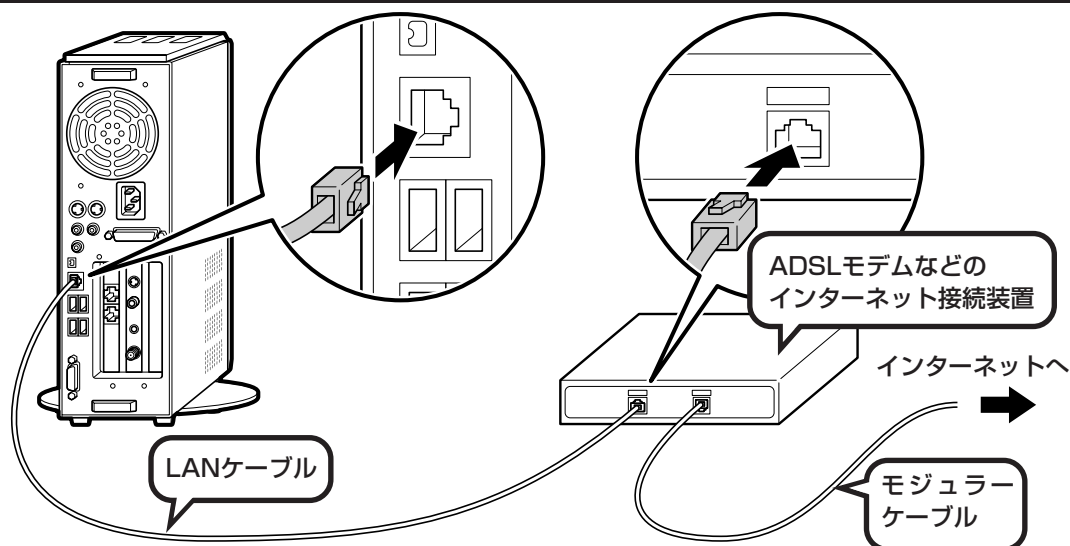
### LAN ケーブル

ADSLモデムなどに添付されていなければ、LANケーブルをお買い求めください。LANケーブルには「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の2種類があります。パソコンとADSLモデムなどのインターネット接続機器をつなぐときは、ストレートケーブルを使用してください。

### インターネット接続機器

ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、加入申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

- ・ADSL：ADSLモデム
- ・FTTH ：回線終端装置（回線工事で設置）
- ・CATV：ケーブルモデム（CATV開通工事で設置）
- ・ISDN ：TA（ターミナルアダプタ）

## 1 図のように接続する

ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

# ブロードバンド接続の設定

パソコンを通信回線に接続したら、次のように設定してください。

・ここで説明している設定や流れは、あくまでも一例です。お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。プロバイダから入手した説明書や、プロバイダのホームページなどで設定を確認することをおすすめします。
・ADSL の場合、モデムのタイプによって手順が異なります。該当する説明をご覧ください。

## ブリッジタイプのADSLモデムを設定する

ルータタイプのADSLモデムをお使いの場合と、FTTHの回線終端装置をお使いの場合は、このあとの「ルータタイプの ADSL モデムを設定する」へ進んでください。

## 1 ウィザードを表示する

❶ スタート をクリックして、

❷「コントロールパネル」をクリック

❸「ネットワークとインターネット接続」をクリック

❹「ネットワーク接続」をクリック

❺「新しい接続を作成する」をクリック

## 2 ウィザードにしたがって操作する

## ユーザー名とは

プロバイダに接続するための識別番号で、BIGLOBEの場合は「ユーザID」と呼ばれます。プロバイダから送られた会員証などで確認してください。「ログインID」、「アカウント名」などと呼ばれることもあります。

## パスワードとは

本人であることを証明するための暗証番号です。プロバイダから送られた会員証などで確認してください。「接続パスワード」などと呼ばれることもあります。

「完了」をクリックすると、新しい接続ウィザードの画面が閉じ、プロバイダに接続するための画面が開きます。

## 3 「インターネットのプロパティ」で「LANの設定」をする

☑ になっている項目があるときは、クリックして □ に変更してください。

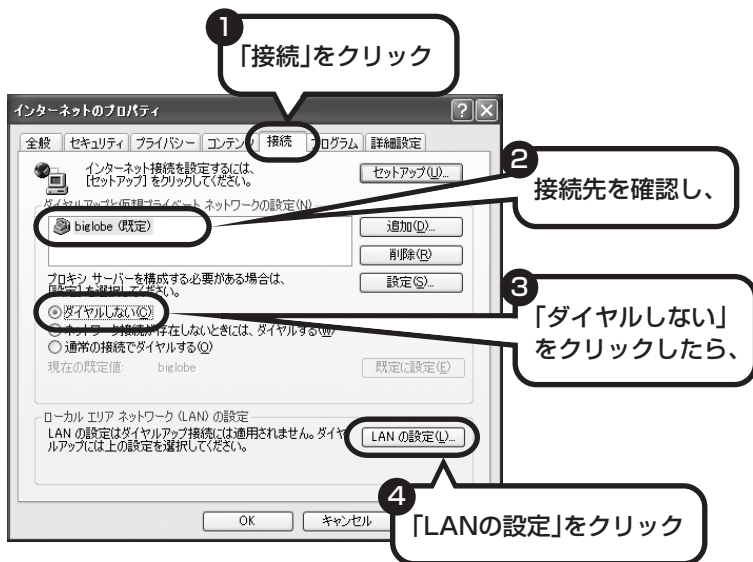
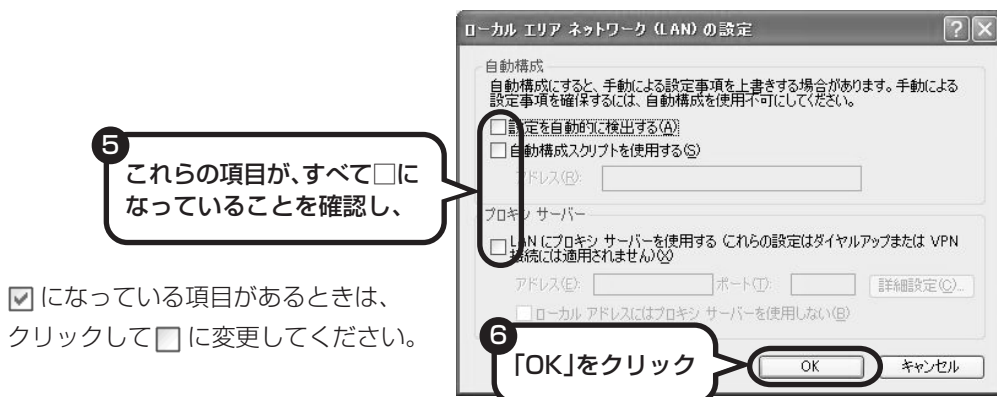
「OK」をクリックすると、「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」画面が閉じます。続けて、「インターネットのプロパティ」の画面でも「OK」をクリックして閉じてください。

**これで、ブリッジタイプの ADSL モデムの設定は完了です。**
**127 ページへ進んでインターネットへの接続を試してください。**

## ルータタイプのADSLモデムを設定する

FTTHを利用するかたも、同じように設定してください。

### 1 インターネットのプロパティを表示する

## 2 「ダイヤルしない」に設定する

接続先が何も表示されていない場合は、そのままでかまいません。

☑ になっている項目があるときは、クリックして □ に変更してください。

「OK」をクリックすると、「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」画面が閉じます。続けて、「インターネットのプロパティ」の画面でも「OK」をクリックして閉じてください。

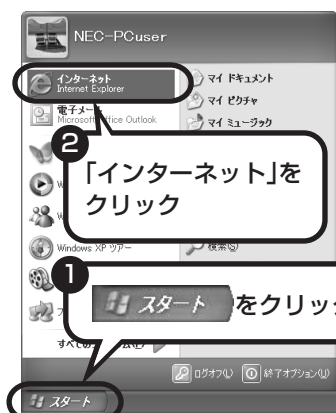
## 3 パソコンを再起動する

しばらくすると、パソコンの電源が切れ、自動的にもう一度電源が入ります（再起動）。

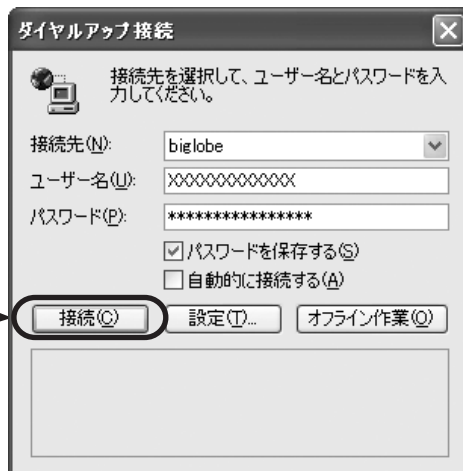
**これで、ルータタイプのADSLモデムの設定は完了です。次ページへ進んでインターネットへの接続を試してください。**

## インターネットに接続する

インターネットに接続できるか確認しましょう。

### 1　Internet Explorerを起動する

#### ブリッジタイプをお使いの場合

次の接続用画面が表示されます。

「接続」をクリックすると、Internet Explorerが起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます。USB接続するADSLモデムをお使いの場合も同じです。

#### ルータタイプをお使いの場合

ルータタイプのADSLモデムを使っている場合、接続用の画面は表示されず、直ちにInternet Explorerが起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます。これは、ルータタイプでは、パソコンの電源を入れると自動的にインターネットに接続されるためです。

**これで、インターネット接続の設定は終わりです。**
**続けてメールの設定に進んでください。**

# メールソフトを設定する

このパソコンには、メールを利用したり、スケジュールを管理したりするために、Outlook（アウトルック）というソフトが用意されています。

・ADSLやFTTHで接続する場合、使用する機器やプロバイダによっては、ここでの説明とは異なる設定が必要になることがあります。プロバイダの資料やホームページに設定例などが記載されている場合は、そちらも合わせてご覧になり、設定することをおすすめします。

・Outlookが入っていないモデルをお使いのかたは、「Outlook Express」というソフトでメールを利用できます。Outlook Expressの設定については、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「Outlook Express」をご覧ください。

## 1 Outlookを起動する

1 スタート をクリックして、

2 「電子メール」をクリック

3 「次へ」をクリック

4 「次へ」をクリック

## 2 サーバーの種類を選ぶ

電子メール アカウント

**サーバーの種類**
新しい電子メール アカウントで使用するサーバーの種類を選択します。

○ Microsoft Exchange Server(M)
Exchange サーバーに接続して、電子メールの読み取り、パブリック フォルダへのアクセス、ドキュメントの共有を行います。

◉ POP3(P)
POP 電子メール サーバーに接続します。一般的にインターネット サービス プロバイダ (ISP) では POP サーバーが使用されています。プロバイダから取得したメール アカウントを使用する場合はこちらを選択してください。

○ IMAP(I)
IMAP 電子メール サーバーに接続して、電子メールのダウンロードやメールボックス フォルダの同期を行います。

○ HTTP(H)
Hotmail などの HTTP 電子メール サーバーに接続して、電子メールをダウンロードしたりメールボックス フォルダを同期します。

○ その他のサーバー(A)
ほかのワークグループや他社のメール サーバーに接続します。

< 戻る(B)　次へ(N) >　キャンセル

❶「POP3」をクリックして、

❷「次へ」をクリック

ほとんどのプロバイダは「POP3」という種類のサーバーを使っています。プロバイダが「IMAP」という種類のサーバーを使っている場合は、「IMAP」を選びます。その場合、詳しくはプロバイダに確認してください。

## 3 名前などを入力する

### ■ この画面では、次の項目に入力してください。

| | |
|---|---|
| **名前** | 自分の名前を入力します。日本語、アルファベット、どちらで入力してもかまいません。 |
| **電子メールアドレス** | ご利用の電子メールアドレスを入力します。 |
| **受信メールサーバー(POP3)** | プロバイダの会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、「メールサーバー」、「POPサーバー」、「メール受信サーバー」などと呼ばれることもあります。 |
| **送信メールサーバー(SMTP)** | 会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、受信メールサーバーと送信メールサーバーのアドレスは同じことがあります。「メールサーバー」、「SMTPサーバー」、「メール送信サーバー」などと呼ばれることもあります。 |
| **アカウント名** | 会員証などを見て、アカウント名として記載されているものを入力します。「メールアカウント」、「メールサーバーログイン名」、「POPアカウント名」、「メールログイン名」などと呼ばれることもあります。 |
| **パスワード** | 会員証などを見て、メールパスワードとして記載されているものを入力します。「メールサーバーパスワード」などと呼ばれることもあります。 |

## 4 「詳細設定」で接続方法を設定する

このあとの手順は、接続方法によって異なります。

### ダイヤルアップの場合

「電話回線を使用する」をクリックして、○を◉にします。次に「モデム」欄で、使用するダイヤルアップネットワーク接続の名前を選びます。設定内容を確認したら、「OK」をクリックしてください。
「電子メールアカウント」の画面に戻ったら、「次へ」をクリックします。

### ブリッジタイプのADSLモデムの場合

「電話回線を使用する」をクリックして、○を◉にします。次に「モデム」欄で、使用するダイヤルアップネットワーク接続の名前を選びます。続けて、「送信サーバー」タブをクリックして、サーバーを設定してください。

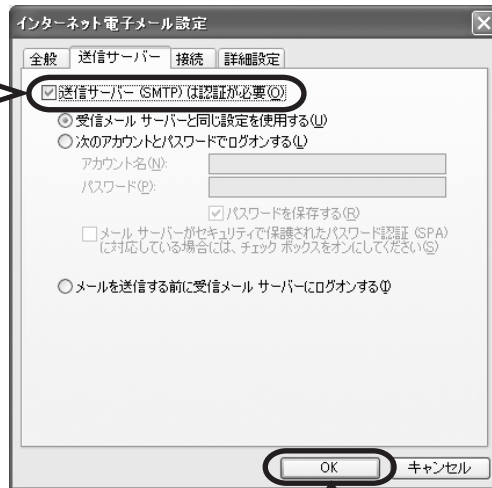
### ルータタイプの ADSL モデムの場合

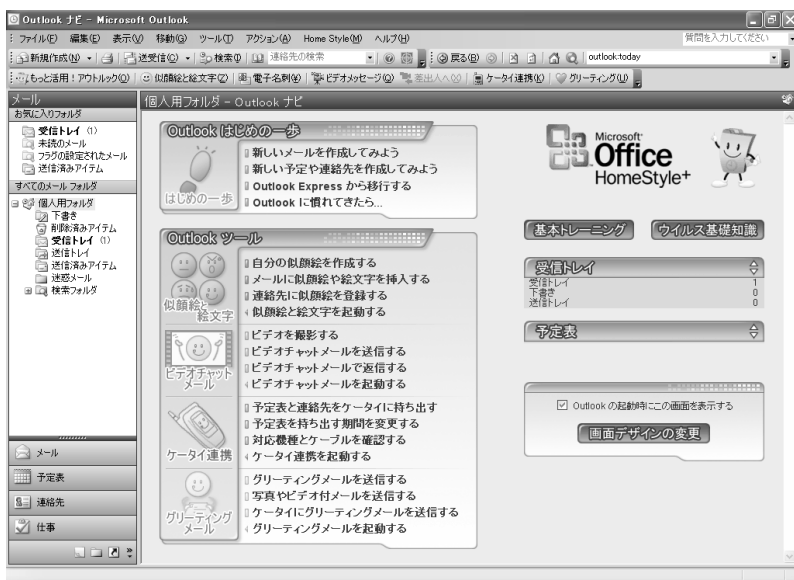
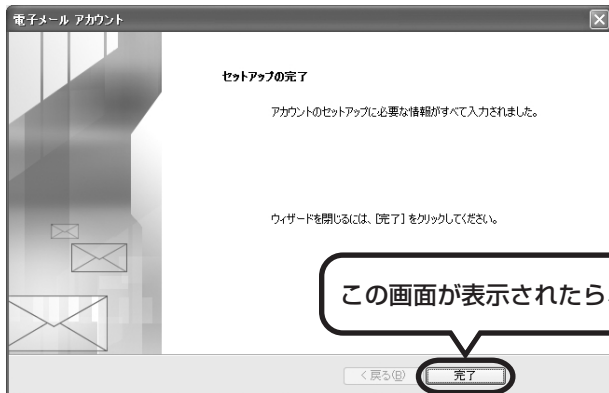
「ローカルエリアネットワーク（LAN）を使用する」をクリックして、○を◉にします。続けて、「送信サーバー」タブをクリックして、サーバーを設定してください。

### 送信サーバーの設定：<br>ブリッジタイプ、ルータタイプ共通

「送信サーバー（SMTP）は認証が必要」をクリックして☑にしてください。次に、「受信メールサーバーと同じ設定を使用する」が◉になっていることを確認します。ほとんどのプロバイダでは、「受信メールサーバーと同じ設定を使用する」ようになっています。

設定内容を確認したら、「OK」をクリックしてください。「電子メールアカウント」の画面に戻ったら、「次へ」をクリックします。

「送信サーバー(SMTP)は認証が必要」をクリックして☑にする

送信用メールサーバーのアカウント名やパスワードが違う場合だけ、「次のアカウントとパスワードでログオンする」をクリックして、アカウント名とパスワードを入力してください。

## 5 メールの設定を完了する

**これで、メールが使えるようになりました。**
**メールを送ったり受け取ったりする方法については、**
**『活用ブック』をご覧ください。**

# このあとの進め方

いよいよインターネットやメールが使えるようになりました。
ここで紹介するマニュアルには、インターネットやメールを活用する方法や、安全に使うための対策が書いてあります。本格的にインターネット・メールを使い始める前に、ぜひご覧ください。

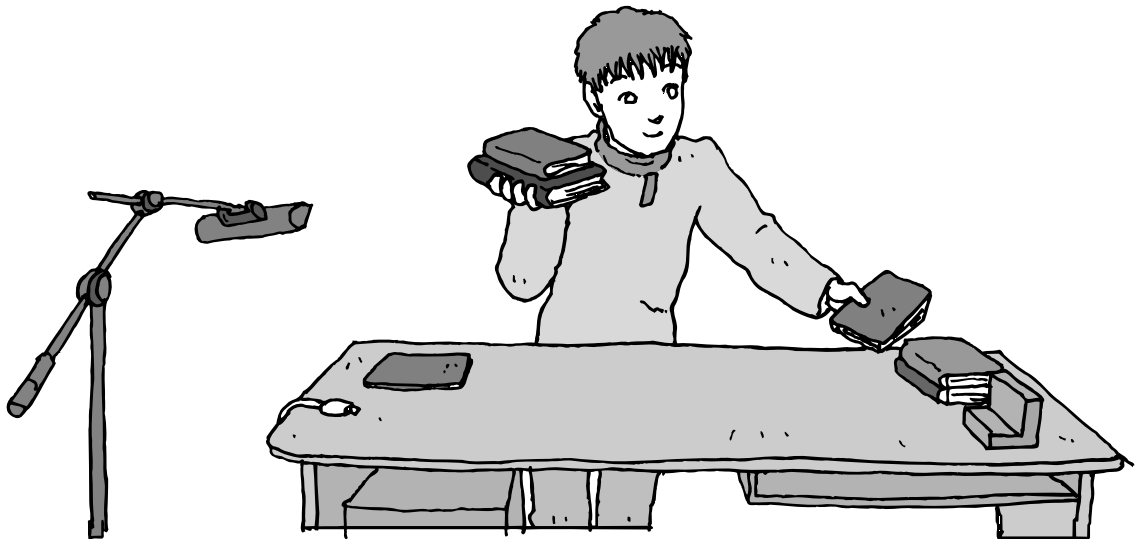
## インターネット・メールの楽しみ方を知るには『活用ブック』

インターネットやメールでどんな楽しみ方ができるのか、活用方法を『活用ブック』で紹介しています。
お気軽に読み進めてください。

## インターネットのセキュリティ対策については「サポートナビゲーター」

インターネットやメールは、とても楽しく便利な反面、危険も多くあります。コンピュータウイルスや外部からの不正アクセスなどの被害にあわないように、前もって対策が必要です。「サポートナビゲーター」では、インターネットのセキュリティ対策について、詳しく説明しています。デスクトップにある（困ったときのサポートナビゲーター）をダブルクリックしてご覧ください。

第6章

# パソコンを買い換えたかたへ

すでにパソコンを使っていたかたが、このパソコンでインターネットを利用できるようにしたり、前のパソコンからデータを移したり、前のパソコンで使っていたデータや周辺機器を使えるようにする方法について説明します。

# インターネットを使えるようにする ダイヤルアップ編

これまでのパソコンでダイヤルアップ接続を利用していたかたは、次の手順でインターネットの接続と設定を行ってください。

### ブロードバンドのかたは、144ページへ

ADSLなど、前のパソコンでブロードバンド接続を利用していたかたは、144ページへ進んでください。パソコンを買い換えたことを機会にダイヤルアップ接続からブロードバンド接続に切り替えたいかたは、まず、次の説明を読んでダイヤルアップ接続を行い、そのあとでプロバイダのホームページからコース変更を申し込んでください。

### ダイヤルアップとは

インターネットを利用するたびに、パソコンから電話をかける接続方法です。前のパソコンにモデムが内蔵されている場合は、パソコンと電話回線をモジュラーケーブルで接続していたはずです。前のパソコンを電話回線から取り外し、代わりにこのパソコンを接続してください。

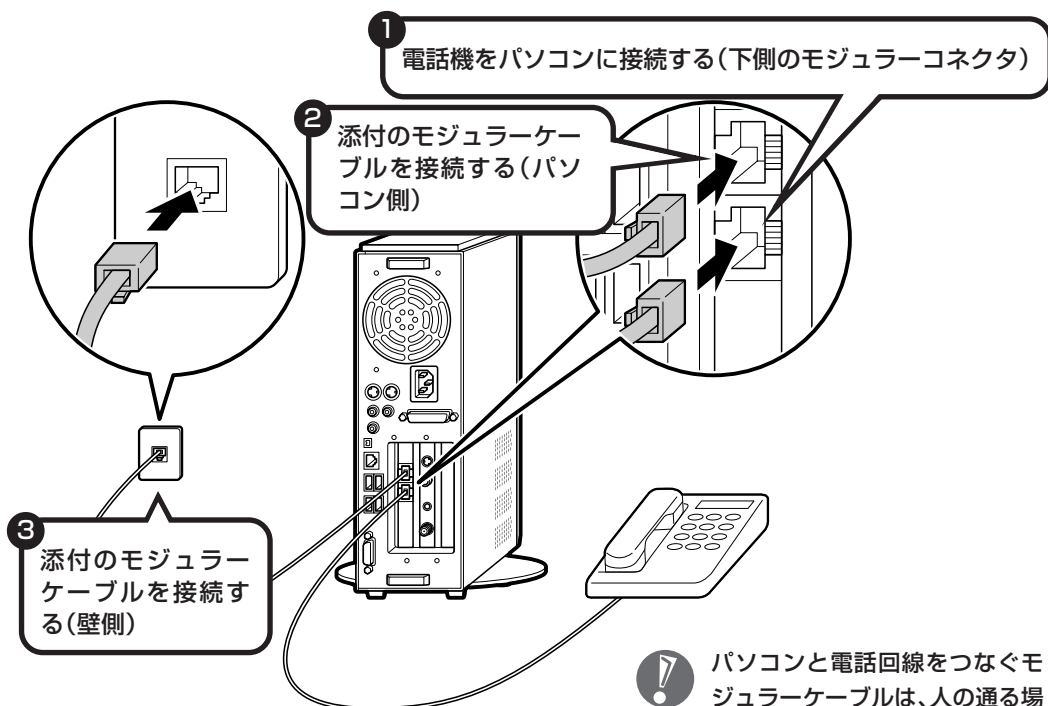
前のパソコンにモデムが内蔵されていない場合、外付けのモデムを利用していたと考えられます。このパソコンにはモデムが内蔵されているため、従来お使いの外付けモデムを利用する必要はありません。

## 1 パソコンを電話回線に接続する

1 電話機をパソコンに接続する(下側のモジュラーコネクタ)

2 添付のモジュラーケーブルを接続する(パソコン側)

3 添付のモジュラーケーブルを接続する(壁側)

パソコンと電話回線をつなぐモジュラーケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

## パソコンの設定を行う

操作を始める前に、これまでのパソコンで利用していたアクセスポイントの電話番号を調べておいてください。アクセスポイントとは、プロバイダに接続するための電話番号です。わからないときは、プロバイダにお問い合わせください。

### 1 「電話とモデムのオプション」を表示する

1 スタート をクリックして、

2 「コントロールパネル」をクリック

3 「プリンタとその他のハードウェア」をクリック

4 「電話とモデムのオプション」をクリック

5 「ダイヤル情報」をクリックして、

6 「新規」をクリック

7 「所在地」を入力し、

8 0(ゼロ)を除いた市外局番を入力し、

9 電話回線の種類を選んでから

10 「OK」をクリック

| 所在地 | この説明では、例として「東京」と入力していますが、自宅の所在地（市外局番が該当する都市名など）を入力してください。 |
|---|---|
| 市外局番 | 先頭の「0（ゼロ)」は入れないでください。 |
| ダイヤル方法 | ご利用の電話回線が「トーン」（プッシュ回線契約）か「パルス」かを選びます。回線の種類がわからない場合は、NTTの「116」番に問い合わせてください。 |

11 入力した所在地、市外局番が追加されていることを確認して、

12 「OK」をクリック

## 2 「新しい接続ウィザード」を表示する

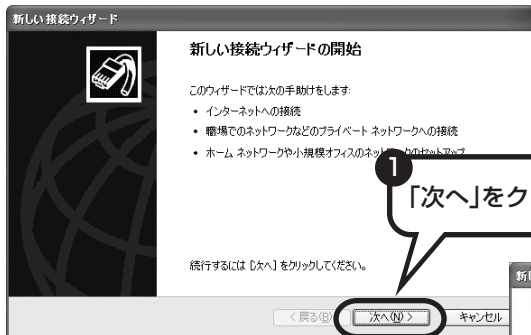
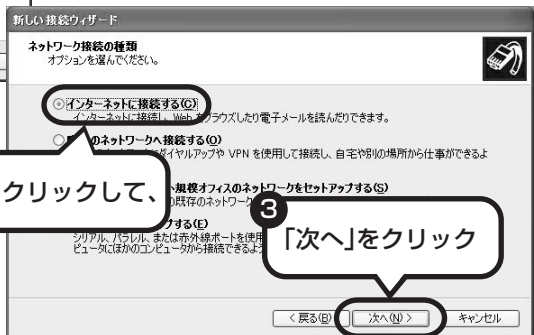
❶ スタート をクリックして、

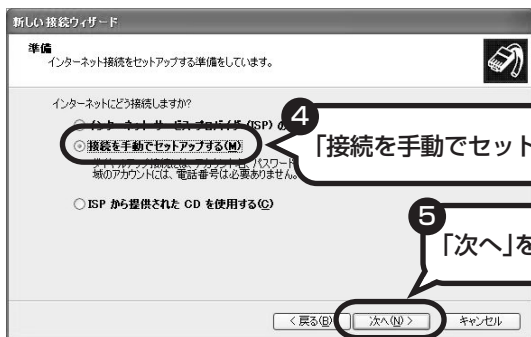
❷ 「コントロールパネル」をクリック

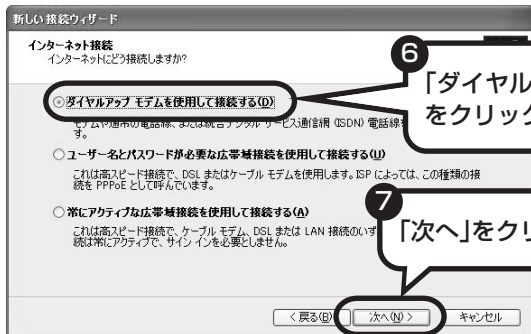
❸ 「ネットワークとインターネット接続」をクリック

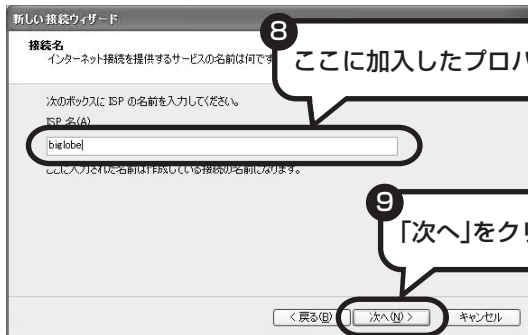
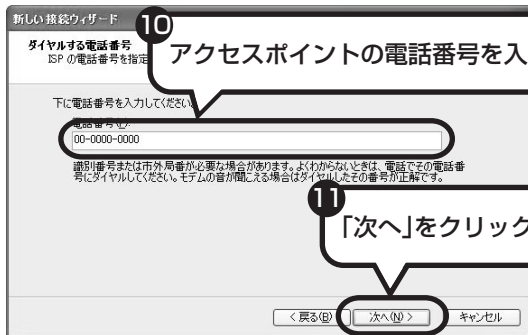
❹ 「ネットワーク接続」をクリック

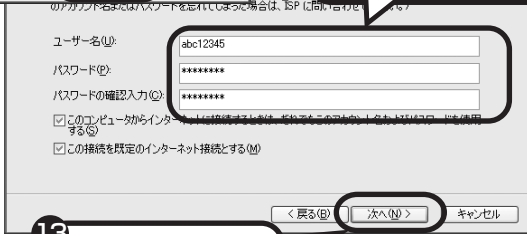
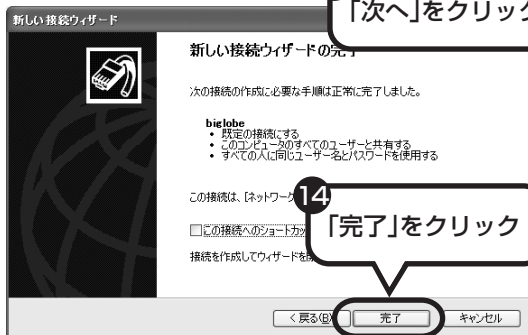
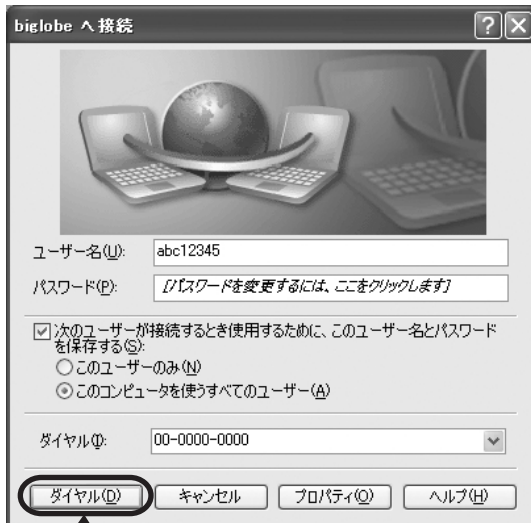
❺ 「新しい接続を作成する」をクリック

## 3 ウィザードにしたがって操作する

❶「次へ」をクリック

❷「インターネットに接続する」をクリックして、

❸「次へ」をクリック

❹「接続を手動でセットアップする」をクリックして、

❺「次へ」をクリック

❻「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」をクリックして、

❼「次へ」をクリック

「完了」をクリックすると、新しい接続ウィザードの画面が閉じ、インターネットに接続するための画面が開きます。

### ユーザー名とは

プロバイダに接続するための識別番号です。「ログイン ID」、「アカウント名」などと呼ばれることもあります。

### パスワードとは

本人であることを証明するための暗証番号です。「接続パスワード」などと呼ばれることもあります。

## 4 インターネットに接続する

しばらくすると、インターネットに接続され、画面右下に「接続しました」と表示されます。このときに表示されるマークを、「接続アイコン」と呼びます。
このマークが出ているときは、インターネットに接続中で、パソコンが電話回線を使用している（＝電話料金がかかっている）ことを表します。

この状態で、「スタート」をクリックし、続けて「インターネット」をクリックすると、ホームページを見ることができます。

## 5 インターネットへの接続を切る

インターネットへの接続を切る（電話を切る）ときは、画面右下に表示されている（接続アイコン）をクリックします。

インターネットへの接続が切れると、（接続アイコン）の表示が消えます。

2回目以降のインターネットへの接続方法については、115ページをご覧ください。

**続けて、「メールソフトを設定する」（128ページ）をご覧ください。メールソフトの設定が終わったら、146ページへ進み、データや周辺機器、アプリケーションソフトの移行作業を行ってください。**

# インターネットを使えるようにする ブロードバンド編

これまでのパソコンで、ADSLなどのブロードバンド接続を利用していたかたは、次の手順でインターネットの接続と設定を行ってください。

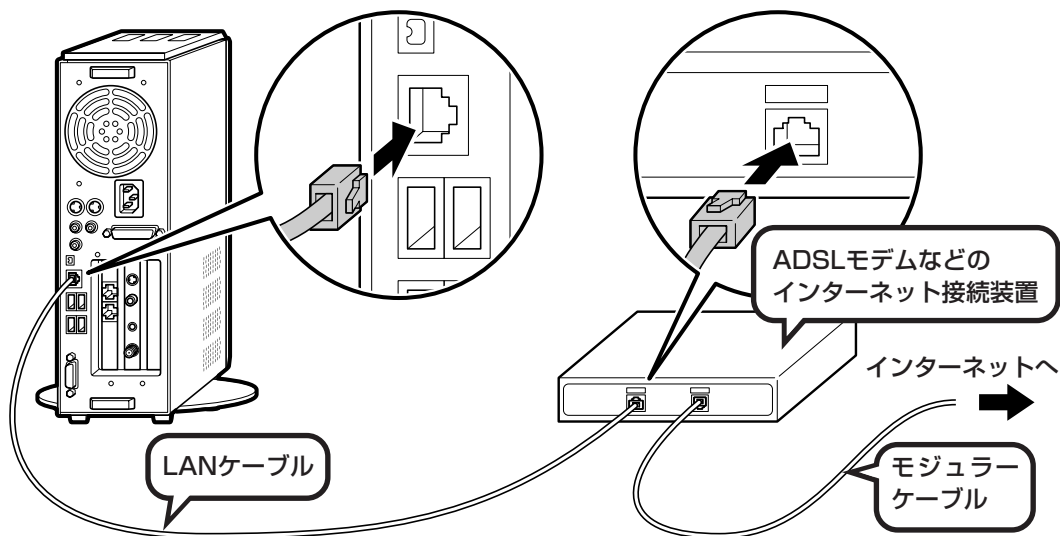
## ダイヤルアップのかたは、136 ページへ

前のパソコンを家庭の電話回線に直接接続して、ダイヤルアップ接続を利用していたかたは、136ページを参照してください。パソコンを買い換えたことを機会にダイヤルアップ接続からブロードバンド接続に切り替えたいかたも、まず、ダイヤルアップ接続を行い、そのあとでプロバイダのホームページからコース変更を申し込んでください。

## CATV のかたは、ケーブルテレビ局に確認を

前のパソコンでCATV接続を利用されていたかたは、ご契約のケーブルテレビ局にパソコンを買い換えたときの設定方法についてお問い合わせください。

## 1 パソコンを通信回線に接続する

**前のパソコンと同じように接続してください。**

ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

## このあとの設定について

ブロードバンド接続でインターネットを使えるようにするには、モデムの設定とメールソフトの設定が必要です。ご利用の機器に合わせて、該当するページをご覧ください。

### ブリッジタイプのADSLモデムを設定する

**119ページをご覧ください。**

USB接続するADSLモデムをお使いの場合も同じです。

### ルータタイプのADSLモデムを設定する

**124ページをご覧ください。**

FTTHを利用している場合も同じです。

### インターネットに接続する

**127ページをご覧ください。**

どのタイプのモデムをご利用の場合も、モデムの設定が終わったら、インターネットへの接続を試してください。

### メールソフトを設定する

**128ページをご覧ください。**

インターネットに接続してホームページを見ることができたら、必ず、メールソフトの設定を行ってください。

**上記の設定を済ませてから、次ページへ進み、データや周辺機器、アプリケーションソフトの移行作業を行ってください。**

# 古いパソコンからデータを移す

データ引越ツール「データトラベリング」を利用すると、これまでお使いのパソコンからデータを移行することができます。

## データトラベリングで移行できるデータ

次のようなデータを移行することができます。

・Internet Explorerの「お気に入り」
・Outlookの予定表や連絡先、メールのアカウントや受信データなど
・Outlook Expressのアカウント、アドレス帳や送受信データ
・年賀状作成ソフト「筆王」の住所録
・マイドキュメントに保存されているデータ
・デスクトップに置かれているデータ
・指定のフォルダに入っているデータ
・ダイヤルアップ接続の設定

**移行される内容について詳しくは、データトラベリングを起動後、最初に表示される画面で「機能紹介と移行内容」をクリックしてご確認ください。**

## 古いパソコンが次の条件にあてはまること

### 使用していたOSが次のいずれかであること

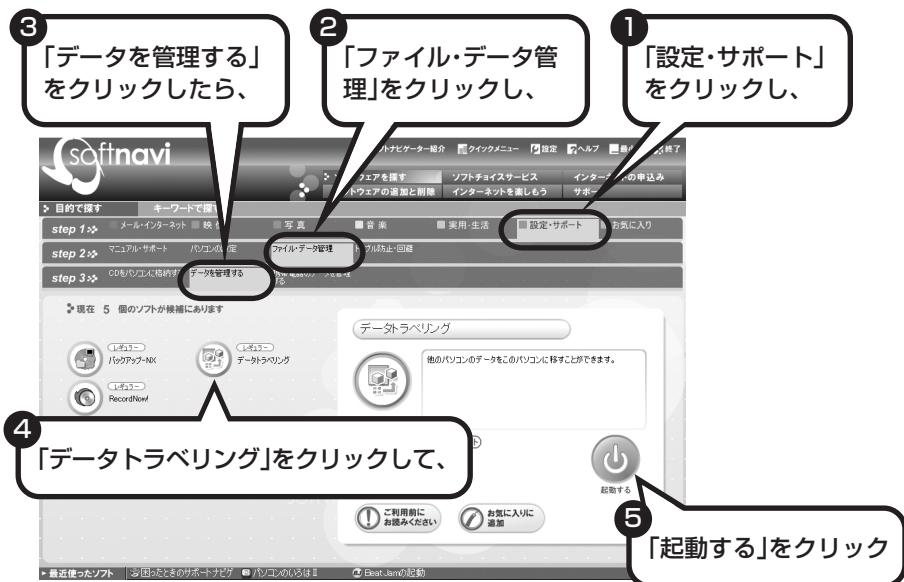
・Windows 98 Second Edition
・Windows Me(Millennium Edition)
・Windows 2000 Professional
・Windows XP Home Edition
・Windows XP Professional

これまでにお使いのパソコンのOSが上記以外の場合、データトラベリングは利用できません。マイドキュメントのウィンドウで、[ヘルプ] - [バージョン情報] をクリックすると、Windowsのバージョンを調べることができます(マイコンピュータ、コントロールパネルなどのウィンドウでも同様です)。

### LANコネクタがあること

データトラベリングを利用するには、古いパソコンとこのパソコンをLANケーブルで接続する必要があります。これまでお使いのパソコンにLANコネクタがない場合、利用できません。

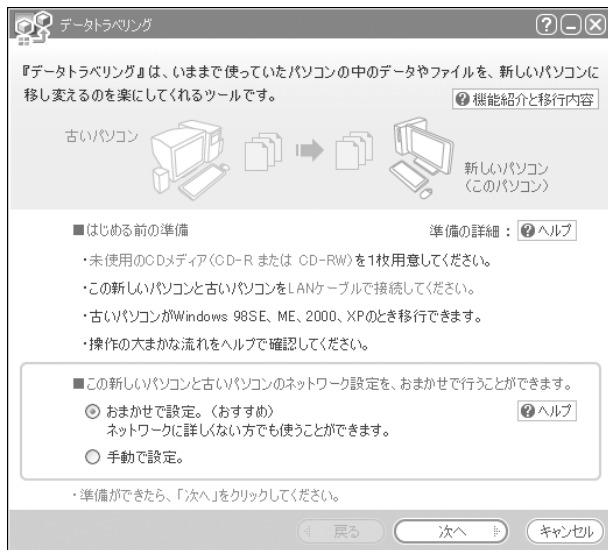
## 1　データトラベリングを使う準備をする

未使用のCD-RまたはCD-RWを1枚用意する。

**DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW、DVD-RAM、2層式DVDは使用できません。**

古いパソコンと、このパソコンをLANケーブルで接続してください。詳しくは、データトラベリングを起動後、最初に表示される画面で、「はじめる前の準備」の「ヘルプ」をクリックして説明をご覧ください。

- **HUB（ハブ）を使って接続するときは、2台のパソコンをそれぞれストレートケーブルでハブに接続してください（こちらの接続方法をおすすめします）。**
- **2台のパソコンを直接接続するときは、クロスケーブルをお使いください。**
- **複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、管理者権限のあるユーザーでログオンしてください。ほかのユーザーはログオフしてください。**

## 2　データトラベリングを起動する

デスクトップ画面の右側に表示された「softnavi」（ソフトが見つかるソフトナビゲーター）をクリックする。

## 3 ネットワーク設定をする

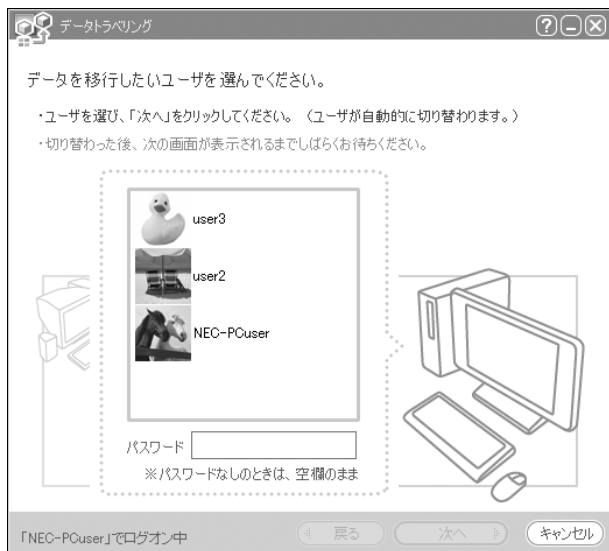
通常は「おまかせで設定。（おすすめ）」を選択して、「次へ」をクリック します。ネットワーク設定を自分で行いたい場合は「手動で設定。」を選択してください。詳しくは「ヘルプ」をクリックして確認してください。

**「おまかせで設定。（おすすめ）」を選ぶと、コンピュータの設定が変更される場合があります。詳しくは「ヘルプ」をクリックして確認してください。**

「ヘルプ」をクリックしてファイアウォールと共有フォルダの設定を行います。設定が終わったら「次へ」をクリックします。

**データの移行に必要な設定ですので、必ず行ってください。**

# 4 このパソコンで「ツールCD」を作成する

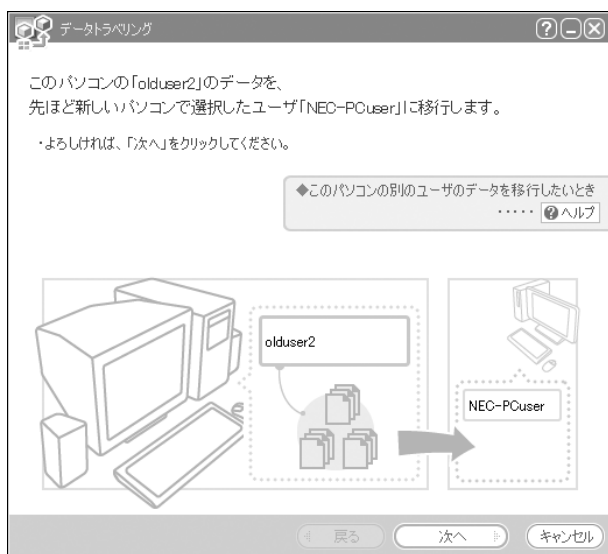
この画面が表示されたら、未使用のCD-RまたはCD-RWをセットします。自動的に「ツールCD」の作成が始まります。

複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、移行するユーザーを選択して「次へ」をクリックしてください。
選択したユーザーにパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してから「次へ」をクリックしてください。

「ツールCD」の作成が完了したら、ディスクを取り出してください。

## 5 古いパソコンで、移行するデータを指定する

これまでお使いのパソコンに「ツールCD」をセットします。しばらくすると、次の画面が表示されます。

「次へ」をクリックしてください。

**途中でパソコンを再起動することがありますので、使用中のほかのソフトは終了させてください。**

複数のユーザーでパソコンを使用している場合はこの画面が表示されます。表示されている内容を確認して「次へ」をクリックしてください。

移行するデータを選択して「次へ」をクリックしてください。

**選択したデータによっては、さらに詳細な移行内容を設定する必要があります。その場合、画面に指示が表示されますので、それにしたがって操作してください。**

この画面が表示されたら、「完了」をクリックして、「ツールCD」を取り出してください。

## 6 このパソコンで、残りの移行作業を行う

古いパソコンで「完了」をクリックすると、この画面が新しいパソコンに表示されます。自動的に残りの移行処理が行われるため、しばらくお待ちください。

この画面が表示されたら、データの移行は完了です。

**移行したデータによっては、このあとで詳細な設定作業が必要になることがあります。その場合、画面に指示が表示されますので、それにしたがって操作してください。**

# 周辺機器を使えるようにする

古いパソコンに接続して利用していたプリンタなどの周辺機器は、そのままこのパソコンに接続できるとは限りません。

## 周辺機器を移行する前に確認が必要

### まずは、周辺機器のマニュアルでチェック

周辺機器に添付のマニュアルで、その機器がWindows XPに対応しているか確認してください。対応している場合、このパソコンとの接続方法や設定の手順についての説明をご覧ください。

### メーカーのホームページもチェック

周辺機器のマニュアルだけでなく、メーカーのホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。Windows XPに対応した最新のドライバ（周辺機器を利用できるようにするためのソフト）がダウンロードできるときは、最新のドライバをお使いください。

## 周辺機器の一般的な移行手順

### 古いパソコンから周辺機器を取り外す

取り外しの手順については、周辺機器に添付のマニュアルや、古いパソコンに添付のマニュアルをご覧ください。

### このパソコンに周辺機器を取り付け・接続する

USB接続する周辺機器などの場合、このパソコンに取り付け・接続する前に、ドライバなどをインストールしておく必要があることもあります。マニュアルなどで確認してください。

### このパソコンで使用できるように設定する

周辺機器によっては、取り付け・接続するだけで使えるようになるものもあります。パソコンでの設定方法についても、マニュアルなどで確認してください。

### 周辺機器の動作確認を行う

周辺機器を移行したら、うまく動作するか確認してください。うまく動作しないときは、ドライバや添付ソフトなどを確認のうえ、周辺機器のメーカーにお問い合わせください。

# アプリケーションソフトを移す

古いパソコンで利用していたアプリケーションソフトを、このパソコンで利用するときに注意することを説明します。

## アプリケーションソフトを移行する前に

### このパソコンに最新版が入っていないかチェック

このパソコンには、主要なアプリケーションソフトが入っています。これまで利用していたアプリケーションソフトの最新版や、同じ用途のソフトが見つかるかもしれません。

### アプリケーションソフトのマニュアルをチェック

アプリケーションソフトに添付のマニュアルで、Windows XPに対応しているか確認してください。対応していない場合、このパソコンでは利用できません。

### 開発元のホームページもチェック

アプリケーションソフトの開発元のホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。Windows XPに対応するための方法など、マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。

## アプリケーションソフトの一般的な移行手順

### 必要な情報を確認する

マニュアルなどで、インストールに必要な情報を確認します。ユーザー名やライセンス番号などが必要な場合は、それらの情報をメモしておきましょう。ソフトによっては設定を移行する機能を持つものがあります。その場合、マニュアルやホームページなどで移行方法を調べてください。

**ライセンスとは**

ソフトのメーカーが購入者に対して許諾する、使用権を「ライセンス」と呼びます。ライセンスの条件にしたがわずにソフトを使用した場合は不正使用となり、著作権を侵害してしまうこともあります。ライセンスの内容を確認のうえ、不正使用にならないようにアンインストールやインストールを行ってください。

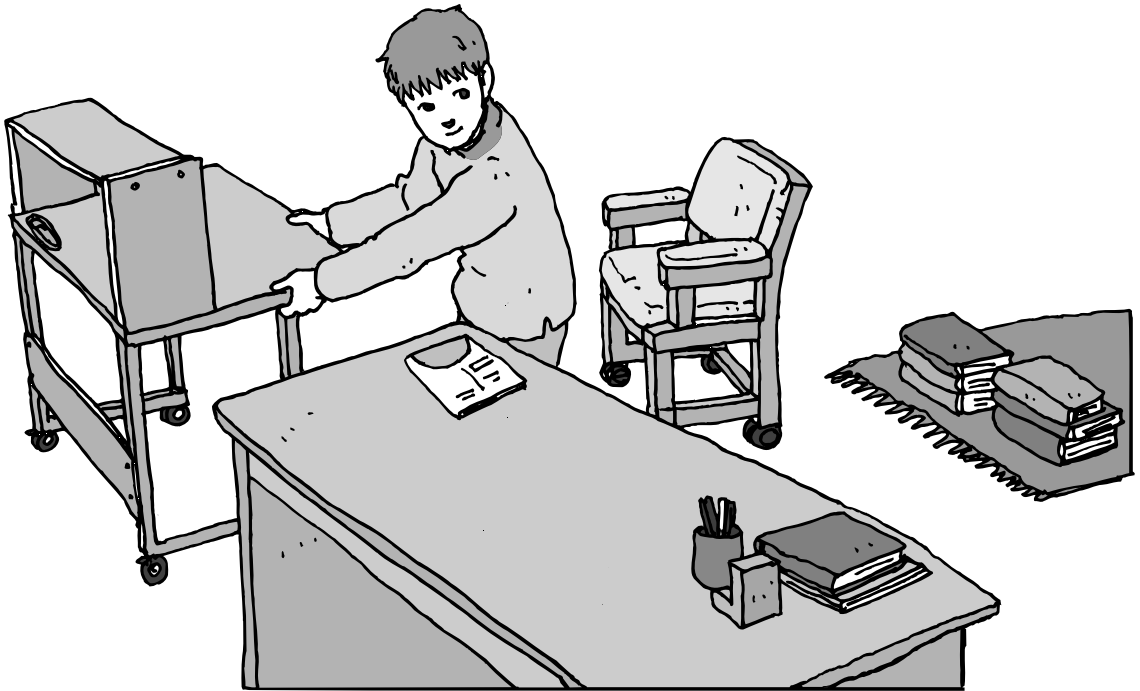
### 古いパソコンからソフトをアンインストールする

アンインストールの方法については、ソフトに添付のマニュアルをご覧ください。

### このパソコンにインストールする・必要な設定を行う

マニュアルなどをご覧になり、このパソコンにインストールしてください。必要に応じて、インストール後の設定作業を行ってください。

第 7 章

# 前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ

**このパソコンには、パソコンを接続してホームネットワークを作るためのソフト「ホームネットワークアシスタント」が入っています。**
**家庭でネットワークを作ることの利点や、「ホームネットワークアシスタント」の使い方を紹介します。**

# ホームネットワークでできること

複数のパソコンをつなぐことで、もっと便利にパソコンライフが広がります。

## 複数のパソコンから同時にインターネットを利用できる

ADSLなどでブロードバンド接続を利用している場合、複数のパソコンから同時にインターネットを楽しむことができるようになります。複数のパソコンでインターネットを利用しても、電話機はこれまでどおり使えます。

## プリンタを共有して、複数のパソコンから印刷する

ホームネットワークがあれば、どのパソコンからも1台のプリンタで印刷できるようになります。そのたびにプリンタをつなぎ換えたり、プリンタが接続されたパソコンに移動したりする必要がありません。

## パソコン同士で簡単にデータを受け渡しできる

デジカメの画像やパソコンで作成した文書などを、家庭内のパソコン同士で受け渡せるようになります。フロッピーディスクやメモリカードなどを使う必要はありません。ファイルサイズの大きなデータでも、手軽にやりとりできます。

## ほかのパソコンの共有フォルダにデータをバックアップする

ホームネットワークがあれば、このパソコンのデータをネットワーク上にあるほかのパソコンの共有フォルダにバックアップできます。大切なデータを間違って削除してしまったときなどに、ほかのパソコンにバックアップを取っておいたデータを使って元に戻すことができます。1日1回、週に1回などバックアップを取るスケジュールを設定できるので、定期的にバックアップを取ることができます。

### ホームネットワークも、LANのひとつ

会社や学校で、複数のパソコンをつないでいる環境があるかたは、「LAN（ラン）」という言葉を耳にしたことがあるかもしれません。「LAN」とは「ローカル・エリア・ネットワーク」の略で、同じ建物に置かれたパソコンやプリンタなどの周辺機器をつないで情報をやりとりできるようにしたものです。ホームネットワークも、LANのひとつです。

# 複数のパソコンを ホームネットワークでつなぐ

「ホームネットワークアシスタント」が利用できる条件や、設定の進め方について説明します。

## 「ホームネットワークアシスタント」の利用条件

「ホームネットワークアシスタント」を使用するには、次の条件を満たしている必要があります。

### 接続したいパソコンのOSが次のいずれかに該当すること

- Windows 98 Second Edition
- Windows Me(Millennium Edition)
- Windows 2000 Professional
- Windows XP Home Edition
- Windows XP Professional
- Windows XP Media Center Edition

接続したいパソコンのOSが上記以外の場合、「ホームネットワークアシスタント」は利用できません。

### ご利用の回線が次のいずれかに該当すること

- ADSLの場合：アッカ・ネットワークス、イー・アクセス、NTT東日本、NTT西日本、Yahoo! BB
- FTTHの場合： BIGLOBE　Bフレッツ、@nifty　Bフレッツ

ISDN、CATVなど、上記以外をご利用の場合、またBIGLOBE　Bフレッツ、@nifty　Bフレッツ以外のFTTH回線をご利用の場合、「ホームネットワークアシスタント」は利用できません。

### ご利用のプロバイダが次のいずれかであること

- @nifty
- BIGLOBE
- OCN
- So-net
- Yahoo! BB

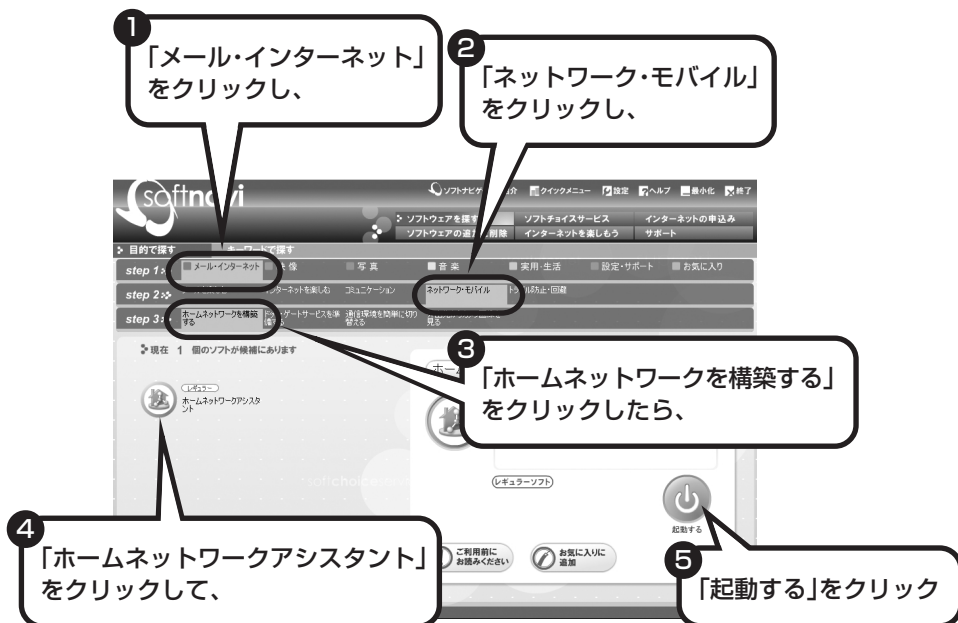
上記以外のプロバイダをご利用の場合、「ホームネットワークアシスタント」は利用できません。

**@niftyでイー・アクセスの回線をご利用の場合は、「ホームネットワークアシスタント」でルータを自動設定することができません（手動設定になります）。**

### 「ホームネットワークアシスタント」が利用できないとき

パソコンのOSや通信回線、プロバイダなどが上記の条件に該当しないときは、手動でネットワークの設定を行う必要があります。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「LAN」をご覧ください。

## 「ホームネットワークアシスタント」を開始する

デスクトップ画面の右側に表示された softnavi（ソフトが見つかるソフトナビゲーター）をクリックする。

「ホームネットワークアシスタント」のメインメニューが表示されます。

## 「ホームネットワークアシスタント」の利用方法

### 全体の流れをつかむには

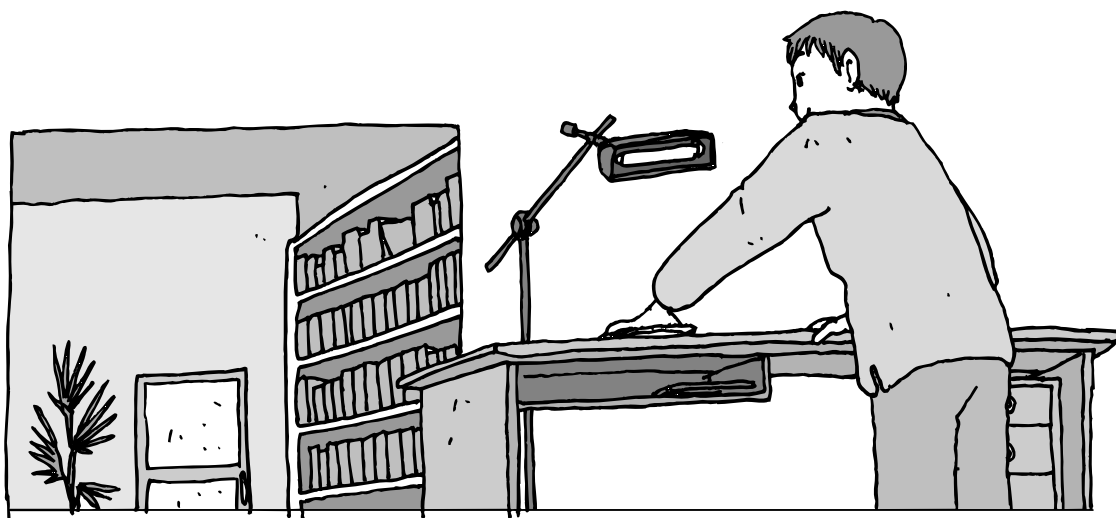
「ホームネットワークのはなし」をクリックして、ホームネットワークの特徴や、作成例、主な疑問への回答（Q&A）などをご覧ください。

### 設定を行うには

「設定スタート！」をクリックして、画面の説明を読みながら、設定を進めてください。

### トラブルが起きたら

「トラブルシューティング」をクリックして、ホームネットワークの診断を行ってください。

第8章

# 再セットアップする

**パソコンを起動できなくなったときなどの「最後の手段」が再セットアップです。再セットアップを行うと、パソコンに保存されている大切なデータや設定の内容などが失われてしまうことがあります。作業を始める前に、この章の説明をよくお読みください。**



Office Professional 2003モデルの場合は、再セットアップの際に準備するものや、再セットアップ手順が一部異なります。『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』も合わせてご覧ください。

# 再セットアップを始める前に

再セットアップの意味を理解したうえで、いくつかのトラブル解決手段を試してみましょう。

## パソコンをご購入時の状態に戻す、再セットアップ

再セットアップとは、パソコンを買ってきた直後に行うセットアップ（準備作業）をもう一度行って、パソコンの中をご購入時の状態に戻すことです。エラーメッセージが何度も表示されたり、フリーズ（画面の表示が動かなくなること）が多くなったりしたときは、意識しないうちにパソコンのシステムが壊れたり、設定が変更されてしまった可能性があります。再セットアップすると、パソコンをご購入時の状態に戻すことができます。

しかし、再セットアップを行うと、自分で作って保存しておいた文書や電子メールの内容、アドレス帳などがすべて消えてしまいます。どうしてもトラブルを解決できないときの最後の手段として再セットアップを行ってください。このあとの説明を読み、再セットアップの前にデータのバックアップ（データの控えを残しておくこと）を取ってください。

## 再セットアップの前に試すこと

再セットアップを始める前に、次のチェックを試してみてください。問題が解決することがあります。

ウイルスチェックを行う（165ページ）

セーフモードでパソコンを起動してみる（166ページ）

データのバックアップを取る（168ページ）

システムの修復を試みる（170ページ）

## ウイルスチェックを行う

ウイルスとは、パソコンに誤動作やデータの破壊などのトラブルを引き起こす不正プログラムです。インターネットやメールを経由してパソコンに入り込んだり、ウイルスに感染したディスクからパソコンに感染してしまうこともあります。

知らないうちに保存したデータが消えていたり、意味不明な文字や絵が突然画面に表示されたりしたときは、次のようにしてウイルスをチェックしてください。

ウイルスが駆除されればパソコンが正常に使えるようになることがあります。

### 「マカフィー・ウイルススキャン」でチェックする

**1** デスクトップ画面の右側に表示されている softnavi（ソフトが見つかるソフトナビゲーター）をクリック

**2** この画面が表示されたら、「スキャン」をクリック

ウイルスのチェックが完了するまでにしばらく時間がかかります。ウイルスが見つかったときは、画面に表示される指示にしたがって操作してください。

**ウイルスチェックは、常に最新のウイルス情報をもとに行う必要があります。「マカフィー・ウイルススキャン」は、はじめてアップデート機能を利用した日から90日間、無料で最新のウイルススキャンやウイルス定義ファイルのアップデートを行うことができます。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「マカフィー・ウイルススキャン」をご覧ください。**

## セーフモードでパソコンを起動してみる

電源を入れてもパソコンが正常に起動しないときなどは、次のようにしてパソコンをセーフモードで起動してください。

セーフモードは、Windowsの機能を限定して、必要最小限のシステム環境でパソコンを起動する、Windows の起動モードのひとつです。通常の操作ではパソコンが起動しない場合でも、セーフモードなら起動できることがあります。

**セーフモードでは、Windows の最小限の機能しか使えません。**

**1** パソコン本体の電源を切る

通常の操作で電源を切ることができないときは、電源スイッチを４秒以上押したままにして電源を切ってください。

**2** **パソコン本体の電源を入れる**

**3** **「NEC」のロゴマークが表示されたら、【F8】を何度か押す**

「NEC」のロゴが表示されない場合、キーボードにある 1 ランプが点灯するタイミングで【F8】を何度か押してください。

**4** **「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、【↑】【↓】を使って「セーフモード」を選び、【Enter】を押す**

「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されず、パソコンが通常のように起動してしまったときは、いったん電源を切り、手順２からやりなおしてください。

**5** **「オペレーティングシステムの選択」と表示されたときは、「Microsoft Windows XP Home Edition」または「Microsoft Windows XP Professional」を選び、【Enter】を押す**

**6** **ユーザー選択の画面が表示されたときは、自分のユーザー名をクリック**

**7** **「Windowsはセーフモードで実行されています。…」と表示されたら、「はい」をクリック**

これで、パソコンをセーフモードで起動することができました。

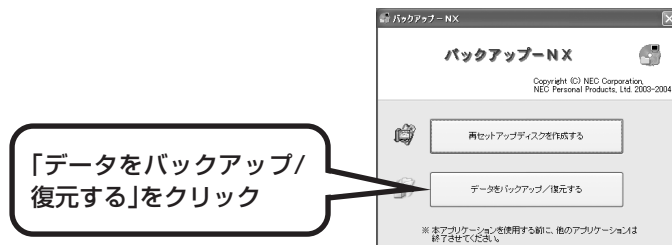
この後、「スタート」-「終了オプション」-「再起動」をクリックし、再起動して問題がなければ、正常な状態に戻ります。

セーフモードについて詳しくは、「スタート」-「ヘルプとサポート」-「問題を解決する」-「問題のトラブルシューティング」-「Windows をセーフモードで起動する」をご覧ください。

## データのバックアップを取る

システムの修復や再セットアップを行う前に、必ずデータのバックアップを取ってください。

**1** デスクトップ画面の右側に表示されている（ソフトが見つかるソフトナビゲーター）をクリック

**2** 「バックアップ-NX」画面が表示されたら、「データをバックアップ/復元する」をクリック

**3** この画面が表示されたら、「OK」をクリック

**4** 「バックアップするアプリケーション」、「バックアップするインターネット設定」のいずれも「すべて選択」に  が付いていることを確認して、「開始」をクリック

バックアップが始まります。完了までにしばらく時間がかかります。

ここでは、パソコンのハードディスク内にあるDドライブという場所にデータの控えが作成されます。Cドライブの領域を変更して再セットアップを行う場合は、Dドライブのデータも消えてしまいます。Cドライブの領域を変更するときは、CD-R/RWディスクなどへデータのバックアップを取るようにしてください。

**5** 「バックアップは正常終了しました」と表示されたら、「閉じる」をクリックし、画面右上の ✕ をクリック

家族など、複数のユーザーでこのパソコンを共有している場合、ユーザーの人数分だけバックアップが必要です。「スタート」-「ログオフ」-「ユーザーの切り替え」の順にクリックして、ユーザーごとにバックアップの手順を繰り返してください。

- 「バックアップ-NX」では、別売のアプリケーションソフトで作成したデータのバックアップを取ることもできます。ただし、ソフトによっては、バックアップできないものもあります。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「バックアップ-NX」をご覧ください。
- 「バックアップ-NX」でバックアップしたデータは、パソコンを再セットアップしたら、すぐに復元してください。復元が遅れると、再セットアップ以降に作成されたデータが失われることがあります。

## システムの修復を試みる

システムの修復によって、トラブルが発生する前の「復元ポイント」を指定して、Windowsを構成する基本的なファイルや設定だけを元に戻すことができます。この方法を使うと、「マイドキュメント」などに保存しておいたデータの多くをそのまま残しておくことができます。

- システムの修復を行う前にデータのバックアップを取ってください。システムを修復することで大切なデータが失われることがあります。
- システムの修復を行うときは、前もって起動中のソフトを終了させておいてください。
- Windowsが正常に起動しない場合は、「セーフモードでパソコンを起動してみる」で説明した手順1〜7にしたがって、パソコンをセーフモードで起動してください。その後、次の手順で操作します。

**1** 「スタート」-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「システムの復元」の順にクリック

**2** 「システムの復元」画面が表示されたら、「コンピュータを以前の状態に復元する」がになっていることを確認し、「次へ」をクリック

**3** カレンダーから復元したい日付をクリック

太字で表示された日付から、トラブルが起きるようになる前の日付を選んでください。

**4** 選択した日付の「復元ポイント」が複数表示されているときは、どれかをクリックして選択し、「次へ」をクリック

**5** 「復元ポイントの選択の確認」が表示されたら、内容を確認して「次へ」をクリック

選択した「復元ポイント」の時点にさかのぼって、パソコンのシステムが復元されます。しばらくすると、自動的にパソコンが再起動します。

**6** 「復元は完了しました」と表示されたら、「OK」をクリック

これで、システムの修復は完了です。

## 「前回正常起動時の構成」でシステムを修復する

セーフモードでもパソコンを起動できず、「システムの復元」も実行できない場合、次の手順を試してください。

**1** パソコン本体の電源を入れる

**2** 「NEC」のロゴマークが表示されたら、【F8】を何度か押す

「NEC」のロゴが表示されない場合、キーボードにある 1 ランプが点灯するタイミングで【F8】を何度か押してください。

**3** 「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、【↑】【↓】を使って「前回正常起動時の構成」を選び、【Enter】を押す

「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されず、パソコンが通常のように起動してしまったときは、いったん電源を切り、手順1からやりなおしてください。

**4** 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたときは、「Microsoft Windows XP Home Edition」または「Microsoft Windows XP Professional」を選び、【Enter】を押す

これで、前回正常起動時の構成を使用してパソコンが起動します。

# 再セットアップする（Cドライブのみ）

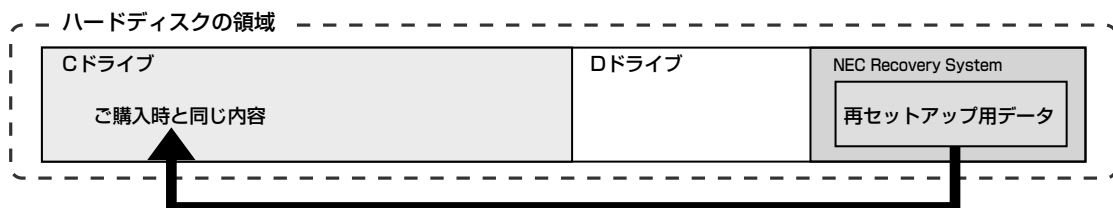
このパソコンのハードディスクにあるCドライブの内容をご購入時の状態に戻します。

## パソコンに慣れていないかたは、この方法で再セットアップ

このパソコンのハードディスクには、あらかじめCドライブとDドライブという2つの領域が作られています。Cドライブには、Windowsやアプリケーションソフト、マイドキュメントなどに保存したファイルなどが入っています。Dドライブには、ソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップ用データが入っています。アプリケーションソフトで作成したデータやバックアップデータの保存先にDドライブを指定した場合は、それらのファイルも入っています。
「再セットアップする（Cドライブのみ）」で説明する手順では、Dドライブの内容を残したまま、Cドライブだけをご購入時の状態に戻します。パソコンの操作に慣れていないかたやハードディスクをフォーマットした経験のないかたは、この方法で再セットアップを行ってください。

## Cドライブの領域を変更して再セットアップする場合は、184ページ

Cドライブの領域を変更して再セットアップする場合は、184ページへ進んでください。その場合、Dドライブのデータも失われるため、ソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMの作成も必要になります。パソコンやハードディスクの知識を十分にお持ちのかたのみCドライブの領域を変更してください。

ハードディスクに格納されている再セットアップ領域のデータを、Cドライブに書き込んで再セットアップします。ハードディスクの領域の変更はしません。



ハードディスクにある再セットアップ用データを使って再セットアップ

## 再セットアップの流れ

再セットアップは次の13項目の作業を連続して行います。項目によっては（　）内におよその作業時間を示していますが、実際にかかる時間はモデルやパソコンの使用状況で異なります。
Office Professional 2003モデルの場合は、準備するものやOfficeの再セットアップ手順が異なります。『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

1　必要なものを準備する
2　バックアップを取ったデータを確認する
3　インターネットやLANの設定を控える
4　ユーザー名を控える
5　BIOSの設定を初期値に戻す：初期値を変更している場合のみ
6　別売の周辺機器（メモリ、プリンタ、スキャナなど）を取り外す
7　システムを再セットアップする（約1時間）
8　Windowsの設定をする（約30分）
9　Office Personal 2003を再セットアップする(約10分)
　:Office Personal 2003モデルのみ
10　別売の周辺機器(メモリ、プリンタ、スキャナなど)を取り付けて設定しなおす
11　インターネットの設定などをやりなおす
12　別売のアプリケーションソフトをインストールしなおす
13　バックアップを取ったデータを復元する

### バックアップは終わっていますね？

再セットアップを行うと、Cドライブに保存したデータはすべて失われます。バックアップが終わっていない場合、168ページをご覧ください。

### 再セットアップを始めたら、途中でやめない！

再セットアップは、すべての作業項目を最後まで続けて作業することが必要です。途中でやめてしまうと、再セットアップを終わってもデータがもとどおりに復元されなかったり、一部のデータが失われたりすることがあります。

## 1 必要なものを準備する

Office Professional 2003モデルの場合は、『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、必要なものを準備してください。

このパソコンの添付品から、次のものを準備してください。

・「Microsoft® Office Personal Edition 2003」CD-ROM(Office Personal 2003モデルのみ)
・「Microsoft® Office Home Style+」CD-ROM(Office Personal 2003モデルのみ)
・『準備と設定』(本冊子)

その他、このパソコンをご購入後に自分でインストールしたソフトがある場合、そのマニュアルをご覧になり、インストールに必要なCD-ROMなどを準備してください。

## 2 バックアップを取ったデータを確認する

168ページの「データのバックアップを取る」でDドライブにバックアップを取ったデータの内容を、もう一度確認してください。万一、バックアップに失敗しているものがあったり、バックアップし忘れていたデータが見つかったときは、バックアップを取りなおしてください。

## 3 インターネットやLANの設定を控える

再セットアップを行っても、インターネット接続の設定は自動的には復元されません。インターネットを利用している場合、プロバイダの会員証を用意してください。会員証がない場合は、次の項目をメモしてください。

・ユーザーID
・パスワード
・電子メールアドレス
・メールパスワード
・プライマリDNS
・セカンダリDNS
・メールサーバー
・ニュースサーバー
・アクセスポイントの電話番号(ダイヤルアップ接続の場合)

## 4 ユーザー名を控える

このパソコンをご購入後、はじめて電源を入れて行ったセットアップ作業で設定したユーザー名を確認し、次の「ユーザー 1」の欄に控えておきます。本冊子の70ページをご覧ください。「8.Windowsの設定をする」の作業を行うときに、このユーザー名が一致しないとデータが復元できなくなってしまいます。

| | ユーザー名 |
|---|---|
| ユーザー１（１人目） | |
| ユーザー２（２人目） | |
| ユーザー３（３人目） | |
| ユーザー４（４人目） | |

**・家族など、このパソコンを複数のユーザーで共有している場合、それらのユーザー名も一緒に控えておくことをおすすめします。**

**・ユーザー名を控えるときは、「大文字と小文字の区別」、「半角と全角の区別」に注意してください。**

## 5 BIOSの設定を初期値に戻す：初期値を変更している場合のみ

BIOSの設定を変更している場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動して、変更した内容をメモしてから、設定を初期値に戻してください。この作業は、BIOS の設定を変更していない場合は必要ありません。手順について詳しくは、『活用ブック』の「困ったときの解決法」-「画面になにもうつらない」-「パソコンの使用環境を変更したら、Windows が起動しない」をご覧ください。

## 6 別売の周辺機器（メモリ、プリンタ、スキャナなど）を取り外す

別売の周辺機器をすべて取り外してください。また、インターネットの通信回線との接続に使っているモジュラーケーブルや LAN ケーブルも取り外してください。

**外付けのハードディスクドライブなどを接続したまま再セットアップを行うと、ハードディスク内のデータが削除される場合があります。**

## 7 システムを再セットアップする

次の手順で操作してください。

**1 パソコン本体の電源を切る**

通常の操作で電源を切ることができないときは、電源スイッチを４秒以上押したままにして電源を切ってください。

**2 パソコン本体の電源を入れる**

**3 「NEC」のロゴマークが表示されたら、【F11】を何度か押す**

「NEC」のロゴが表示されない場合、キーボードにある 1 ランプが点灯するタイミングで【F11】を何度か押してください。

**4 「再セットアップとは」の画面が表示されたら、【Enter】を押す**

「再セットアップとは」の画面が表示されず、パソコンが通常のように起動してしまったときは、いったん電源を切り、手順2からやりなおしてください。

**5 「準備するもの」の画面が表示されたら、必要なものがそろっているか確認し、【↓】、【↑】を使って＜次へ＞を選び、【Enter】を押す**

**6 「再セットアップを始める前に」の画面が表示されたら、【↓】、【↑】を使って＜次へ＞を選び、【Enter】を押す**

**7 「再セットアップの種類を選択する」の画面が表示されたら、【↓】、【↑】を使って＜Ｃドライブのみ再セットアップ＞を選び、【Enter】を押す**

**8 「Ｃドライブのみ再セットアップ」の画面が表示されたら、【↓】、【↑】を使って＜再セットアップを開始する＞を選び、【Enter】を押す**

> **「Ｃドライブの領域を自由に作成して再セットアップ」の画面が表示されたときは、【↓】、【↑】を使って＜前の画面に戻る＞を選んで【Enter】を押し、手順７からやりなおしてください。**

再セットアップが始まります。再セットアップが始まったら、画面に指示が表示されるまで、キーボードやパソコン本体の電源スイッチに触れないでください。再セットアップの進行中に数回「ピー」と音がすることがありますが、これは再セットアップ処理が正しく進んでいることを示すもので、故障ではありません。

**9** **次の画面が表示されたら、【Enter】を押す**

Windows XP 再セットアップ
=====================

パソコンを再起動します。
Enterキーを押してください。

再起動後は、マニュアル『準備と設定』に記載されている
「Windows の設定をする」以降の作業をしてください。

**この画面が表示されなかったときは再セットアップが正常に行われていません。「7.システムを再セットアップする」の最初に戻り、操作をやりなおしてください。**

【Enter】を押して、パソコンが再起動されたら、次の「8.Windows の設定をする」へ進んでください。

## 8 Windowsの設定をする

次の手順で操作してください。

**1** **「Microsoft Windowsへようこそ」の画面が表示されていることを確認する**

**2** **「次へ」をクリック**

**3** 「使用許諾契約」が表示されたら、「同意します」をクリックして◯を◉にして、「次へ」をクリック

**4** 「コンピュータを保護してください」が表示されたら、「自動更新を有効にし、コンピュータの保護に役立てます」をクリックして◯を◉にして、「次へ」をクリック

**5** 「コンピュータに名前を付けてください」が表示されたら、そのまま、「次へ」をクリック

「VALUESTAR」など好みの名前を入力してもかまいません。また、再セットアップする前に付けていた名前と異なるものを入力してもかまいません。

**6** 「管理者パスワードを設定してください」が表示された場合は、適当な管理者パスワードを入力する

「インターネットに接続する方法を指定してください」または「インターネット接続が選択されませんでした」と表示されたときは、手順６～８を省略して、手順９へ進んでください。

**7** 「パスワードの確認入力」の欄に、手順６で入力したパスワードと同じものを入力して、「次へ」をクリック

**8** 「このコンピュータをドメインに参加させますか？」と表示された場合は、「いいえ」をクリックして◯を◉にして、「次へ」をクリック

「このコンピュータをドメインに参加させますか？」と表示されずに、「インターネットに接続する方法を指定してください」または「インターネット接続が選択されませんでした」と表示されたときは、この手順を省略して手順９へ進んでください。

**9** 「インターネットに接続する方法を指定してください」または、「インターネット接続が選択されませんでした」と表示されたら、そのまま「省略」をクリック

**10** 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ」をクリックして◯を◉にして、「次へ」をクリック

**11** 「今すぐインターネットアクセスのセットアップを行いますか？」と表示された場合は、「いいえ」をクリックして◯を◉にして、「次へ」をクリック

**12** 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、あらかじめ控えておいたユーザー名を正確に入力して、「次へ」をクリック

**13** 「設定が完了しました」と表示されたら、「完了」をクリック

しばらくすると、「パソコンの診断が終了しました」と表示されます。

**14** ➡ をクリック

**15** 「家族みんなで、上手にパソコンを共有しよう」と表示された場合は、共有する人数をクリックして選び、「次へ」をクリック

「121 ポップリンクの設定」と表示されたときは、手順 15〜17を省略して、手順 18 へ進んでください。

**16** 全部のユーザー名が正しく表示されていることを確認し、「登録完了」をクリック

ファミリーボタンの♠欄に「ユーザー 1」として設定したユーザー名が表示されていることを確認してください。

**17** 登録内容を確認して、「終了」をクリック

**18** 「121 ポップリンクの設定」が表示されたら、「利用する」が◉になっていることを確認し、「次へ」をクリック

121 ポップリンクは、お使いの機種に適した最新情報を NEC からインターネット経由でお届けするサービスです。

**19** 「設定が完了しました」と表示されたら、➡ をクリック

このパソコンのサポートサービスを紹介する映像が表示されます。映像終了後、「完了」をクリックすると、パソコンが再起動します。再起動後、「システムの復元ポイントの設定」画面が表示されます。しばらくすると、もう一度再起動します。これで Windows の設定は終了です。

Office Personal 2003 モデルの場合は、続けて「9.Office Personal 2003 を再セットアップする」に進んでください。

Office Professional 2003 モデルの場合は、『VALUESTAR G シリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、Office Professional 2003 を再セットアップしてください。

その他のモデルの場合は、「10. 別売の周辺機器（メモリ、プリンタ、スキャナなど）を取り付けて設定しなおす」に進んでください。

# 9 Office Personal 2003を再セットアップする
（Office Personal 2003モデルのみ）

**Office Professional 2003モデルの場合は、『VALUESTAR Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、Office Professional 2003を再セットアップしてください。**

このパソコンに入っている「Office Personal 2003」は、機能を厳選してインストールされています。ここでは、ご購入時と同じ状態でセットアップを行う手順を説明します。
必要のない機能を削除する方法や、あとから機能を追加する方法については、添付の「Office Personal 2003」のマニュアルをご覧ください。

**1 「Microsoft® Office Personal Edition 2003」CD-ROMをセットする**

**2 「Microsoft Office 2003 セットアップ」の画面が表示されたら、プロダクトキーを入力して、「次へ」をクリック**

「プロダクトキー」は、CD-ROMケースの裏面に貼ってあるシールに記載されています。

**3 「ユーザー情報」が表示されたら、ユーザー名などを入力して「次へ」をクリック**

ユーザー名などの欄には、何も入力しなくてもかまいません。

**4 「インストールの種類」と表示されたら、「カスタムインストール」をクリックして○を◉にして、「次へ」をクリック**

**5 「カスタムセットアップ」と表示されたら、「アプリケーションごとにオプションを指定してインストール」をクリックして□を☑にして、「次へ」をクリック**

**6 「詳細なカスタマイズ」と表示されたら、「Microsoft Office」の左側にあるをクリックして、「マイコンピュータからすべて実行」をクリック**

**このとき表示される一覧の中に、灰色で表示されているフォルダがないことを確認してください。あったときは、もう一度この手順をやりなおしてください。**

**7 「Microsoft Office Excel」の左側にある＋をクリックし、「読み上げ」の左側にあるをクリックして、「インストールしない」をクリック**

「読み上げ」の左にあるアイコンがに変わります。

**8** 同じようにして「Office共有機能」の - 「入力システムの拡張」の をクリックし、「音声」の左側にある をクリックして、「インストールしない」をクリック

**9** 「Microsoft Office Excel」の「読み上げ」、「Office共有機能」の「音声」、どちらも に変わったことを確認し、「次へ」をクリック

**10** 「ファイルの概要」と表示されたら、「完了」をクリック

インストールが始まります。

**11** 再起動するようにメッセージが表示されたら、「はい」をクリック

・「Microsoft Office 2003のセットアップが正常に完了しました。」と表示されることもあります。その場合、「完了」をクリックしてください。

・「Webサイトで更新および追加ダウンロードをチェックする」の を にしないでください。

**12** 「Microsoft® Office Personal Edition 2003」CD-ROMを取り出す

続けて「Home Style+」をインストールします。

**13** 「Microsoft® Office Home Style+」CD-ROMをセットする

**14** 「Microsoft Office Home Style+セットアップへようこそ」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック

**15** 「使用許諾契約書」が表示されたら、内容を確認し、「同意します」をクリックして○を◉にして、「次へ」をクリック

**16** 「セットアップ先のフォルダ」と表示されたら、「次へ」をクリック

**17** 「インストールタイプの選択」と表示されたら、「標準」が◉になっていることを確認し、「次へ」をクリック

**18** 「インストールの開始」と表示されたら、「次へ」をクリック

インストールが始まります。

**19** 「セットアップは正常に終了しました。」と表示されたら、「OK」をクリック

「Microsoft .NET Framework 1.1 パッケージをインストールしますか？」と表示された場合は、「いいえ」をクリックしてください。

**20 「Microsoft® Office Home Style+」CD-ROMを取り出す**

続けて「Office 2003 SP1」をインストールします。

**21 「スタート」-「マイコンピュータ」をクリックして、「Windows XP(C:)」をダブルクリック**

「ファイルは表示されていません。」と表示された場合は、「このフォルダの内容を表示する」をクリックしてください。

**22 「APSETUP」フォルダをダブルクリック**

**23 「O11SP1」フォルダをダブルクリック**

**24 「O11Sp1PI」をダブルクリック**

**25 「Office 2003 Service Pack 1(プレインストール用)」の画面が表示されたら、「はい」をクリック**

**26 使用許諾契約の画面が表示されたら、内容に同意のうえ「はい」をクリック**

インストールが始まります。「インストールを継続するには、次のアプリケーションを閉じる必要があります」と表示された場合は、「無視」をクリックしてください。

**27 再起動するようにメッセージが表示されたら、「はい」をクリック**

これでOffice Personal 2003を使う準備ができました。

### 再セットアップ後、Office Personal 2003を最初に使用するとき

Outlook 2003やWord 2003、Excel 2003など、Office Personal 2003のソフトを最初に使用するときは、「Microsoft Office 2003ライセンス認証ウィザード」が表示されます。添付の『Microsoft® Office Personal Edition 2003スタートガイド』をご覧になり、ライセンス認証を行ってください。このライセンス認証手続きは、必ず、再セットアップの作業がすべて完了してから行ってください。

## 10 別売の周辺機器(メモリ、プリンタ、スキャナなど)を取り付けて設定しなおす

ご利用の周辺機器に添付のマニュアルを準備してから作業してください。

**1 パソコンの電源を切る**

**2 取り外した周辺機器を取り付け、それぞれのセットアップや設定を行う**

セットアップや設定の手順、パソコンの電源を入れるタイミングなどについては、各周辺機器に添付のマニュアルにしたがってください。

## 11 インターネットの設定などをやりなおす

再セットアップを行うと、インターネットの設定もやりなおす必要があります。プロバイダに接続するためのユーザー名やパスワードなどは、入会時に決まったものがそのまま使用できます。サインアップ（入会申し込み）をやりなおす必要はありません。

「バックアップ-NX」を使ってインターネットの設定をバックアップした場合は、簡単に復元することができます。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「バックアップ-NX」をご覧ください。

「バックアップ-NX」でインターネットの設定をバックアップしていない場合、本冊子の「第６章　パソコンを買い換えたかたへ」を参考にインターネットの設定を行ってください。

## 12 別売のアプリケーションソフトをインストールしなおす

パソコンに別売のアプリケーションソフトをインストールしていた場合は、それぞれに添付のマニュアルにしたがってインストールを行ってください。

## 13 バックアップを取ったデータを復元する

「バックアップ-NX」でバックアップしておいたデータを復元してください。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「バックアップ-NX」をご覧ください。

これで再セットアップの作業は完了です。

# Cドライブの領域を変更して再セットアップする

このパソコンのハードディスクにあるCドライブとDドライブの領域を変更してから、Cドライブをご購入時の状態に戻します。

## パソコンに慣れていないかたは、172ページへ

ここで説明する方法で、パソコンのハードディスクにあるCドライブとDドライブの領域を変更して再セットアップするには、ハードディスクの知識が必要です。初心者のかたやパソコンの操作に慣れていないかたは、172ページの「再セットアップする（Cドライブのみ）」をご覧になり再セットアップを行うことを強くおすすめします。

Cドライブの領域サイズを10Gバイトから1Gバイト単位で変更できます。Cドライブの領域サイズは、最大でもハードディスク全体のサイズから再セットアップ用データを除いたサイズとなります。
Dドライブを含め、それまでにハードディスクに保存されていたデータはすべて失われます。

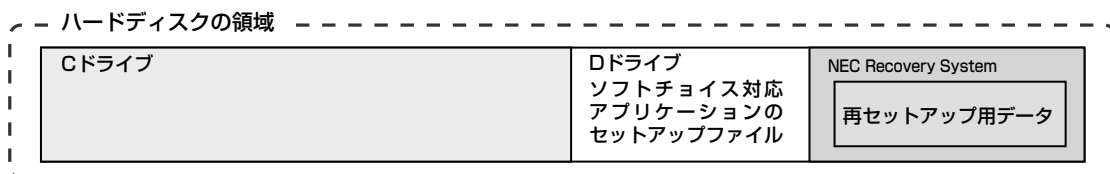
**ご購入時の状態**

ハードディスクの領域

| Cドライブ | Dドライブ<br>ソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップファイル | NEC Recovery System<br>再セットアップ用データ |
|---|---|---|

**再セットアップ後の状態**

ハードディスクの領域

| Cドライブ<br>ご購入時と同じ内容 | Dドライブ | NEC Recovery System<br>再セットアップ用データ |
|---|---|---|

- 操作を始める前に、大切なデータのバックアップを取ってください。
- この方法で再セットアップを行うと、Cドライブだけでなく、Dドライブにあるソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップファイルも失われます。このため、操作に入る前に186ページの説明を読み、ソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMを作成してください。

**1** 174ページの「1.必要なものを準備する」から順に説明を読み、176ページの「7.システムを再セットアップする」の手順1〜6までの操作を行う

**2** 「再セットアップの種類を選択する」の画面が表示されたら、【↓】、【↑】を使って＜Cドライブの領域を自由に作成して再セットアップ＞を選び、【Enter】を押す

**3** 「Cドライブの領域を自由に作成して再セットアップ」の画面が表示されたら、【↓】、【↑】を使って＜再セットアップ開始＞を選び、【Enter】を押す

以降の操作は、画面の表示内容をよく読みながら進めてください。

再セットアップ終了後の、Windowsの設定、周辺機器の再設定、インターネットの再設定などについては、177ページの「8.Windowsの設定をする」以降の説明を参考にしてください。

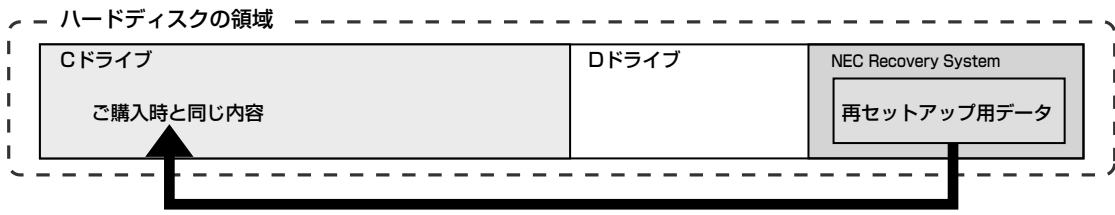
# 再セットアップ用CD/DVD-ROMを作成する

ここでは、再セットアップ用CD/DVD-ROMおよびソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMの作成手順を説明します。

## 再セットアップCD/DVD-ROMとは

このパソコンは、次のように、ハードディスク内の「再セットアップ領域」(NEC Recovery System)に保存されている再セットアップ用データを使って、再セットアップを行うしくみになっています。

ハードディスクの領域

| Cドライブ | Dドライブ | NEC Recovery System |
|---|---|---|
| ご購入時と同じ内容 | | 再セットアップ用データ |

ハードディスクにある再セットアップ用データを使って再セットアップ

通常は、「再セットアップする(Cドライブのみ)」(172ページ)をご覧になり、上記の方法で再セットアップしてください。
そのほかに、ここで作成する「再セットアップ用CD/DVD-ROM」を使った再セットアップ方法が利用できます。

**ご購入時の状態**

ハードディスクの領域

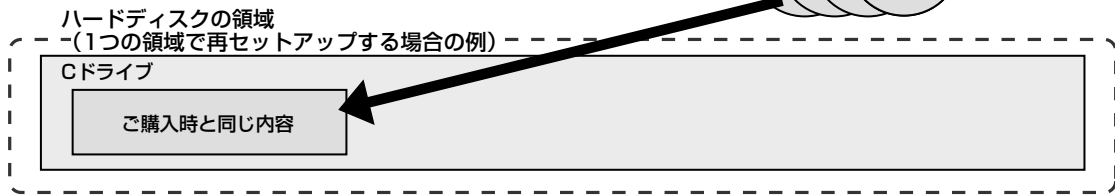
| Cドライブ | Dドライブ | NEC Recovery System |
|---|---|---|
| | ソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップファイル | 再セットアップ用データ |

再セットアップ用データをCD-RまたはDVD-Rに移す

CD-RまたはDVD-Rに保存されている再セットアップ用データを使って再セットアップ

**再セットアップ後の状態**

ハードディスクの領域
(1つの領域で再セットアップする場合の例)

| Cドライブ |
|---|
| ご購入時と同じ内容 |

# 再セットアップ用CD/DVD-ROMを作成する

「再セットアップ領域」(NEC Recovery System)に保存されている再セットアップ用データが削除されている場合は、「スタート」-「すべてのプログラム」-「アプリケーション」-「再セットアップディスク作成ツール」をクリックすると、次のいずれかのメッセージが表示され、再セットアップ用CD/DVD-ROMを作成できません。
・「必要なファイルが見つからないため、ソフトウェアを実行できません。」
・「再セットアップ用CD/DVD-ROMの作成に必要なファイルが見つからないため、ソフトウェアを実行できません。」

再セットアップ用データは次のような場合に削除されます。
・再セットアップ用CD/DVD-ROMを使用して「ハードディスクの領域を1つにして再セットアップ」、または「Cドライブの領域を自由に作成して再セットアップ」を行った場合
・手動で再セットアップ領域を削除、または再セットアップ用データを削除した場合

## 未使用のCD-Rディスクまたは未使用のDVD-Rディスクを準備する

必要な枚数は、お使いのモデルによって異なります。189ページの手順4で画面に表示される枚数を確認してください。再セットアップ用CD/DVD-ROMとソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMの両方を作成するために必要な枚数を用意してください。作成には、CD1枚につき最大約30分、DVD1枚につき最大約100分かかります。

・必ず次の容量のディスクを用意してください。
CD-Rディスクの場合:700Mバイトまたは650Mバイトのもの
DVD-Rディスクの場合:4.7Gバイトのもの
・次のディスクは使用できません。
CD-RW、DVD-RW、DVD+R/RW、DVD-RAM、2層式DVD
・作成済みの再セットアップ用CD/DVD-ROMも販売しています。お買い求めの際は、PC98-NXシリーズメディアオーダーセンターのホームページをご覧ください。
URL: http://nx-media.ssnet.co.jp

## RecordNow!がインストールされていることを確認する

CD-R または DVD-R へのデータ書き込みには「RecordNow!」というソフトが必要です。このパソコンにあらかじめインストールされていますが、削除してしまっているときは、追加しておいてください。ソフトを追加する方法については、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフトの追加と削除」をご覧ください。

## 作成の手順を始める前に

ほかのアプリケーションソフトが起動していると、CD-RまたはDVD-Rへの書き込み中にエラーが発生することがあります。作成の手順を始める前に次の操作を行ってください。

- **スクリーンセーバーが起動しないようにする**
- **自動的にスタンバイ状態／休止状態にならないように設定する**
- **起動中のアプリケーションをすべて終了する**
- **常駐プログラム（ウイルス対策ソフトなど）をすべて終了する**
- **Cドライブの空き容量を、CD-Rの場合800Mバイト以上、DVD-Rの場合4.5Gバイト以上確保しておく**

**1** 用意した CD-R または DVD-R ディスクをセットする

「Windowsが実行する操作を選んでください」と表示されたときは、「何もしない」をクリックし、「常に選択した動作を行う」の□をクリックして☑にしてから、「OK」をクリックしてください。

**2** **「スタート」-「すべてのプログラム」-「アプリケーション」-「再セットアップディスク作成ツール」をクリック**

次の画面が表示されます。

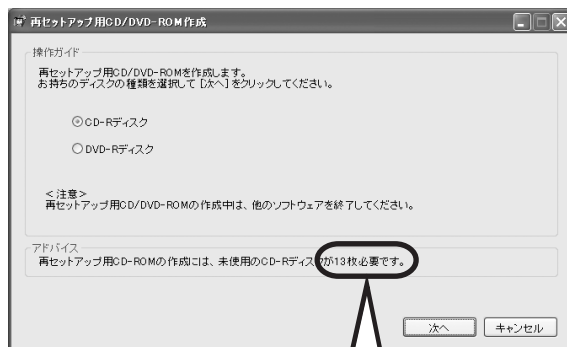
・ソフトチョイス用アプリケーションがないモデルをご利用の場合、「ソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMを作成する」は表示されません。ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除している場合も同様です。

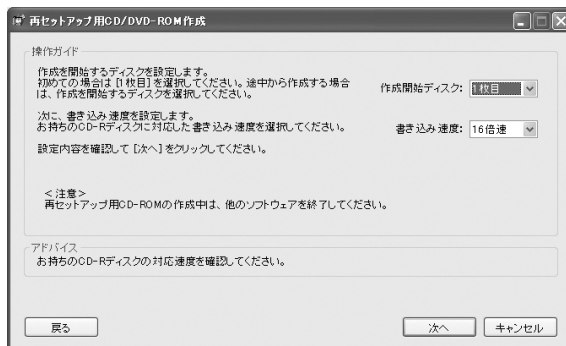
・ソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMを作成した後で、この画面を表示すると、「ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除する」という表示が追加されます。

**3** **作成するCD/DVD-ROMの種類を選び、「次へ」をクリック**

はじめて作成するときは、「再セットアップ用CD/DVD-ROM」、「ソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROM」の順番で作成してください。

**4** **次の画面が表示されたら、セットしたディスクの種類を選び、必要なディスクの枚数を確認して、「次へ」をクリック**

必要な枚数は、お使いのモデルによって異なります。

DVD-Rディスクは、CD-R/RW with DVD-ROMモデルの場合は選択できません。

**5** 次の画面が表示されたら、書き込み速度を選び、「次へ」をクリック

一部のディスクの書き込みに失敗した場合などは、この画面で、作成開始ディスク: 1枚目 の をクリックすると、途中から作成するように指定することもできます。

**用意したCD-RまたはDVD-Rディスクに対応した書き込み速度を選んでください。また、書き込みに失敗した場合は、書き込み速度を落としてから再度作成してください。**

**6** 「作成開始」をクリック

1枚目のディスクへの書き込みが始まります。書き込みにはしばらく時間がかかります。そのままお待ちください。

書き込みが完了すると、自動的にディスクが排出され、1枚目のディスクが作成されたことを知らせるメッセージが表示されます。

**7** 「OK」をクリック

ディスクを取り出し、ディスクの種類と何枚目のディスクかわかるようにラベル面に記入します。続けて、次のディスクをセットしてください。最後のディスクへの書き込みが終わるまで、同じ操作を繰り返します。

再セットアップ用CD/DVD-ROMの作成が終わったら、同じようにしてソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMも作成してください。

**作成した再セットアップ用CD/DVD-ROMおよびソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMは、紛失・破損しないように大切に保管してください。**

## ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除するには

D ドライブからソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルのみを削除して、D ドライブの空き容量を増やすことができます。その場合、ソフトチョイス用アプリケーション CD/DVD-ROM を作成した後で、「再セットアップディスク作成ツール」を起動し、「ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除する」を選んで、「次へ」をクリックしてください。あとは画面のメッセージにしたがって操作を進めてください。

**Dドライブからソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除した場合、ソフトナビゲーターからソフトチョイス対応アプリケーションをインストールするように操作したときは、ソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMをセットするように表示されます。画面の指示にしたがって操作してください。**

# 再セットアップ用CD/DVD-ROMを使って再セットアップする

再セットアップ用CD/DVD-ROMを使ってできることを説明します。

## 再セットアップ用CD/DVD-ROMで可能なこと

目的に応じて、次の再セットアップを行うことができます。

### C ドライブのみ再セットアップ

C ドライブの領域のみ再セットアップを行い、D ドライブの内容は再セットアップを行う前の状態のまま残します。172 ページの「再セットアップする（C ドライブのみ）」で説明している内容と同じです。

**ハードディスクの状態をご購入時から変更した場合（ダイナミックディスクなど）、この方法での再セットアップはできません。**

### ハードディスクの領域を 1 つにして再セットアップ

ハードディスク全体を 1 つの領域（C ドライブ）として作成できます。C ドライブの領域（サイズ）は最大になりますが、D ドライブを含め、それまでにハードディスクに保存されていたデータはすべて失われます。

**この方法で再セットアップすると、ご購入時に NEC Recovery System に入っていた再セットアップ用データと、Dドライブに入っていたソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルが失われます。**
**作成した再セットアップ用CD/DVD-ROMおよびソフトチョイス用アプリケーション CD/DVD-ROM を紛失・破損しないように、大切に保管してください。**

### C ドライブの領域を自由に作成して再セットアップ

C ドライブの領域サイズを 10G バイトから 1G バイト単位で設定できます。C ドライブの領域サイズは、最大でもハードディスク全体のサイズとなります。
D ドライブを含め、それまでにハードディスクに保存されていたデータはすべて失われます。

**この方法で再セットアップすると、ご購入時に NEC Recovery System に入っていた再セットアップ用データと、Dドライブに入っていたソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルが失われます。**
**作成した再セットアップ用CD/DVD-ROMおよびソフトチョイス用アプリケーション CD/DVD-ROM を紛失・破損しないように、大切に保管してください。**

### ハードディスクを購入時の状態に戻して再セットアップ

Cドライブをご購入時の状態に復元して再セットアップを行います。再セットアップ用CD/DVD-ROMの内容をハードディスクにコピーして、ハードディスクから再セットアップできるようにします。そのため、この方法での再セットアップには約2時間かかります。Cドライブの領域を自由に作成して再セットアップしたり、ハードディスクの領域を1つにして再セットアップしたりしたあとで、ハードディスクの領域をご購入時の状態に戻したいときに利用します。

- この方法で再セットアップを行うと、それまでのハードディスクの内容はCドライブ、Dドライブ（ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを含む）ともにすべて失われます。
- Dドライブのソフトチョイス用アプリケーションは復元されません。今後、ソフトチョイス用アプリケーションをインストールする場合は、「再セットアップディスク作成ツール」で作成したソフトチョイス用アプリケーションCD/DVD-ROMを使用してください。

### ハードディスクのデータ消去

このパソコンのハードディスクのデータ消去を行います。ハードディスクに一度記録されたデータは、「ごみ箱」から削除したり、フォーマットしても復元できる場合があります。このメニューを選択すると、Windows XP標準のハードディスクのフォーマット機能では消去できないハードディスク上のデータを消去し、復元ツールで復元されにくくします。このパソコンを譲渡や廃棄する場合にご利用ください。
消去にかかる時間は、ご利用のモデルによって異なります。

この方法でのハードディスクのデータ消去は、データの復元が完全にできなくなることを保証するものではありません。データの復元が完全にできないことの証明が必要な場合は、NECフィールディング株式会社に有償のデータ消去を依頼してください。
NECフィールディングホームページURL： http://www.fielding.co.jp

## 再セットアップ用CD/DVD-ROMを使った再セットアップ手順

再セットアップを始めたら、途中でやめたりせず、手順どおり最後まで操作してください。やむをえず中断したときは、最初から操作をやりなおしてください。

**1** **作成した再セットアップ用CD/DVD-ROMを用意する**

**2** **172ページの「再セットアップする（Cドライブのみ）」を読み、「1.必要なものを準備する」から「6.別売の周辺機器（メモリ、プリンタ、スキャナなど）を取り外す」までの作業を行う**

**3** **パソコンの電源スイッチを押し、電源を入れる**

**4** **電源ランプが点灯したら、すぐに再セットアップ用CD/DVD-ROM（1枚目）をセットする**

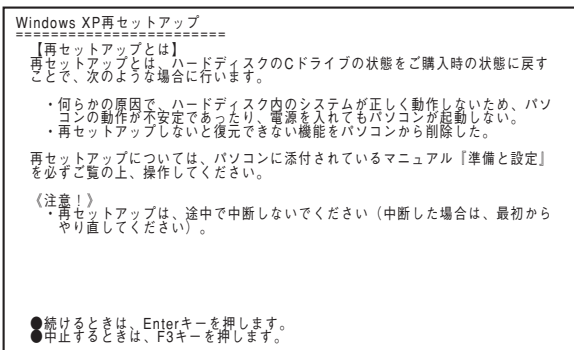
しばらくすると、次の画面が表示されます。

```
Windows XP再セットアップ
========================
 【再セットアップとは】
 再セットアップとは、ハードディスクのCドライブの状態をご購入時の状態に戻す
 ことで、次のような場合に行います。

  ・何らかの原因で、ハードディスク内のシステムが正しく動作しないため、パソ
   コンの動作が不安定であったり、電源を入れてもパソコンが起動しない。
  ・再セットアップしないと復元できない機能をパソコンから削除した。

 再セットアップについては、パソコンに添付されているマニュアル『準備と設定』
 を必ずご覧の上、操作してください。

 《注意！》
  ・再セットアップは、途中で中断しないでください（中断した場合は、最初から
   やり直してください）。

 ●続けるときは、Enterキーを押します。
 ●中止するときは、F3キーを押します。
```

**この画面が表示されずに、通常のWindowsデスクトップが表示されてしまったときは、再セットアップ用CD/DVD-ROMをセットしたまま、パソコンを再起動（「スタート」-「終了オプション」-「再起動」の順にクリック）してください。**

**5** **画面の説明を読み、【Enter】を押す**

**6** **「準備するもの」の画面が表示されたら、必要なものがそろっているか確認し、【↓】、【↑】を使って＜次へ＞を選び、【Enter】を押す**

**7** **「再セットアップを始める前に」の画面が表示されたら、【↓】、【↑】を使って＜次へ＞を選び、【Enter】を押す**

**8** **「再セットアップの種類を選択する」の画面が表示されたら、【↓】、【↑】を使って再セットアップの種類を選び、【Enter】を押す**

## 9 以降は、画面の指示にしたがって操作する

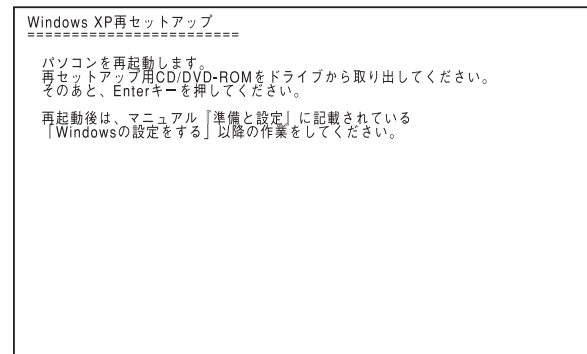
再セットアップが始まったら、画面に指示が表示されるまで、キーボードやパソコン本体の電源スイッチに触れないでください。再セットアップの進行中に数回「ピー」と音がすることがありますが、これは再セットアップ処理が正しく進んでいることを示すもので、故障ではありません。
ディスクを交換するように指示が表示されたら、再セットアップ用CD/DVD-ROMを順番にセットしてください。

**ハードディスクのフォーマットまたは再セットアップが行われている間は、画面に指示が表示されない限り、ディスクを取り出したり、電源スイッチに触れたりしないでください。**

再セットアップが終わると次の画面が表示されます。

```
Windows XP再セットアップ
========================

  パソコンを再起動します。
  再セットアップ用CD/DVD-ROMをドライブから取り出してください。
  そのあと、Enterキーを押してください。

  再起動後は、マニュアル『準備と設定』に記載されている
  「Windowsの設定をする」以降の作業をしてください。
```

この画面が表示されたら、再セットアップ用CD/DVD-ROMを取り出し、【Enter】を押してください。パソコンが自動的に再起動して「Windowsへようこそ」画面が表示されます。

**この画面が表示されなかったときは、再セットアップが正常に行われていません。最初からやりなおしてください。**

## 10 177ページの「8.Windowsの設定をする」以降の説明を参考に、Windowsの設定、周辺機器の再設定、インターネットの再設定などをする

「13.バックアップを取ったデータを復元する」の操作まで終わったら、再セットアップの作業は完了です。

第9章

# パソコン内部に取り付ける

パソコンのカバーを開けて、内部にPCIボードやメモリなどの周辺機器（別売）を取り付けることができます。パソコン内部のほかの部品を傷つけたりしないよう、手順の説明をよく読んでから作業してください。

# 本体の開け方と閉め方

メモリを増設したり、PCIボードをパソコンに組み込むときには、本体のルーフカバー（本体をおおっているカバー）を外す作業が必要となります。ここでは、その作業について説明します。作業はあせらず、ゆっくりとおこなってください。

## ルーフカバーの外し方

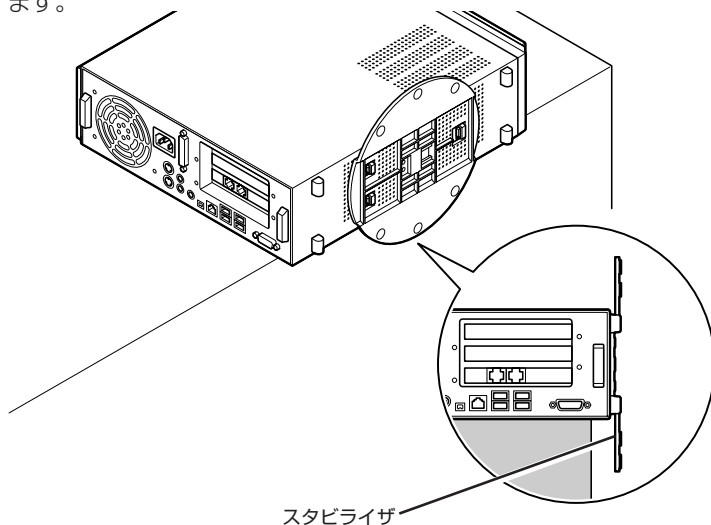
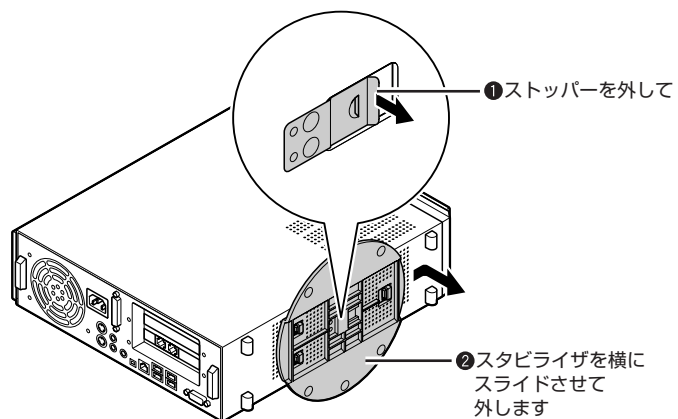
1 本体と、プリンタなど周辺機器の電源を切る

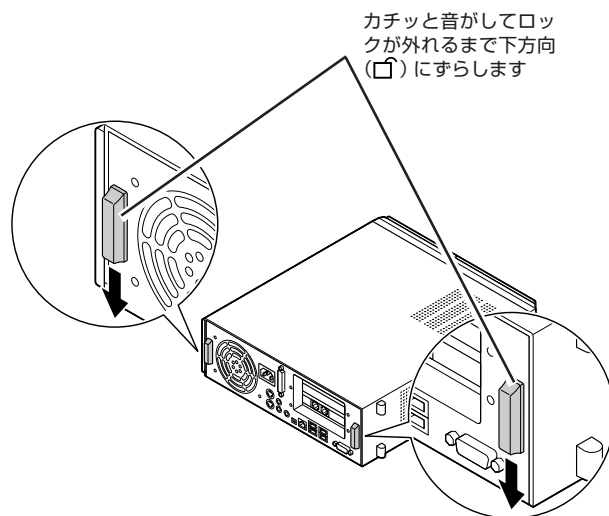
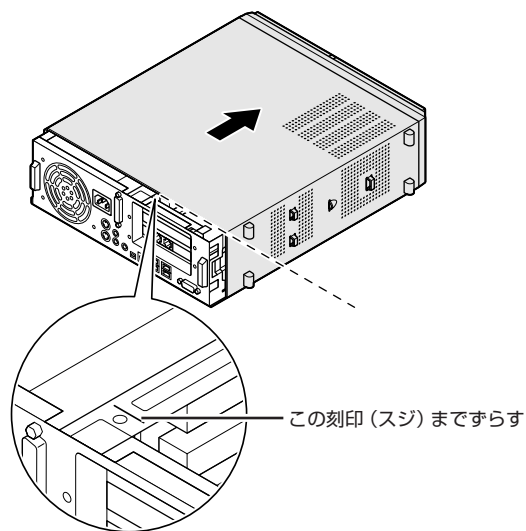
2 本体の電源ケーブルをコンセントから抜く

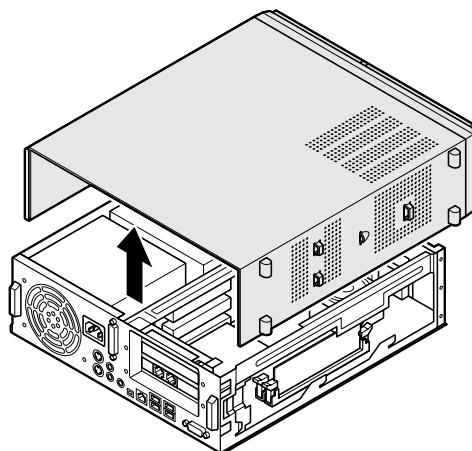
3 本体に接続されているケーブルをすべて取り外す

ここで取り外したケーブルは、メモリやPCIボードの増設が終わり、ルーフカバーを取り付けた後で、もとどおりに接続することになります。外す前に、どのコネクタにどのケーブルが接続されているのかを確認しておきましょう。

4 本体の左側面（正面から見て左側）を上に向けて静かに横に倒し、底面のスタビライザがはみ出るように机の端などに置く

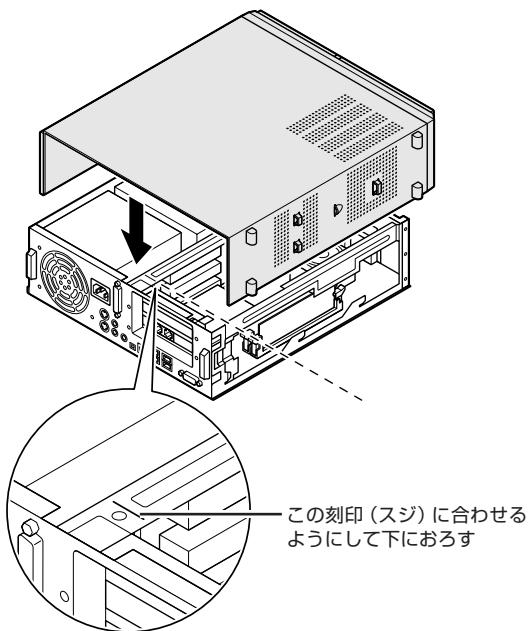
本体を横に倒すときは、本体を安定させるために、また机やテーブルなどを傷つけたりしないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

## 5 スタビライザを取り外す

スタビライザを落下させないよう、スタビライザを手に持って取り外してください。

## 6 本体背面のレバーを下方向（🔓）にずらす

## 7 ルーフカバーを下の図のように少し前にずらす

- ルーフカバーを取り外すときは、PCカードスロットのイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。
- ルーフカバーを取り外すときは、CD/DVDドライブのカバーをひっぱらないでください。カバーが破損することがあります。

## 8 そのままゆっくり上方向に持ち上げて取り外す

## ルーフカバーの取り付け方

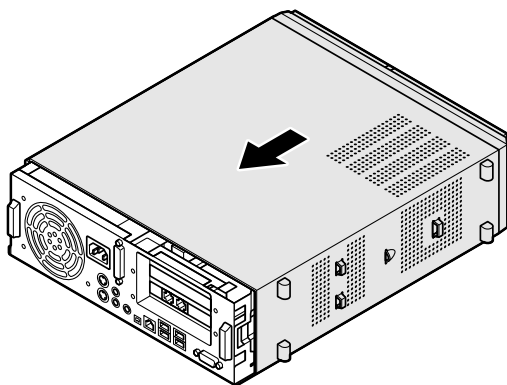
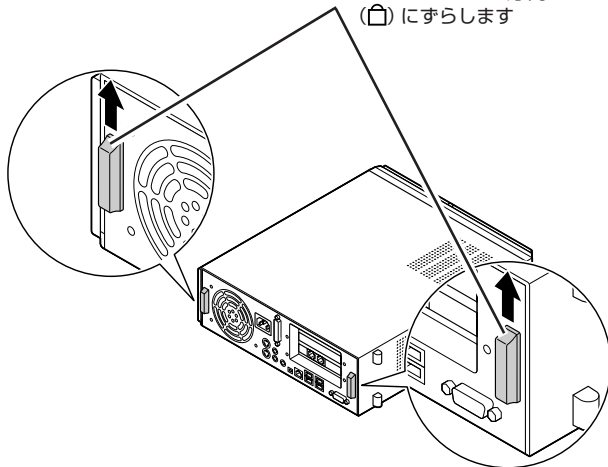
・機器の取り付けが終わって、カバーをもとどおりに取り付けるときは、外すときと逆の順番で作業を進めてください。

・ルーフカバーを取り付ける前に、本体背面のレバーが「⌂」の位置にあることを確認してください。

**1** ルーフカバーの先端を下の図の位置に合わせるようにして下におろす

・このとき、内部のケーブルや部品を引っかけたり、はさんだりしないように気をつけてください。

・ルーフカバーを取り付けるときは、PCカードイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。

・ルーフカバーを取り付けるときは、CD/DVDドライブのカバーを押したりしないでください。カバーが破損することがあります。

**2 ルーフカバーを本体背面側にスライドさせる**

**3 本体背面のレバーを上方向（🔒）にずらして固定する**

**4 スタビライザをもとどおりに取り付ける**

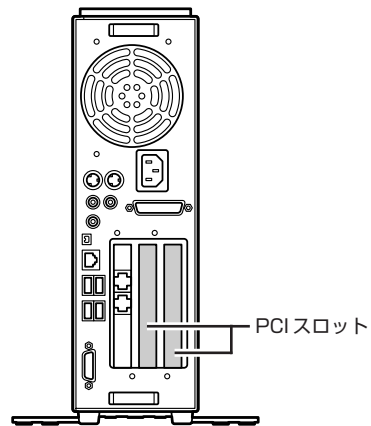
スタビライザの取り付けについては、第２章の「スタビライザ（台座）を取り付ける」をご覧ください。

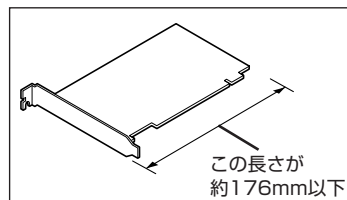
**5 「ルーフカバーの外し方」の手順３で取り外したケーブルをもとどおりに取り付ける**

ケーブルの接続については、「第２章 電源を入れる前に接続しよう」をご覧ください。

# PCIボード

## PCIスロットについて

このパソコンでは、下の図のように、PCIスロットを使用できます（モデルによって使用できるスロットの数は異なります）。
スロットにはハーフサイズのPCIボードを取り付けることができます。

BS/地上デジタルTVモデルのPCIスロットには空きスロットがないため、PCIボードの増設はできません。ここでは、BS/地上デジタルTVモデル以外の場合について、増設方法を説明します。

- **このパソコンには、フルサイズのPCIボードは取り付けられません。ハーフサイズのPCIボードを取り付けてください。ハーフサイズのPCIボードとは、次のような大きさのボードのことです。**

- **ハーフサイズのPCIボードであっても特殊な形状のボードは取り付けられないことがあります。**

# PCIボードの取り付けと取り外し

## PCI ボードの取り付け方

・以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。

・電源ケーブルやディスプレイのケーブルなど､本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。

・机やテーブルを傷つけたりしないように､下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

・標準で取り付けられているPCI ボードは、ご購入時に取り付けられていたスロットで使用してください。

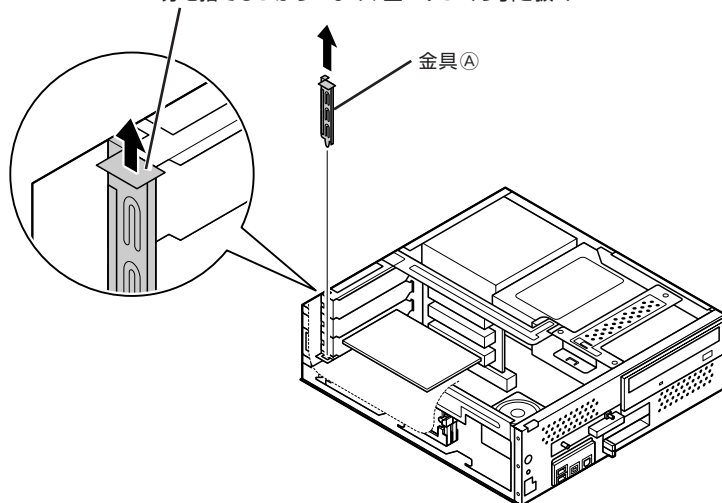
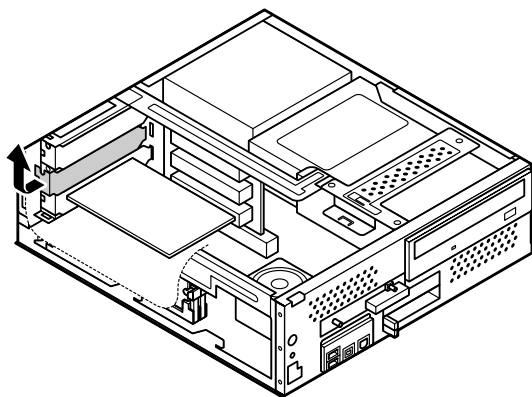
・標準で取り付けられているPCI ボードを取り外して、別のPCI ボードを取り付けた場合はサポートの対象外になります。

市販のPCI ボードを取り付けるときには、必ずPCI ボードに添付のマニュアルもご覧ください。

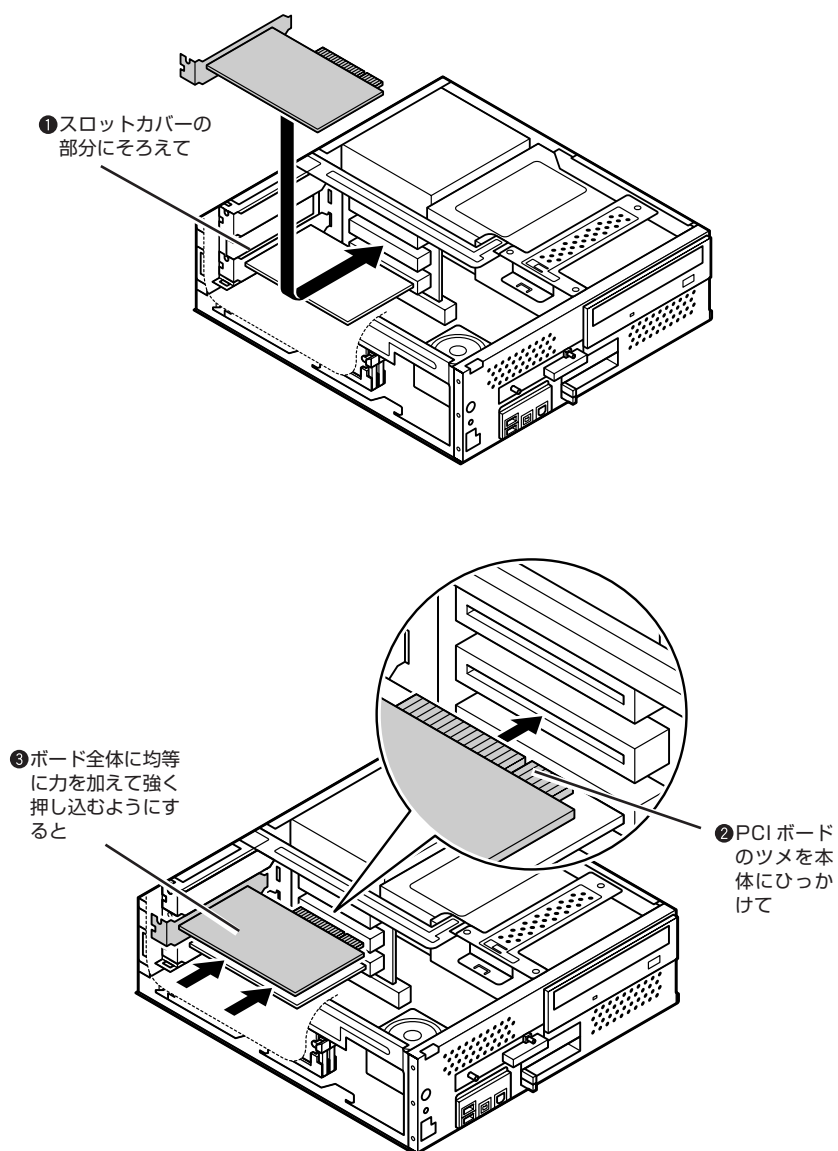
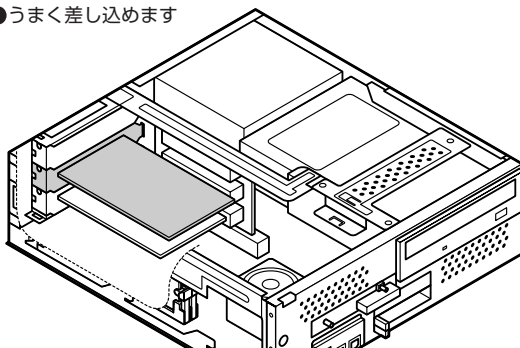
**1 正しい手順で本体のルーフカバーを外す**

ルーフカバーの外し方については、198 ページの「本体の開け方と閉め方」をご覧ください。

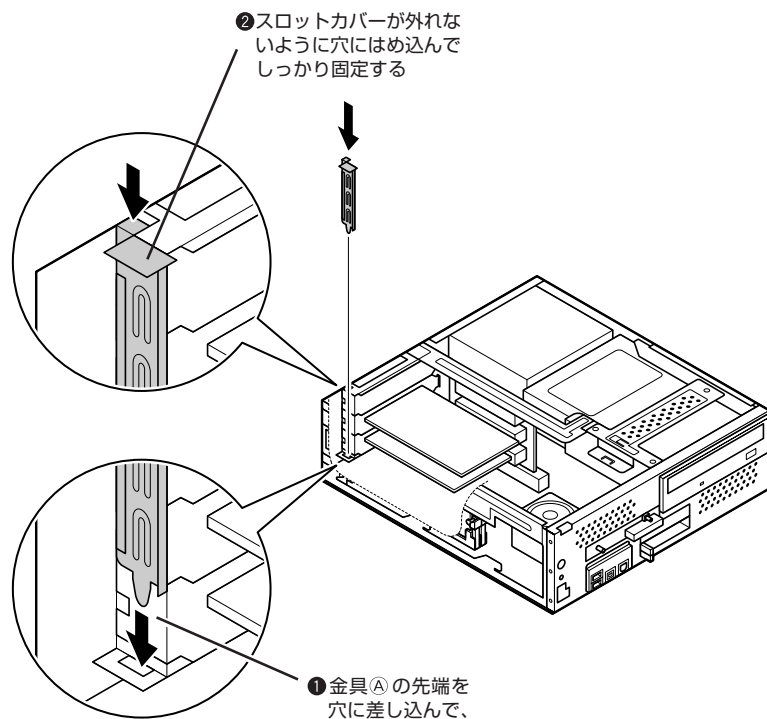
**2 下の図のように金具 Ⓐ を上へ引き抜くようにして取り外す**

金具 Ⓐ を取り外すときは、指をぶつけたり、切ったりしないように注意してください。

**3** 空いているPCIスロットのスロットカバーを取り外す

スロットカバーは、ここで取り付けたボードを取り外さないかぎり、不要となりますが、なくさないように大切に保管してください。

## 4 PCI ボードを、両手で支えながらスロットに慎重に差し込む

PCIボードをしっかり差し込むには、強い力が必要です。ボードのツメの先端がPCIスロットにきちんと合っていれば壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。また、そのときに指をぶつけたり、切ったりしないように注意してください。

・しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。

・PCI ボードを持つときは、ボード上の部品やツメ（端子）部分に触れないように注意してください。

**5** 手順２で外した金具Ⓐ を使って、PCI ボードを固定する

**6 正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける**

ルーフカバーの取り付け方については、198ページの「本体の開け方と閉め方」をご覧ください。

PCIボードによっては、ボードの取り付け後、パソコン側で設定作業が必要なものもあります。設定や使い方については、PCIボードに添付のマニュアルをご覧ください。

## PCI ボードの取り外し方

PCI ボードの取り外しは、PCI ボードの取り付けと逆の手順でおこなってください。

**FAXモデムボードも同じ方法で取り付けられています。FAXモデムボードの取り付け、取り外しは、PCI ボードと同じようにおこなうことができます。**

# メモリ

メモリを増やすことで、より多くのソフトを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。
このパソコンでメモリを増やすときには、別売の増設 RAM（ラム）サブボードをメモリスロットに取り付けます。

## メモリを増やすには

**どのくらいメモリを増やすかを決める**

このパソコンでは、最大2,048Mバイトまで増やせます。

**必要なものを準備する**

必要な増設RAMサブボードなどを準備します。

**増設RAMサブボードを取り付ける**

本体のルーフカバーを取り外し、用意した増設RAMサブボードを専用のスロットに取り付けます。取り付けたらルーフカバーをもとに戻します。

**メモリが増えたかどうか確認する**

本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

# このパソコンのメモリ

このパソコンには、増設RAMサブボード(DIMM:ディム)を差し込むスロット(コネクタ)が2つ用意されています。標準では、512Mバイトのモデル(256MバイトのRAMサブボードが2枚取り付けられたモデル)と、256Mバイトのモデル(256MバイトのRAMサブボードが1枚取り付けられたモデル)があります。

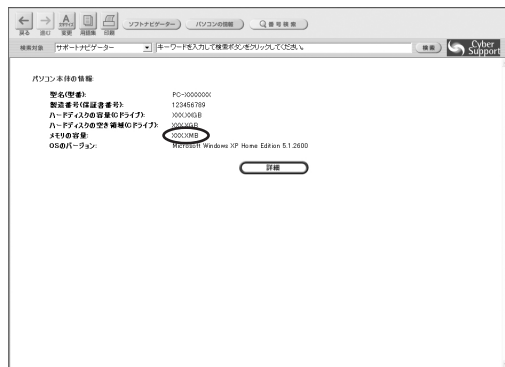
## メモリを確認する

お使いのモデルのメモリ容量は次の方法で確認できます。

**1 デスクトップの(困ったときのサポートナビゲーター)をダブルクリック**

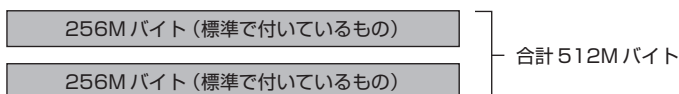
「サポートナビゲーター」が表示されます。

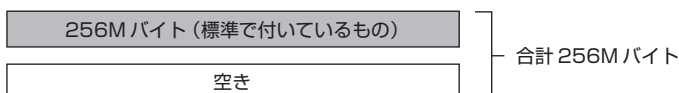
**2 パソコンの情報 をクリック**

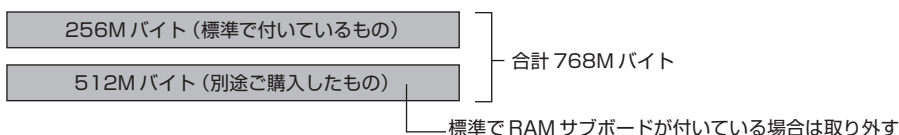
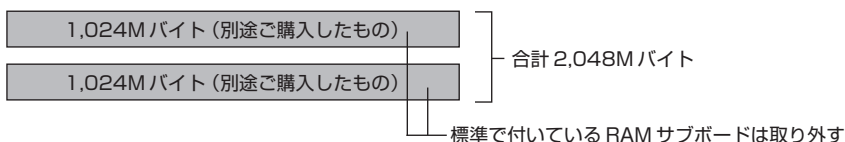
メモリ容量が表示されます。

メモリ容量は実際より数Mバイト少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。

## メモリの増やし方の例

**■メモリが 512M バイトのとき**

256M バイト（標準で付いているもの）
256M バイト（標準で付いているもの）
合計 512M バイト

標準で付いてくるメモリを取り外し、スロットに増設RAMサブボードを追加することで、メモリを増やします。メモリは、最大で2,048M バイト（1,024M バイトの増設RAM サブボード× 2 枚）まで増やすことができます。

**■メモリが 256M バイトのとき**

空いている残りの 1 スロットに、増設 RAM サブボードを追加することで、メモリを増やします。また、標準で付いているRAMサブボードを取り外して、より大きな容量の増設RAMサブボードに取り替えることも可能です。メモリは、最大で2,048Mバイト（1,024Mバイトの増設RAMサブボード×２枚）まで増やすことができます。

例 1：768M バイトにする場合
512Mバイトの増設RAMサブボードを 1 枚追加します。標準で両方のスロットにRAMサブボードが付いている場合は、標準で付いているRAMサブボードを 1 枚取り外してください。

例 2：2,048M バイト（最大）にする場合
標準で付いているRAMサブボードを２枚とも取り外し、1,024Mバイトの増設RAM サブボードを 2 枚取り付けます。

**実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より少ない値になります。**

## このパソコンで使える増設RAMサブボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設RAMサブボード」というボードを使います。
このパソコンでは、次の増設RAMサブボードを使うことをおすすめします。

| 型名 | メモリ容量 |
|---|---|
| PK-UG-ME009 | 256Mバイト |
| PK-UG-ME010 | 512Mバイト |
| PK-UG-ME011 | 1,024Mバイト |

(DDR SDRAM/DIMM、PC3200タイプ)

**このパソコンでは、「SIMM(シム)」やDDRが付かない「SDRAM DIMM」というタイプの増設RAMサブボード(メモリ)は使用できません。間違ってご購入しないように注意してください。**
**市販の増設RAMサブボードに関する動作保証やサポートはNECではおこなっていません。販売元にお問い合わせください。**

## 増設RAMサブボードを取り扱うときの注意

- **増設RAMサブボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMサブボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMサブボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。**
- **増設RAMサブボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。**
- **ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。**

# 増設RAMサブボードの取り付けと取り外し

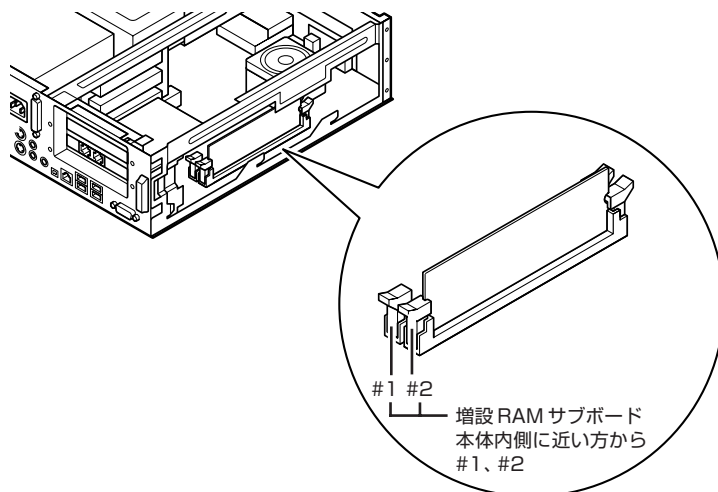
## 増設 RAM サブボードを取り付ける

増設RAMサブボードを取り付けるときは、本体のルーフカバーを開けて作業します。

**1** **正しい手順で本体のルーフカバーを外す**

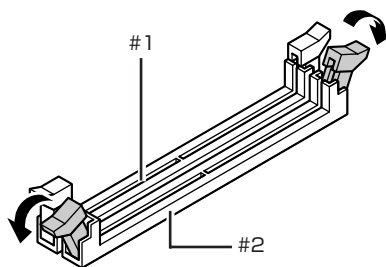
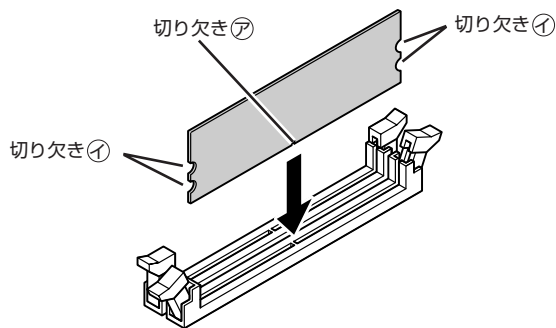
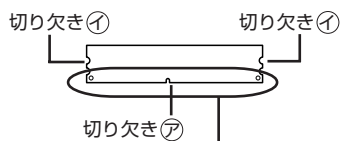
ルーフカバーの外し方については、198 ページの「本体の開け方と閉め方」をご覧ください。

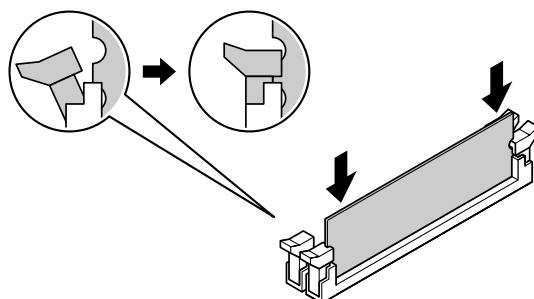
**電源ケーブルやディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。**

ここで、増設 RAM サブボード用のコネクタの位置を確認しておいてください。

**メモリスロット両方にメモリが取り付けられているときは、片方または両方のメモリを取り外してから、別途用意したメモリを取り付けます。**

・フックを開きすぎて破損してしまわないように気をつけてください。
・メモリは大変壊れやすい部品です。取り外した増設RAMサブボードおよび標準で付いていたRAMサブボードは、大切に保管してください。

**2** **ボードを差し込むコネクタの両側のフックを外側に開く**

この図では、実際に差し込まれているRAMサブボードを省略しています。

**3** **切り欠き㋐の方向とコネクタの溝の位置が合うように、空いているコネクタにボードを垂直に差し込む**

増設RAMサブボードは、両手で持ってください。

コネクタの溝とボードの切り欠き㋐の位置を確認してから差し込んでください。

**4** **そのまま垂直方向に力を加え、コネクタ両側のフックが切り欠き㋑に引っかかるまで、強く押し込む**

増設RAMサブボードを奥までしっかり差し込むには、強い力が必要です。手順3で差し込んだときに切り欠き㋐をコネクタの溝に正しく合わせてあれば、壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。また、そのときに指をぶつけたり、切ったりしないように注意してください。

**しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。**

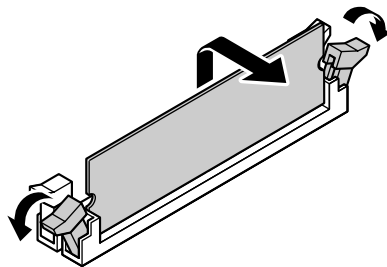
**5** **正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける**

ルーフカバーの取り付け方については、198ページの「本体の開け方と閉め方」をご覧ください。

## RAMサブボードを取り外す

**1** **正しい手順で本体のルーフカバーを外す**

ルーフカバーの外し方については、198ページの「本体の開け方と閉め方」をご覧ください。

**2** **取り外したいボードの両側のフックを外側に開き、ゆっくりとボードを垂直に引き抜き、周りの部品にぶつからないように取り出す**

- 電源ケーブルやディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。
- フックを開きすぎて破損してしまわないように気をつけてください。
- メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設RAMサブボードおよび標準で付いているRAMサブボードは、大切に保管してください。

**3** **正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける**

ルーフカバーの取り付け方については、198ページの「本体の開け方と閉め方」をご覧ください。

# 増やしたメモリの容量を確認する

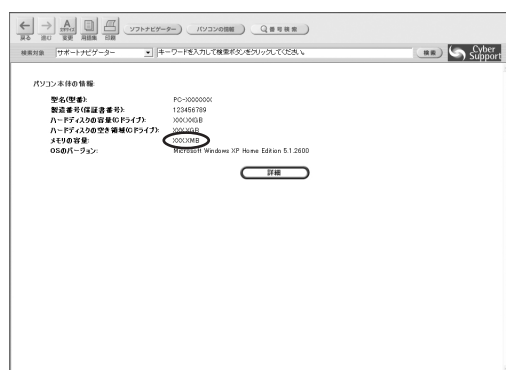
パソコンの電源を入れてみて、増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

**1** **デスクトップの（困ったときのサポートナビゲーター）をダブルクリック**

「サポートナビゲーター」が表示されます。

**2** **パソコンの情報 をクリック**

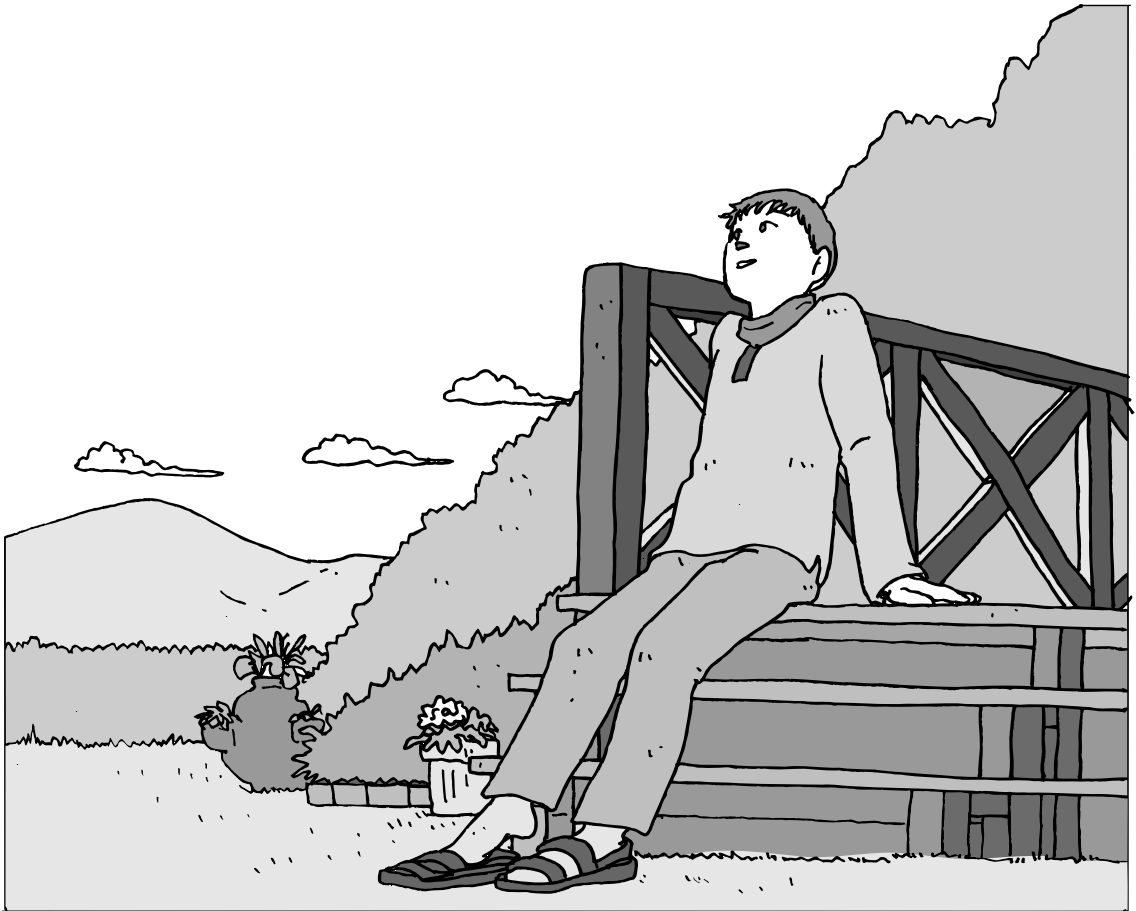
**3** **メモリ容量を確認する**

増やした後の全メモリ容量（標準で入っている容量＋増設した容量）が表示されているのを確認してください。

- **ここでは、増やした後の全メモリ容量より数Mバイト少なく表示される場合がありますが故障ではありません。**
- **メモリを増設した場合、初期化のため、電源を入れてからディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。**

## メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

- **メモリが正しく取り付けられているか？**
- **このパソコンで使える増設RAMサブボードを取り付けているか？**

# 付　録

# パソコンのお手入れ

パソコンが汚れたときなど、日常のお手入れのしかたを説明します。

水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。

## 準備するもの

軽い汚れのとき

乾いたきれいな布

汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布

シンナーやベンジンなど、揮発性の有機溶剤は使わないでください。これらの有機溶剤を含む化学ぞうきんも使わないでください。キーボードなどを傷め、故障の原因になります。

こんなものもあると便利

- OA 用クリーニングキット
  OA用クリーニングキットについては、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。
- 中性洗剤
- 掃除機など

## パソコンの電源を切って、電源ケーブルを抜いてから

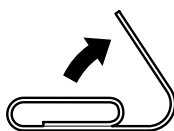
お手入れの前には、必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電することがあります。

# CD/DVDドライブからディスクが取り出せなくなったときは

CD/DVD ドライブからディスクが取り出せなくなったときの取り出し方を説明します。

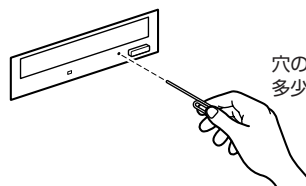
パソコンの電源が入っていないと、CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクは出てきません。
パソコンの電源が入っているにもかかわらず、ディスクトレイが出てこなくなった場合は、ソフトの異常な操作などでディスクが取り出せなくなっていることが考えられます。次の操作でディスクを取り出してください。

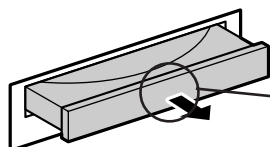
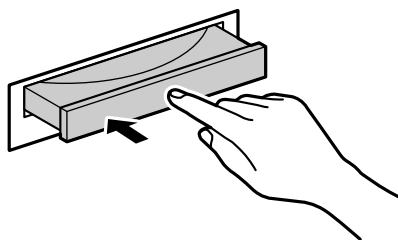
**1　太さが1.3mm程度、まっすぐな部分の長さが45mm程度（指でつまむ部分を除く）の針金を用意する**

大きめのペーパークリップを伸ばして作ることができます。

**2　パソコン本体の電源を切る**

**3　正しい手順で、ルーフカバーを外す**

ルーフカバーの外し方は、第９章の「本体の開け方と閉め方」（198ページ）をご覧ください。

**4　ディスクトレイの下の直径2mm程度の穴に、手順1で作った針金を差し込み、強く押しむ**

ディスクトレイが５～15mmほど飛び出します。

**5　ディスクトレイを手前に引き出し、ディスクを取り出す**

**6** **ディスクトレイの前面を、イジェクトボタンを押さないように注意しながら、ディスクトレイがもとどおりに収納されるまで押し込む**

**7** **パソコン本体のルーフカバーを取り付ける**

ルーフカバーの取り付け方は、第9章の「本体の開け方と閉め方」（198ページ）をご覧ください。

# アフターケアについて

このパソコンに対する保守サービスや、消耗品・消耗部品の内容について説明します。

## 保守サービスについて

保守サービスについては、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。詳しくは、添付の『121wareガイドブック』をご覧ください。

**NEC 121コンタクトセンターなどにこのパソコンの修理を依頼する場合は、設定したパスワードを解除しておいてください。**

## 消耗品と消耗部品について

このパソコンには、消耗品と消耗部品が含まれています。安定してご使用いただくためには、定期的な保守による部品交換が必要になります。特に長時間連続して使用する場合には、安全などの観点から早期の部品交換が必要です。

| 種類 | 内容 | 該当品または部品(代表例) |
|---|---|---|
| 消耗品 | 使用頻度や使用量により消耗の進行が異なります。お客様ご自身で購入し、交換していただくものです。保証期間内であっても有償となります。 | フロッピーディスク、<br>CD-ROMディスク、<br>DVD-ROMディスク、<br>SDメモリーカード、<br>メモリースティック、<br>バッテリ、乾電池など |
| 消耗部品 | 使用頻度や経過時間、使用環境によって摩耗、劣化の進行に大きな差が生じ、修理による再生ができなくなる部品です。本体の保証期間内であっても部品代は有償となる場合があります。詳しくはNEC　121コンタクトセンターの故障診断・修理受付窓口にご相談ください。 | ディスプレイ、<br>ハードディスクドライブ、<br>CD/DVDドライブ、<br>フロッピーディスクドライブ、<br>キーボード、<br>マウス、<br>ファン |

- **記載部品は代表例です。機種により構成部品が異なります。詳しくは「仕様一覧」をご覧ください。**
- **消耗部品の交換時期の目安は、1日8時間のご使用で約5年です(ご使用になる頻度により差が生じます。また、上記の目安時期前に交換が必要となることがあります)。**
- **本製品の補修用性能部品の最低保有期間は、PC本体、オプション製品については製造打切後6年です。**

# パソコンの譲渡、廃棄、改造について

パソコンを他人に譲るとき、廃棄するときの注意事項を説明します。また、パソコンの改造は行わないでください。

## このパソコンを譲渡するには

パソコン内のハードディスクには個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように、譲渡の際にはこれらの情報を削除することをおすすめします。このパソコンのハードディスクのデータを消去する方法については、192ページの「再セットアップ用CD/DVD-ROMを使って再セットアップする」をご覧ください。

### 譲渡するお客様へ

このパソコンを第三者に譲渡（売却）する場合は、次の条件を満たす必要があります。

1. 本体に添付されているすべてのものを譲渡し、複製物を一切保持しないこと。
2. 各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を満たすこと。
3. 譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、削除した後譲渡すること（本体に添付されている「ソフトウェア使用条件適用一覧」をご覧ください）。

※ 第三者に譲渡（売却）する製品をお客様登録している場合は、121ware.comのマイアカウント（http://121ware.com/my/）の保有商品情報で削除いただくか、または121ware（ワントゥワンウェア）登録センター（TEL:0120-469-121）までご連絡いただき、必ず登録削除の手続きをお願いします。

### 譲渡を受けたお客様へ

NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」での登録をお願いします。http://121ware.com/my/にアクセスし、「新規登録」でログインIDを取得した後に、保有商品情報の「新規・追加登録」で登録することができます。

インターネットに接続できないかたは、お客様登録に必要な次の事項を記入し、下記宛先に郵送してください。

1. 本体型番、型名のいずれかと保証書番号
   （本体背面／側面または保証書に記載の型番／型名のいずれかと製造番号）
2. 氏名、住所、電話番号、eメールアドレス、中古購入された場合はその購入先、購入日

宛先

〒183-8501　東京都府中市日新町1-10（NEC府中事業場）
　　　　　　121ware登録センター係

## このパソコンを廃棄するには

本製品は「資源有効利用促進法」に基づく回収再資源化対応製品です。PCリサイクルマークが銘板（パソコン本体の左側面または背面にある型番、製造番号が記載されたラベル）に表示されている、またはPCリサイクルマークのシールが貼り付けられている弊社製品は、弊社が責任を持って回収、再資源化いたします。

当該製品をご家庭から排出する際、弊社規約に基づく回収・再資源化にご協力いただける場合は、別途回収再資源化料金をご負担いただく必要はありません。

廃棄時の詳細については、NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」（URL：http://121ware.com/support/recyclesel/）をご覧ください。

なお、下記の窓口でも廃棄についてお問い合わせいただけます。

**NEC 121コンタクトセンター**
**廃棄のお問い合わせ　受付時間：9:00～17:00（祝日は除く）**
**フリーコール 0120-977-121**

電話番号をよくお確かめになり、お間違えのないようにおかけください。
携帯電話、PHSなどフリーコールをご利用いただけないお客様は下記電話番号へおかけください。

**03-6670-6000（東京）（通話料金はお客様負担となります）**

当該製品が事業者から排出される場合（産業廃棄物として廃棄される場合）、当社は資源有効利用促進法に基づき、当社の回収・リサイクルシステムにしたがって積極的に資源の有効利用につとめています。廃棄時の詳細については、下記のホームページで紹介している窓口にお問い合わせください。

URL：http://www.nec.co.jp/eco/ja/products/3r/shigen_menu.html

※本文に記載された電話番号や受付時間などは、将来予告なしに変更することがあります。

### ハードディスク、メモリカード上のデータ消去に関するご注意

パソコンのハードディスクやメモリカードには、お客様が作成、使用した重要なデータが記録されています。このパソコンを譲渡または廃棄するときに、これらの重要なデータ内容を消去することが必要となります。「データやファイルの消去」、「ハードディスクの初期化(フォーマット)」、「メモリカードの初期化(フォーマット)」、「パソコンの再セットアップ」などの操作を行うと、記録されたデータの管理情報が変更されるためにWindowsでデータを探すことはできなくなりますが、ハードディスクやメモリカードに磁気的に記録された内容が完全に消えるわけではありません。

**「パソコンの再セットアップ」でデータが消去されるのは、このパソコンに内蔵されたハードディスクのみです。**

このため、データ回復用の特殊なソフトウェアを利用すると、ハードディスクやメモリカードから消去されたはずのデータを読み取ることが可能な場合があり、悪意のある人によって予期しない用途に利用されるおそれがあります。

**お客様が廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスクおよびメモリカード上の重要なデータの流出トラブルを回避するために、記録された全データをお客様の責任において完全に消去することが非常に重要です。データを消去するためには、専用ソフトウェアまたはサービス(ともに有償)を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊(メモリカードの場合は、金槌による物理的破壊のみ)して、読めなくすることを推奨します。有償のデータ消去サービスは、NECフィールディング株式会社にご依頼ください。**

NECフィールディングホームページURL:
http://www.fielding.co.jp

また、ハードディスクやメモリカード上のソフトウェア(OS、アプリケーションソフトなど)を削除することなく譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。十分な確認を行ってください。

## パソコンの改造は行わない

添付されているマニュアルに記載されている以外の方法で、このパソコンを改造・修理しないでください。記載されている以外の方法で改造・修理された製品は、当社の保証や保守サービスの対象外となることがあります。

# 仕様一覧

## 本体仕様一覧

### VL900/AD、VL800/AD、VL770/AD

| 型名 | | | VL900/AD | VL800/AD | VL770/AD |
|---|---|---|---|---|---|
| 型番 | | | PC-VL900AD | PC-VL800AD | PC-VL770AD |
| インストールOS・サポートOS | | | Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack 2＊1 | | |
| CPU | | | HT テクノロジ＊2 インテル® Pentium® 4 プロセッサ 520 (2.80GHz) | | |
| キャッシュメモリ | 1次 | | 12Kμ命令実行トレース/16KBデータ(CPU内蔵) | | |
| | 2次 | | 1MB(CPU内蔵) | | |
| バスクロック | システムバス | | 800MHz | | |
| | メモリバス | | 400MHz | | |
| チップセット | | | Intel社製 82915GV / 82801FB | | |
| メモリ(メインRAM) | 標準容量 | | 512MB＊3(256MB×2)(DDR SDRAM/DIMM、PC3200対応) | | |
| | スロット数 | | 2スロット(DIMMスロット)[空きスロット0](デュアルチャネル対応) | | |
| | 最大容量 | | 2GB＊4 | | |
| 表示機能 | ビデオRAM | | 標準AUTO可変(最大128MB)＊3 | | |
| | グラフィックアクセラレータ | | Intel社製 82915GVに内蔵 | | |
| | 表示モード | (本体添付ディスプレイ) | 最大約1,677万色 (1,280×768、1,024×768、800×600) | 最大約1,619万色＊5 (1,280×768、1,024×768、800×600) | 最大約1,619万色＊5 (1,280×1,024、1,024×768、800×600) |
| | (本機のサポートする表示モード)＊6 | (デジタルディスプレイ) | 最大約1,677万色 (1,600x1,200、1,280×1,024、1,280×768、1,024×768、800×600) | | |
| | | (アナログディスプレイ) | 最大約1,677万色 (1,600×1,200、1,280×1,024、1,024×768、800×600) | | |
| メール着信表示機能 | | | メール着信ランプ搭載 | | |
| サウンド機能 | 音源/サラウンド機能 | | PCM録音再生機能(ステレオ/モノラル、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8-48KHz、全二重化対応)、MIDI音源機能(ソフトウェアMIDI《XG、XG-Lite、GM、GS演奏モード対応、DLS2対応＊7》)、マイクノイズ除去機能、3Dポジショナルサウンド | | |
| | スピーカ | | 添付の液晶ディスプレイに内蔵(SoundVu(5W+5W)、サブウーファ(6W)) | 添付の液晶ディスプレイに内蔵(SoundVu(3W+3W)、サブウーファ(5W)) | 添付の液晶ディスプレイに内蔵(ステレオ(1W+1W)) |
| | サウンドチップ | | ADI社製 AD1981B搭載 | | |
| 通信機能 | FAXモデム＊8 | | データ通信：最大56Kbps＊9(K56flex™、V.90対応)/FAX通信：最大14.4Kbps(V.17)、Resume On Ring機能対応 | | |
| | LAN | | 100BASE-TX/10BASE-T対応 | | |
| 入力装置 | キーボード | | PS/2小型キーボード(109キーレイアウト準拠、ワンタッチスタートボタン付き) | | |
| | マウス | | 光センサーPS/2マウス(スクロール機能付き)＊10 | | |
| | リモコン | | プリセット機能付赤外線リモコン＊11 | 赤外線リモコン＊11 | |
| フロッピーディスクドライブ | | | −【別売、専用オプション(PC-VP-WU14)＊12】 | | |
| ハードディスクドライブ＊13 | | | 約250GB＊14(Serial ATA、高速7,200回転/分) | | |
| CD/DVDドライブ | | | DVDスーパーマルチドライブ(DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW)内蔵(バッファアンダーランエラー防止機能付き) [DVD+R 2層書込み] | | |
| | 速度 | | DVD-RAM読出し：最大5倍速 ＊15、DVD-RAM書換え：最大5倍速＊15＊16、DVD+R(2層)書き込み：最大2.4倍速＊40、DVD+R(1層)書込み：最大12倍速 、DVD+RW書換え：最大4倍速、DVD-R書込み：最大8倍速＊17、DVD-RW書換え：最大4倍速＊18、DVD読出し：最大16倍速、CD読出し：最大40倍速＊19、CD-R書込み：最大40倍速、CD-RW書換え：最大10倍速＊20 | | |
| 映像関連機能(地上アナログ放送) | MPEGボード | | ハードウェアMPEG2リアルタイムエンコーダボード | | |
| | TVチューナ | | 音声多重対応、受信チャンネル：VHF(1〜12ch)、UHF(13〜62ch)、CATV(C13〜C38)＊21 | | |
| | データ放送受信 | | 地上アナログデータ放送(ADAMS)、字幕放送 | | |
| | 映像合成表示機能 | | DirectShow®により任意のサイズで合成表示可能(全画面表示可能)<br>SmartVision使用時：240×180ドット以上(縦横比3:4固定)でサイズ変更可能 | | |
| | 高画質機能 | | デジタルノイズリダクション、タイムベースコレクタ | | |
| | TV録画機能 | | SmartVisionでMPEG2(高画質モード：720×480ドット(8Mbps CBR)、標準画質モード：720×480ドット(4Mbps VBR)、長時間録画モード：352×480ドット(2Mbps VBR)、超長時間録画モード:352×240ドット(1.2Mbps VBR))、MPEG1(ユーザ設定モード：352×240ドット(1.152Mbps CBR))の録画可能 | | |
| | 最長録画時間(高画質モード) | | 約60時間20分 | 約60時間0分 | 約60時間20分 |
| | 最長録画時間(標準画質モード) | | 約117時間40分 | 約117時間10分 | 約117時間40分 |
| | 最長録画時間(長時間録画モード) | | 約223時間50分 | 約222時間40分 | 約223時間50分 |
| | 最長録画時間(超長時間録画モード) | | 約349時間30分 | 約347時間50分 | 約349時間30分 |

| 型名 | | VL900/AD | VL800/AD | VL770/AD |
|---|---|---|---|---|
| 映像関連機能(地上デジタル放送) | TVチューナ | － | 地上デジタル放送＊22 | － |
| | データ放送受信 | － | 地上デジタル放送 | － |
| | 映像合成表示機能 | － | DirectShow® により任意のサイズで合成表示可能(全画面表示可能) SmartVision DG使用時：224×126ドット以上(スリムモード時、縦横比9:16)の範囲でサイズ変更可能 | － |
| | TV録画機能 | － | 独自形式(デジタルハイビジョンテレビ放送(約15Mbps)、デジタル標準テレビ放送(約8Mbps)の録画可能 | － |
| | 最長録画時間(デジタルハイビジョンテレビ放送) | － | 約30時間40分 | － |
| | 最長録画時間(デジタル標準テレビ放送) | － | 約57時間30分 | － |
| 映像関連機能(BSデジタル放送・110度CSデジタル放送) | TVチューナ | － | BSデジタル放送＊22、110度CSデジタル放送＊22 | － |
| | データ放送受信 | － | BSデジタル放送、110度CSデジタル放送 | － |
| | 映像合成表示機能 | － | DirectShow® により任意のサイズで合成表示可能(全画面表示可能) SmartVision BS使用時：224×126ドット以上(スリムモード時、縦横比9:16)の範囲でサイズ変更可能 | － |
| | TV録画機能 | － | SmartVision BSで独自形式(デジタルハイビジョンテレビ放送(約24Mbps)、デジタル標準テレビ放送(約12Mbps)、ラジオ、データ放送(約2.2Mbps))の録画可能 | － |
| | 最長録画時間(デジタルハイビジョンテレビ放送) | － | 約18時間10分 | － |
| | 最長録画時間(デジタル標準テレビ放送) | － | 約36時間30分 | － |
| | 最長録画時間(ラジオ、データ放送) | － | 約200時間0分 | － |
| スロット | メモリースティック(メモリースティックPRO) | トリプルメモリースロット×1＊23 | | |
| | SDメモリーカード | トリプルメモリースロット×1＊23 | | |
| | xD-ピクチャーカード | トリプルメモリースロット×1＊23 | | |
| | PCカード | Type II×2(Type III×1スロットとしても使用可)、PC Card Standard準拠、CardBus対応 | | |
| | PCI | 2スロット(ハーフ×2)[空きスロット1] | 2スロット(ハーフ×2)[空きスロット0] | 2スロット(ハーフ×2)[空きスロット1] |
| インターフェイス | USB | コネクタ4ピン×9(本体×6＊24、液晶ディスプレイ×3)[USB 2.0] | コネクタ4ピン×6(本体×6＊24)[USB 2.0] | |
| | IEEE1394(DV) | 4ピン×2 | | |
| | パラレル | D-sub25ピン×1 | | |
| | ディスプレイ | DVI-I(29ピン)＊25 | | |
| | PS／2 | ミニDIN6ピン×2＊26 | | |
| | FAXモデム | RJ11モジュラコネクタ×2(LINE×1、TELEPHONE×1) | | |
| | LAN | RJ45コネクタ×1 | | |
| サウンド関連インターフェイス | 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力 | 角形×1＊27 | 角形×2(本体×1＊28、デジタルTVボード×1＊29＊30) | 角形×1＊27 |
| | ライン入力 | ステレオミニジャック×2(本体実装：入力インピーダンス 20kΩ、入力レベル 1Vrms、TVボード実装：入力インピーダンス 47kΩ、入力レベル 2Vrms) | ステレオミニジャック×1(本体実装：入力インピーダンス 20kΩ、入力レベル 1Vrms) | ステレオミニジャック×2(本体実装：入力インピーダンス 20kΩ、入力レベル 1Vrms、TVボード実装：入力インピーダンス 47kΩ、入力レベル 2Vrms) |
| | ライン出力 | ステレオミニジャック×1＊31(出力レベル 1Vrms、出力インピーダンス 10kΩ) | | |
| | マイク入力 | ステレオミニジャック×1(マイク入力インピーダンス 20kΩ、入力レベル 5mVrms、バイアス電圧 3.7V) | | |
| | ヘッドフォン出力 | ライン出力と共用(対応ヘッドフォンインピーダンス 16Ω-100Ω「推奨32Ω」＊32、出力電力 5mW/32Ω) | | |
| | ビデオオーディオ入力端子(L/R) | － | 1系統(背面×1) | － |

| 型名 | | VL900/AD | VL800/AD | VL770/AD |
|---|---|---|---|---|
| 映像関連インターフェイス | 地上アナログ放送アンテナ入力 | F型同軸×1 | − | F型同軸×1 |
| | 地上アナログ・デジタル放送アンテナ入力 | − | F型同軸×1 | − |
| | BS110度/CS110度デジタル放送アンテナ入力 | − | F型同軸×1 | − |
| | ビデオ入力 | Sビデオ端子×1(背面×1)、コンポジットビデオ端子×1(背面×1) | | |
| | ICカードボックス | − | 専用13ピン | − |
| ベイ | | 5型ベイ:1スロット(CD/DVDドライブで占有済)[空きスロット0]、内蔵3.5型ベイ:1スロット(ハードディスクドライブで占有済)[空きスロット0] | | |
| 電源 | | AC100V±10%、50/60Hz | | |
| 消費電力 | 標準 | 約107W | 約117W | 約106W |
| | 最大 | 220W | 230W | 220W |
| エネルギー消費効率(省エネ基準達成率)＊33 | | P区分 0.00021(AAA) | | |
| 電波障害対策 | | VCCI ClassB | | |
| 温湿度条件 | | 10〜35℃、20〜80%(ただし結露しないこと) | | |
| 外形寸法 | 本体(突起部除く) | 100(W)×366(D)×332(H)mm＊34 | | |
| | 本体(スタビライザ設置時) | 192(W)×366(D)×332(H)mm | | |
| | キーボード | 388(W)×173(D)×37(H)mm | | |
| | リモコン | 52(W)×225(D)×25(H)mm | | |
| 質量 | 本体 | 約9.2kg | 約9.4kg | 約9.2kg |
| | キーボード/マウス/リモコン | 約1000g/約82g/約127g＊35 | | |
| 主な添付品 | | マニュアル、電源ケーブル、回線ケーブル、リモコン、乾電池(単三アルカリ:2本) | マニュアル、ICカードボックス、B-CASカード、電源ケーブル、回線ケーブル、リモコン、乾電池(単三アルカリ:2本) | マニュアル、電源ケーブル、回線ケーブル、リモコン、乾電池(単三アルカリ:2本) |
| 主なインストールソフト | | Microsoft® Office Personal Edition 2003 | | |
| ディスプレイ | | F23W11(A) | F17W91 | F19R31 |
| | 画面サイズ | 23型ワイド(高輝度デジタルTFT液晶[TVチューナ内蔵]) | 17型ワイド(高輝度デジタルTFT液晶) | 19型(高解像度スーパーシャインビュー液晶) |
| | TVチューナー | 音声多重対応、受信チャンネル:VHF(1〜12ch)、UHF(13〜62ch)、CATV(C13〜C63ch)＊21 | − | |
| | インターフェイス | DVI-D、USB 2.0×3、ヘッドフォン出力×1、TVアンテナ入力×1、TVアンテナ出力×1、ビデオ入力1(D4入力端子×1＊36、Sビデオ入力端子×1＊36、コンポジットビデオ入力端子×1＊36、ライン入力(L/R)×1)、ビデオ入力2(Sビデオ入力端子×1＊37、コンポジットビデオ入力端子×1＊37、ライン入力(L/R)×1)、ステレオライン入力×1 | DVI-D、ヘッドフォン出力×1、ステレオライン入力×1、リモコン受信機×1 | |
| | 表示寸法 | アクティブ表示エリア:501(W)×300(H)mm | アクティブ表示エリア:370(W)×222(H)mm | アクティブ表示エリア:376(W)×301(H)mm |
| | 画素ピッチ | 0.3915mm | 0.2895mm | 0.294mm |
| | 表示解像度 | 640×480ドット＊38＊39、800×600ドット＊38＊39、1,024×768ドット＊39、1,280×768ドット | 640×480ドット＊38＊39、800×600ドット＊38＊39、1,024×768ドット＊39、1,280×768ドット | 640×480ドット＊38、800×600ドット＊38、1,024×768ドット＊38、1,280×1,024ドット |
| | 消費電力 | 約138W | 約63W | 約42W |
| | 外形寸法 | 660(W)×220(D)×469(H)mm | 483(W)×207(D)×352(H)mm | 433(W)×229(D)×463(H)mm |
| | 質量 | 約13.5kg | 約8.1kg | 約7.2kg |
| | 備考 | SoundVu、サブウーファ、TV操作ボタン、VISUALボタン | SoundVu、サブウーファ、VISUALボタン | − |

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

＊　1：添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。Microsoft® Windows® XP Home Editionでは、ネットワークでドメインに参加する機能はありません。別売のMicrosoft® Windows® XP Home Editionパッケージや別売のMicrosoft® Windows® XP Professionalパッケージをインストールおよび利用することはできません。
＊　2：ソフトウェアやドライバがHTテクノロジに対応している必要があります。各ソフトウェアメーカ、周辺機器メーカにお問い合わせください。
＊　3：ビデオRAMはメモリ（メインRAM）を使用します。パソコン本体のメモリ容量が256Mバイトの場合、ビデオRAMの設定内容を変更すると動作が不安定となることがあります。この場合は初期設定（ご購入時の設定）に戻してご利用ください。
＊　4：増設RAMサブボード（PC3200対応-DDR400MHzメモリ）[1024MB]を2枚実装する必要があります。増設RAMサブボードを増設する場合は、PK-UG-ME009（256MB）、PK-UG-ME010（512MB）、PK-UG-ME011（1024MB）を推奨します。
＊　5：本体添付ディスプレイでのディザリングにより実現。
＊　6：グラフィックアクセラレータのサポートする表示モードです。実際に表示できるモードは接続するディスプレイにより異なります。なお、デジタルディスプレイでの1,280×768の解像度については弊社製ワイドモニタでのみ動作検証を行っております。
＊　7：DLSは「DownLoadable Sounds」の略です。DLSを使うと、カスタム・サウンド・セットをSoundMAXシンセサイザにロードできます。
＊　8：回線状態によっては、通信速度が変わる場合があります。また、内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
＊　9：最大56Kbpsはデータ受信時の速度です。データ送信時は最大33.6Kbpsになります。
＊ 10：添付のキーボードにあるマウス専用ポートに接続します。
＊ 11：リモコンの電池寿命はご使用の環境条件や方法により異なりますがアルカリ電池で最大約100時間です。また、使用可能な距離はご使用の環境条件や方法により異なりますが約3mです。
＊ 12：2モード（720KB/1.44MB）に対応しています（ただし、720KBモードのフォーマットは不可です）。
＊ 13：1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。
＊ 14：Windows®のシステムからは、容量がCドライブ：約221GB、Dドライブ：約4.6GB、残り：再セットアップ用として認識されます。
＊ 15：DVD-RAM Ver.2（片面4.7GB）の速度です。また、カートリッジ式のメディアは使用できませんので、カートリッジなし、あるいはメディア取り出し可能なカートリッジ式でメディアを取り出してご利用ください。
＊ 16：DVD-RAM Ver.1（片面2.6GB）の書き換えはサポートしていません。
＊ 17：DVD-Rは、DVD-R for General Ver.2.0に準拠したメディアの書き込みに対応しています。
＊ 18：DVD-RWは、DVD-RW Ver.1.1に準拠したメディアの書き込みに対応しています。
＊ 19：SuperAudio CDは、ハイブリッドのCD Layerのみ読み出し可能
＊ 20：Ultra Speed CD-RWメディアはご使用になれません。
＊ 21：CATVの受信チャンネル表記は、（社）電子情報技術産業協会規格（CPR-4103）の表記に基づきます。実際のCATV受信チャンネル番号は、ケーブルテレビ会社により異なりますので、ケーブルテレビ会社にお問い合わせください。
本製品をCATV回線に接続する場合、ケーブルテレビ会社との受信契約が必要となります。
また、本製品は、記載されたCATV周波数の受信に対応しておりますが、大半のチャンネルはケーブルテレビ会社により視聴制限（スクランブル）を施されているため、本製品で直接受信する事はできません。
この場合は、ケーブルテレビ会社より貸与されるターミナルアダプタにより、受信する必要があります。
ケーブルテレビ会社により再送信を行っている地上アナログ放送は、VHFおよびUHFの周波数で送信されていますので、特別な受信装置がなくとも、受信可能です。
詳細は、ご利用のケーブルテレビ会社にご相談ください。
＊ 22：ハイビジョン映像をパソコン上で処理しやすい解像度へ変換して表示します。
＊ 23：メモリースティックの「マジックゲート」（著作権保護）機能には対応しておりません。「メモリースティック Duo」をご使用の場合は、必ずメモリースティック Duoアダプタを使用してご利用ください。詳しくは「メモリースティック Duo」の取扱説明書をご参照ください。SDメモリーカードスロットは、著作権保護機能には対応しておりません。「miniSDカード」をご使用の場合には、必ずminiSDカードアダプタを使用してご利用ください。詳しくは「miniSDカード」の取り扱い説明書をご参照ください。メモリースティック、SDメモリーカード、xD-ピクチャーカードは各々同時に使用することはできません。
＊ 24：1ポートは液晶ディスプレイに接続します。
＊ 25：本機のDVI端子は添付のディスプレイのみ動作確認を行っております。
＊ 26：本機のPS/2端子は添付のキーボードのみ動作確認を行っております。
＊ 27：SmartVisionにおける音声は出力できません。
＊ 28：SmartVision、SmartVision BSおよびSmartVision DGにおける音声は出力できません。
＊ 29：SmartVision BSまたはSmartVision DGの映像音声（AAC 5.1chもしくはPCM 2ch）を出力します。BSデジタル/110度CSデジタル放送または地上デジタル放送用音声出力端子としても利用できます。
＊ 30：放送内容によりサンプリング周波数32KHz、44.1KHzあるいは48KHzで出力します。また、一般のCDプレイヤー・MDデッキ類と同様に、SCMS（シリアルコピーマネジメントシステム）に準拠した信号を出力します。
＊ 31：ディスプレイに添付のオーディオケーブルを接続します。
＊ 32：周波数特性を保証する値ではありません。
＊ 33：エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。省エネ基準達成率の表示語Aは達成率100%以上200%未満、AAは達成率200%以上500%未満、AAAは達成率500%以上を示します。
＊ 34：本機を横置きにしてのご使用はサポートしておりません。
＊ 35：乾電池の質量は含まれておりません。
＊ 36：D4入力端子、Sビデオ入力端子、コンポジットビデオ入力端子の利用は排他になります。また、表示の優先順位はD4入力端子→Sビデオ入力端子→コンポジットビデオ入力端子の順になります。
＊ 37：Sビデオ入力端子とコンポジットビデオ入力端子の利用は排他になります。また、表示の優先順位はSビデオ入力端子→コンポジットビデオ入力端子の順になります。
＊ 38：擬似的に画素を拡大して表示しているため文字などの線がぼやけて表示される場合があります。
＊ 39：画面の左右で合わせて256画素分の非表示エリアが発生します。
＊ 40：DVD+R 2層書込みはDVD+R（2層）ディスクのみに対応しています。

# VL700/AD、VL590/AD、VL570/AD、VL350/AD

| 型名 | | VL700/AD | VL590/AD | VL570/AD | VL350/AD |
|---|---|---|---|---|---|
| 型番 | | PC-VL700AD | PC-VL590AD | PC-VL570AD | PC-VL350AD |
| インストールOS・サポートOS | | Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack 2＊1 | | | |
| CPU | | インテル® Celeron®D プロセッサ 330 (2.66GHz) | HT テクノロジ＊2 インテル® Pentium® 4 プロセッサ 520 (2.80GHz) | インテル® Celeron®D プロセッサ 330 (2.66GHz) | |
| キャッシュメモリ | 1次 | 12Kμ命令実行トレース/16KBデータ(CPU内蔵) | | | |
| | 2次 | 256KB(CPU内蔵) | 1MB(CPU内蔵) | 256KB(CPU内蔵) | |
| バスクロック | システムバス | 533MHz | 800MHz | 533MHz | |
| | メモリバス | 400MHz | | | |
| チップセット | | Intel社製 82915GV / 82801FB | | | |
| メモリ(メインRAM) | 標準容量 | 256MB＊3(DDR SDRAM/DIMM、PC3200対応) | 512MB＊3(256MB×2)(DDR SDRAM/DIMM、PC3200対応) | | 256MB＊3(DDR SDRAM/DIMM、PC3200対応) |
| | スロット数 | 2スロット(DIMMスロット)[空きスロット1] | 2スロット(DIMMスロット)[空きスロット0](デュアルチャネル対応) | | 2スロット(DIMMスロット)[空きスロット1] |
| | 最大容量 | 2GB＊4 | | | |
| 表示機能 | ビデオRAM | 標準AUTO可変(最大128MB)＊3 | | | |
| | グラフィックアクセラレータ | Intel社製 82915GVに内蔵 | | | |
| | 表示モード(本機のサポートする表示モード)＊6 本体添付ディスプレイ | 最大約1,619万色＊5 (1,280×1,024、1,024×768、800×600) | | | 最大約1,619万色＊5 (1,024×768、800×600) |
| | デジタルディスプレイ | 最大約1,677万色 (1,600×1,200、1,280×1,024、1,280×768、1,024×768、800×600) | | | |
| | アナログディスプレイ | 最大約1,677万色 (1,600×1,200、1,280×1,024、1,024×768、800×600) | | | |
| メール着信表示機能 | | メール着信ランプ搭載 | | | |
| サウンド機能 | 音源／サラウンド機能 | PCM録音再生機能(ステレオ/モノラル、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8-48KHz、全二重化対応)、MIDI音源機能(ソフトウェアMIDI〈XG、XG-Lite、GM、GS演奏モード対応、DLS2対応＊7〉)、マイクノイズ除去機能、3Dポジショナルサウンド | | | |
| | スピーカ | 添付の液晶ディスプレイに内蔵(ステレオ(1W+1W)) | | 添付の液晶ディスプレイに内蔵(SoundVu3W+3W)、サブウーファ(5W)) | 添付の液晶ディスプレイに内蔵(ステレオ(1W+1W)) |
| | サウンドチップ | ADI社製 AD1981B搭載 | | | |
| 通信機能 | FAXモデム＊8 | データ通信：最大56Kbps＊9(K56flex™、V.90対応)/FAX通信：最大14.4Kbps(V.17)、Resume On Ring機能対応 | | | |
| | LAN | 100BASE-TX/10BASE-T対応 | | | |
| 入力装置 | キーボード | PS/2小型キーボード(109キーレイアウト準拠、ワンタッチスタートボタン付き) | | | |
| | マウス | 光センサーPS/2マウス(スクロール機能付き)＊10 | | | |
| | リモコン | 赤外線リモコン＊11 | | | |
| フロッピーディスクドライブ | | ー【別売、専用オプション(PC-VP-WU14)＊12】 | | | |
| ハードディスクドライブ＊13 | | 約200GB＊14(Serial ATA、高速7,200回転/分) | 約250GB＊15(Serial ATA、高速7,200回転/分) | 約200GB＊14(Serial ATA、高速7,200回転/分) | 約160GB＊16(Serial ATA、高速7,200回転/分) |
| CD/DVDドライブ | | DVDスーパーマルチドライブ(DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW)内蔵(バッファアンダーランエラー防止機能付き) [DVD+R 2層書込み] | | | |
| | 速度 | DVD-RAM読出し：最大5倍速 ＊17 、DVD-RAM書換え：最大5倍速＊17＊18、DVD+R(2層)書き込み: 最大2.4倍速＊37、DVD+R(1層)書込み：最大12倍速 、DVD+RW書換え：最大4倍速、DVD-R書込み：最大8倍速＊19、DVD-RW書換え：最大4倍速＊20、DVD読出し：最大16倍速、CD読出し：最大40倍速＊21、CD-R書込み：最大40倍速、CD-RW書換え：最大10倍速＊22 | | | |
| 映像関連機能(地上アナログ放送) | MPEGボード | ハードウェアMPEG2リアルタイムエンコーダボード | | | |
| | TVチューナ | 音声多重対応、受信チャンネル：VHF(1〜12ch)、UHF(13〜62ch)、CATV(C13〜C38)＊23 | | | |
| | データ放送受信 | 地上アナログデータ放送(ADAMS)、字幕放送 | | | |
| | 映像合成表示機能 | DirectShow®により任意のサイズで合成表示可能(全画面表示可能)<br>SmartVision使用時：240×180ドット以上(縦横比3:4固定)でサイズ変更可能 | | | |
| | 高画質機能 | デジタルノイズリダクション、タイムベースコレクタ | | | |
| | テレビ録画機能 | SmartVisionでMPEG2(高画質モード：720×480ドット(8Mbps CBR)、標準画質モード：720×480ドット(4Mbps VBR)、長時間録画モード：352×480ドット(2Mbps VBR)、超長時間録画モード:352×240ドット(1.2Mbps VBR))、MPEG1(ユーザ設定モード：352×240ドット(1.152Mbps CBR))の録画可能 | | | |
| | 最長録画時間(高画質モード) | 約46時間30分 | 約60時間20分 | 約46時間30分 | 約35時間50分 |
| | 最長録画時間(標準画質モード) | 約90時間40分 | 約117時間40分 | 約90時間40分 | 約69時間50分 |
| | 最長録画時間(長時間録画モード) | 約172時間20分 | 約223時間50分 | 約172時間20分 | 約132時間50分 |
| | 最長録画時間(超長時間録画モード) | 約269時間10分 | 約349時間30分 | 約269時間10分 | 約207時間20分 |

| 型名 | | VL700/AD | VL590/AD | VL570/AD | VL350/AD |
|---|---|---|---|---|---|
| スロット | メモリースティック（メモリースティック PRO） | トリプルメモリースロット×1＊24 | | | |
| | SDメモリーカード | トリプルメモリースロット×1＊24 | | | |
| | xD-ピクチャーカード | トリプルメモリースロット×1＊24 | | | |
| | PCカード | Type II×2（Type III×1スロットとしても使用可）、PC Card Standard準拠、CardBus対応 | | | |
| | PCI | 2スロット（ハーフ×2）[空きスロット1] | | | |
| インターフェイス | USB | コネクタ4ピン×6（本体×6＊25）[USB 2.0] | | | コネクタ4ピン×6（本体×6＊25＊26）[USB 2.0] |
| | IEEE1394（DV） | 4ピン×2 | | | |
| | パラレル | D-sub25ピン×1 | | | |
| | ディスプレイ | DVI-I（29ピン）＊27 | | | |
| | PS/2 | ミニDIN6ピン×2＊28 | | | |
| | FAXモデム | RJ11モジュラコネクタ×2（LINE×1、TELEPHONE×1） | | | |
| | LAN | RJ45コネクタ×1 | | | |
| サウンド関連インターフェイス | 光デジタルオーディオ（S/PDIF）出力 | 角形×1＊29 | | | |
| | ライン入力 | ステレオミニジャック×2（本体実装：入力インピーダンス 20kΩ、入力レベル 1Vrms、TVボード実装：入力インピーダンス 47kΩ、入力レベル 2Vrms） | | | |
| | ライン出力 | ステレオミニジャック×1＊30（出力レベル 1Vrms、出力インピーダンス 10kΩ） | | | |
| | マイク入力 | ステレオミニジャック×1（マイク入力インピーダンス 20kΩ、入力レベル 5mVrms、バイアス電圧 3.7V） | | | |
| | ヘッドフォン出力 | ライン出力と共用（対応ヘッドフォンインピーダンス 16Ω-100Ω「推奨32Ω」＊31、出力電力 5mW/32Ω） | | | |
| 映像関連インターフェイス | 地上アナログ放送アンテナ入力 | F型同軸×1 | | | |
| | ビデオ入力 | Sビデオ端子×1（背面×1）、コンポジットビデオ端子×1（背面×1） | | | |
| ベイ | | 5型ベイ：1スロット（CD/DVDドライブで占有済）[空きスロット0]、内蔵3.5型ベイ：1スロット（ハードディスクドライブで占有済）[空きスロット0] | | | |
| 電源 | | AC100V±10%、50/60Hz | | | |
| 消費電力 | 標準 | 約89W | 約105W | 約92W | 約88W |
| | 最大 | 198W | 218W | 197W | |
| エネルギー消費効率（省エネ基準達成率）＊32 | | P区分 0.00022（AAA） | P区分 0.00021（AAA） | P区分 0.00022（AAA） | |
| 電波障害対策 | | VCCI ClassB | | | |
| 温湿度条件 | | 10～35℃、20～80%（ただし結露しないこと） | | | |
| 外形寸法 | 本体（突起部除く） | 100（W）×366（D）×332（H）mm＊33 | | | |
| | 本体（スタビライザ設置時） | 192（W）×366（D）×332（H）mm | | | |
| | キーボード | 388（W）×173（D）×37（H）mm | | | |
| | リモコン | 52（W）×225（D）×25（H）mm | | | |
| 質量 | 本体 | 約9.2kg | | | |
| | キーボード/マウス/リモコン | 約1000g/約82g/約127g＊34 | | | |
| 主な添付品 | | マニュアル、電源ケーブル、回線ケーブル、リモコン、乾電池（単三アルカリ：2本） | | | マニュアル、電源ケーブル、回線ケーブル、リモコン、リモコン用受信ユニット＊35、乾電池（単三アルカリ：2本） |
| 主なインストールソフト | | Microsoft® Office Personal Edition 2003 | | | |
| ディスプレイ | | F19R31 | F17R41 | F17R31 | F15T81（A） |
| | 画面サイズ | 19型（高解像度スーパーシャインビュー液晶） | 17型（高解像度スーパーシャインビュー液晶） | 17型（高解像度デジタルTFT液晶） | 15型（スーパーシャインビュー液晶） |
| | インターフェイス | DVI-D、ヘッドフォン出力×1、ステレオライン入力×1、リモコン受信機×1 | | | DVI-D、ヘッドフォン出力×1、ステレオライン入力×1 |
| | 表示寸法 | アクティブ表示エリア：376（W）×301（H）mm | アクティブ表示エリア：337（W）×270（H）mm | | アクティブ表示エリア：304（W）×228（H）mm |
| | 画素ピッチ | 0.294mm | 0.264mm | | 0.297mm |
| | 表示解像度 | 640×480ドット＊36、800×600ドット＊36、1,024×768ドット＊36、1,280×1,024ドット | | | 640×480ドット＊36、800×600ドット＊36、1,024×768ドット |
| | 消費電力 | 約42W | 約36W | 約73W | 約19W |
| | 外形寸法 | 433（W）×229（D）×463（H）mm | 400（W）×210（D）×404（H）mm | 440（W）×194（D）×389（H）mm | 356（W）×229（D）×387（H）mm |
| | 質量 | 約7.2kg | 約6.9 kg | 約7.5 kg | 約4.8kg |
| | 備考 | － | | SoundVu、サブウーファ | － |

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

＊　1：添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。Microsoft® Windows® XP Home Editionでは、ネットワークでドメインに参加する機能はありません。別売のMicrosoft® Windows® XP Home Editionパッケージや別売のMicrosoft® Windows® XP Professional パッケージをインストールおよび利用することはできません。
＊　2：ソフトウェアやドライバがHTテクノロジに対応している必要があります。各ソフトウェアメーカ、周辺機器メーカにお問い合わせください。
＊　3：ビデオRAMはメモリ(メインRAM)を使用します。パソコン本体のメモリ容量が256Mバイトの場合、ビデオRAMの設定内容を変更すると動作が不安定となることがあります。この場合は初期設定(ご購入時の設定)に戻してご利用ください。
＊　4：増設RAMサブボード(PC3200対応-DDR400MHzメモリ)[1024MB]を2枚実装する必要があります。増設RAMサブボードを増設する場合は、PK-UG-ME009(256MB)、PK-UG-ME010(512MB)、PK-UG-ME011(1024MB)を推奨します。
＊　5：本体添付ディスプレイでのディザリングにより実現。
＊　6：グラフィックアクセラレータのサポートする表示モードです。実際に表示できるモードは接続するディスプレイにより異なります。なお、デジタルディスプレイでの1,280×768の解像度については弊社製ワイドモニタでのみ動作検証を行っております。
＊　7：DLSは「DownLoadable Sounds」の略です。DLSを使うと、カスタム・サウンド・セットをSoundMAXシンセサイザにロードできます。
＊　8：回線状態によっては、通信速度が変わる場合があります。また、内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
＊　9：最大56Kbpsはデータ受信時の速度です。データ送信時は最大33.6Kbpsになります。
＊10：添付のキーボードにあるマウス専用ポートに接続します。
＊11：リモコンの電池寿命はご使用の環境条件や方法により異なりますがアルカリ電池で最大約100時間です。また、使用可能な距離はご使用の環境条件や方法により異なりますが約3mです。
＊12：2モード(720KB/1.44MB)に対応しています(ただし、720KBモードのフォーマットは不可です)。
＊13：1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。
＊14：Windows®のシステムからは、容量がCドライブ:約173GB、Dドライブ:約4.6GB、残り:再セットアップ用として認識されます。
＊15：Windows®のシステムからは、容量がCドライブ:約221GB、Dドライブ:約4.6GB、残り:再セットアップ用として認識されます。
＊16：Windows®のシステムからは、容量がCドライブ:約135GB、Dドライブ:約4.6GB、残り:再セットアップ用として認識されます。
＊17：DVD-RAM Ver.2(片面4.7GB)の速度です。また、カートリッジ式のメディアは使用できませんので、カートリッジなし、あるいはメディア取り出し可能なカートリッジ式でメディアを取り出してご利用ください。
＊18：DVD-RAM Ver.1(片面2.6GB)の書き換えはサポートしていません。
＊19：DVD-Rは、DVD-R for General Ver.2.0に準拠したメディアの書き込みに対応しています。
＊20：DVD-RWは、DVD-RW Ver.1.1に準拠したメディアの書き込みに対応しています。
＊21：SuperAudio CDは、ハイブリッドのCD Layerのみ読み出し可能
＊22：Ultra Speed CD-RWメディアはご使用になれません。
＊23：CATVの受信チャンネル表記は、(社)電子情報技術産業協会規格(CPR-4103)の表記に基づきます。実際のCATV受信チャンネル番号は、ケーブルテレビ会社により異なりますので、ケーブルテレビ会社にお問い合わせください。
本製品をCATV回線に接続する場合、ケーブルテレビ会社との受信契約が必要となります。
また、本製品は、記載されたCATV周波数の受信に対応しておりますが、大半のチャンネルはケーブルテレビ会社により視聴制限(スクランブル)を施されているため、本製品で直接受信する事はできません。
この場合は、ケーブルテレビ会社より貸与されるターミナルアダプタにより、受信する必要があります。
ケーブルテレビ会社により再送信を行っている地上アナログ放送は、VHFおよびUHFの周波数で送信されていますので、特別な受信装置がなくとも、受信可能です。
詳細は、ご利用のケーブルテレビ会社にご相談下さい。
＊24：メモリースティックの「マジックゲート」(著作権保護)機能には対応しておりません。「メモリースティック Duo」をご使用の場合は、必ずメモリースティック Duoアダプタを使用してご利用ください。詳しくは「メモリースティック Duo」の取扱説明書をご参照ください。SDメモリーカードスロットは、著作権保護機能には対応しておりません。「miniSDカード」をご使用の場合には、必ずminiSDカードアダプタを使用してご利用ください。詳しくは「miniSDカード」の取り扱い説明書をご参照ください。メモリースティック、SDメモリーカード、xD-ピクチャーカードは各々同時に使用することはできません。
＊25：1ポートは液晶ディスプレイに接続します。
＊26：1ポートはリモコン用受信ユニットで占有します。
＊27：本機のDVI端子は添付のディスプレイのみ動作確認を行っております。
＊28：本機のPS/2端子は添付のキーボードのみ動作確認を行っております。
＊29：SmartVisionにおける音声は出力できません。
＊30：ディスプレイに添付のオーディオケーブルを接続します。
＊31：周波数特性を保証する値ではありません。
＊32：エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。省エネ基準達成率の表示語Aは達成率100%以上200%未満、AAは達成率200%以上500%未満、AAAは達成率500%以上を示します。
＊33：本機を横置きにしてのご使用はサポートしておりません。
＊34：乾電池の質量は含まれておりません。
＊35：USBポートに接続します。
＊36：擬似的に画素を拡大して表示しているため文字などの線がぼやけて表示される場合があります。
＊37：DVD+R 2層書込みはDVD+R(2層)ディスクのみに対応しています。

# VF700/AD

| 型名 | | | VF700/AD |
|---|---|---|---|
| 型番 | | | PC-VF700AD |
| インストールOS・サポートOS | | | Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack2＊1 |
| CPU | | | インテル® Celeron®D プロセッサ 330（2.66GHz） |
| キャッシュメモリ | 1次 | | 12Kμ命令実行トレース/16KBデータ(CPU内蔵) |
| | 2次 | | 256KB(CPU内蔵) |
| バスクロック | システムバス | | 533MHz |
| | メモリバス | | 400MHz |
| チップセット | | | Intel社製 82915GV / 82801FB |
| メモリ（メインRAM) | 標準容量 | | 512MB＊2(256MB×2)(DDR SDRAM/DIMM、PC3200対応) |
| | スロット数 | | 2スロット(DIMMスロット)[空きスロット0](デュアルチャネル対応) |
| | 最大容量 | | 2GB＊3 |
| 表示機能 | ビデオRAM | | 標準AUTO可変(最大128MB)＊2 |
| | グラフィックアクセラレータ | | Intel社製 82915GVに内蔵 |
| | 表示モード（本機のサポートする表示モード)＊5 | 本体添付ディスプレイ | 最大約1,619万色＊4（1,280×1,024、1,024×768、800×600） |
| | | デジタルディスプレイ | 最大約1,677万色（1,600×1,200、1,280×1,024、1,280×768、1,024×768、800×600） |
| | | アナログディスプレイ | 最大約1,677万色（1,600×1,200、1,280×1,024、1,024×768、800×600） |
| メール着信表示機能 | | | ファミリーランプ搭載 |
| サウンド機能 | 音源／サラウンド機能 | | PCM録音再生機能(ステレオ/モノラル、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8-48KHz、全二重化対応)、MIDI音源機能(ソフトウェアMIDI《XG、XG-Lite、GM、GS演奏モード対応、DLS2対応＊6》)、マイクノイズ除去機能、3Dポジショナルサウンド |
| | スピーカ | | 添付の液晶ディスプレイに内蔵(SoundVu(3W+3W)、サブウーファ(5W)) |
| | サウンドチップ | | ADI社製 AD1981B搭載 |
| 通信機能 | FAXモデム＊7 | | データ通信：最大56Kbps＊8(K56flex™、V.90対応)/FAX通信：最大14.4Kbps(V.17)、Resume On Ring機能対応 |
| | LAN | | 100BASE-TX/10BASE-T対応 |
| 入力装置 | キーボード | | PS/2小型キーボード(ファミリーボタン付き、109キーレイアウト準拠、ワンタッチスタートボタン付き) |
| | マウス | | 光センサーPS/2マウス(スクロール機能付き)＊9 |
| | リモコン | | 赤外線リモコン＊10 |
| フロッピーディスクドライブ | | | 3.5型フロッピーディスクドライブ内蔵(720KB/1.2MB/1.44MB)＊11 |
| ハードディスクドライブ＊12 | | | 約160GB＊13(Serial ATA、高速7,200回転/分) |
| CD/DVDドライブ | | | DVDスーパーマルチドライブ(DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW)内蔵(バッファアンダーランエラー防止機能付き) [DVD+R 2層書込み] |
| | 速度 | | DVD-RAM読出し：最大5倍速 ＊14、DVD-RAM書換え：最大5倍速＊14＊15、DVD+R(2層)書き込み: 最大2.4倍速＊32、DVD+R(1層)書込み：最大12倍速 、DVD+RW書換え：最大4倍速、DVD-R書込み：最大8倍速＊16、DVD-RW書換え：最大4倍速＊17、DVD読出し：最大16倍速、CD読出し：最大40倍速＊18、CD-R書込み：最大40倍速、CD-RW書換え：最大10倍速＊19 |
| 映像関連機能（地上アナログ放送) | MPEGボード | | ハードウェアMPEG2リアルタイムエンコーダボード |
| | TVチューナ | | 音声多重対応、受信チャンネル：VHF(1〜12ch)、UHF(13〜62ch)、CATV(C13〜C38)＊20 |
| | データ放送受信 | | 地上アナログデータ放送(ADAMS)、字幕放送 |
| | 映像合成表示機能 | | DirectShow®により任意のサイズで合成表示可能(全画面表示可能)<br>SmartVision使用時：240×180ドット以上(縦横比3:4固定)でサイズ変更可能 |
| | 高画質機能 | | デジタルノイズリダクション、タイムベースコレクタ |
| | TV録画機能 | | SmartVisionでMPEG2(高画質モード：720×480ドット(8Mbps CBR)、標準画質モード：720×480ドット(4Mbps VBR)、長時間録画モード：352×480ドット(2Mbps VBR)、超長時間録画モード:352×240ドット(1.2Mbps VBR))、MPEG1(ユーザ設定モード：352×240ドット(1.152Mbps CBR))の録画可能 |
| | 最長録画時間(高画質モード) | | 約35時間50分 |
| | 最長録画時間(標準画質モード) | | 約69時間50分 |
| | 最長録画時間(長時間録画モード) | | 約132時間50分 |
| | 最長録画時間(超長時間録画モード) | | 約207時間20分 |
| スロット | メモリースティック（メモリースティック PRO) | | トリプルメモリースロット×1＊21 |
| | SDメモリーカード | | トリプルメモリースロット×1＊21 |
| | xD-ピクチャーカード | | トリプルメモリースロット×1＊21 |
| | PCカード | | Type II×2(Type III×1スロットとしても使用可)、PC Card Standard準拠、CardBus対応 |
| | PCI | | 2スロット(ハーフ×2) [空きスロット1] |

| 型名 | | VF700/AD |
|---|---|---|
| インターフェイス | USB | コネクタ4ピン×6(本体×6)＊22[USB 2.0] |
| | IEEE1394(DV) | 4ピン×2 |
| | パラレル | D-sub25ピン×1 |
| | ディスプレイ | DVI-I(29ピン)＊23 |
| | PS／2 | ミニDIN6ピン×2＊24 |
| | FAXモデム | RJ11モジュラコネクタ×2(LINE×1、TELEPHONE×1) |
| | LAN | RJ45コネクタ×1 |
| サウンド関連インターフェイス | 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力 | 角形×1＊25 |
| | ライン入力 | ステレオミニジャック×2(本体実装：入力インピーダンス 20kΩ、入力レベル 1Vrms、TVボード実装：入力インピーダンス 47kΩ、入力レベル 2Vrms) |
| | ライン出力 | ステレオミニジャック×1＊26(出力レベル 1Vrms、出力インピーダンス 10kΩ) |
| | マイク入力 | ステレオミニジャック×1(マイク入力インピーダンス 20kΩ、入力レベル 5mVrms、バイアス電圧 3.7V) |
| | ヘッドフォン出力 | ライン出力と共用(対応ヘッドフォンインピーダンス 16Ω-100Ω「推奨32Ω」＊27、出力電力 5mW/32Ω) |
| 映像関連インターフェイス | 地上アナログ放送アンテナ入力 | F型同軸×1 |
| | ビデオ入力 | Sビデオ端子×1(背面×1)、コンポジットビデオ端子×1(背面×1) |
| ベイ | | 5型ベイ：1スロット(CD/DVDドライブで占有済)[空きスロット0]、内蔵3.5型ベイ：1スロット(ハードディスクドライブで占有済)[空きスロット0] |
| 電源 | | AC100V±10%、50/60Hz |
| 消費電力 | 標準 | 約92W |
| | 最大 | 197W |
| エネルギー消費効率(省エネ基準達成率)＊28 | | P区分 0.00023(AAA) |
| 電波障害対策 | | VCCI ClassB |
| 温湿度条件 | | 10～35℃、20～80%(ただし結露しないこと) |
| 外形寸法 | 本体(突起部除く) | 100(W)×366(D)×332(H)mm＊29 |
| | 本体(スタビライザ設置時) | 192(W)×366(D)×332(H)mm |
| | キーボード | 388(W)×173(D)×37(H)mm |
| | リモコン | 52(W)×225(D)×25(H)mm |
| 質量 | 本体 | 約9.5kg |
| | キーボード/マウス/リモコン | 約1000g/約82g/約127g＊30 |
| 主な添付品 | | マニュアル、電源ケーブル、回線ケーブル、リモコン、乾電池(単三アルカリ：2本)、ファミリーソフトDVD |
| 主なインストールソフト | | Microsoft® Office Personal Edition 2003 |
| ディスプレイ | | F17R31(W) |
| | 画面サイズ | 17型(高解像度デジタルTFT液晶) |
| | インターフェイス | DVI-D、ヘッドフォン出力×1、ステレオライン入力×1、リモコン受信機×1 |
| | 表示寸法 | アクティブ表示エリア：337(W)×270(H)mm |
| | 画素ピッチ | 0.264mm |
| | 表示解像度 | 640×480ドット＊31、800×600ドット＊31、1,024×768ドット＊31、1,280×1,024ドット |
| | 消費電力 | 約73W |
| | 外形寸法 | 440(W)×194(D)×389(H)mm |
| | 質量 | 約7.5kg |
| | 備考 | SoundVu、サブウーファ |

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

＊　1：添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。Microsoft® Windows® XP Home Editionでは、ネットワークでドメインに参加する機能はありません。別売のMicrosoft® Windows® XP Home Editionパッケージや別売のMicrosoft® Windows® XP Professionalパッケージをインストールおよび利用することはできません。
＊　2：ビデオRAMはメモリ（メインRAM）を使用します。パソコン本体のメモリ容量が256Mバイトの場合、ビデオRAMの設定内容を変更すると動作が不安定となることがあります。この場合は初期設定（ご購入時の設定）に戻してご利用ください。
＊　3：増設RAMサブボード（PC3200対応-DDR400MHzメモリ）[1024MB]を2枚実装する必要があります。増設RAMサブボードを増設する場合は、PK-UG-ME009（256MB）、PK-UG-ME010（512MB）、PK-UG-ME011（1024MB）を推奨します。
＊　4：本体添付ディスプレイでのディザリングにより実現。
＊　5：グラフィックアクセラレータのサポートする表示モードです。実際に表示できるモードは接続するディスプレイにより異なります。なお、デジタルディスプレイでの1,280×768の解像度については弊社製ワイドモニタでのみ動作検証を行っております。
＊　6：DLSは「DownLoadable Sounds」の略です。DLSを使うと、カスタム・サウンド・セットをSoundMAXシンセサイザにロードできます。
＊　7：回線状態によっては、通信速度が変わる場合があります。また、内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
＊　8：最大56Kbpsはデータ受信時の速度です。データ送信時は最大33.6Kbpsになります。
＊　9：添付のキーボードにあるマウス専用ポートに接続します。
＊10：リモコンの電池寿命はご使用の環境条件や方法により異なりますがアルカリ電池で最大約100時間です。また、使用可能な距離はご使用の環境条件や方法により異なりますが約3mです。
＊11：3モード（720KB/1.2MB/1.44MB）に対応しています（1.2MBモードへの対応は、ドライバをセットアップすることで可能となります）。ただし、720KB/1.2MBモードのフォーマットは不可です。
＊12：1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。
＊13：Windows®のシステムからは、容量がCドライブ：約135GB、Dドライブ：約4.6GB、残り：再セットアップ用として認識されます。
＊14：DVD-RAM Ver.2（片面4.7GB）の速度です。また、カートリッジ式のメディアは使用できませんので、カートリッジなし、あるいはメディア取り出し可能なカートリッジ式でメディアを取り出してご利用ください。
＊15：DVD-RAM Ver.1（片面2.6GB）の書き換えはサポートしていません。
＊16：DVD-Rは、DVD-R for General Ver.2.0に準拠したメディアの書き込みに対応しています。
＊17：DVD-RWは、DVD-RW Ver.1.1に準拠したメディアの書き込みに対応しています。
＊18：SuperAudio CDは、ハイブリッドのCD Layerのみ読み出し可能
＊19：Ultra Speed CD-RWメディアはご使用になれません。
＊20：CATVの受信チャンネル表記は、（社）電子情報技術産業協会規格（CPR-4103）の表記に基づきます。実際のCATV受信チャンネル番号は、ケーブルテレビ会社により異なりますので、ケーブルテレビ会社にお問い合わせください。
本製品をCATV回線に接続する場合、ケーブルテレビ会社との受信契約が必要となります。
また、本製品は、記載されたCATV周波数の受信に対応しておりますが、大半のチャンネルはケーブルテレビ会社により視聴制限（スクランブル）を施されているため、本製品で直接受信する事はできません。
この場合は、ケーブルテレビ会社より貸与されるターミナルアダプタにより、受信する必要があります。
ケーブルテレビ会社により再送信を行っている地上アナログ放送は、VHFおよびUHFの周波数で送信されていますので、特別な受信装置がなくとも、受信可能です。
詳細は、ご利用のケーブルテレビ会社にご相談下さい。
＊21：メモリースティックの「マジックゲート」（著作権保護）機能には対応しておりません。「メモリースティック Duo」をご使用の場合は、必ずメモリースティック Duoアダプタを使用してご利用ください。詳しくは「メモリースティック Duo」の取扱説明書をご参照ください。SDメモリーカードスロットは、著作権保護機能には対応しておりません。「miniSDカード」をご使用の場合には、必ずminiSDカードアダプタを使用してご利用ください。詳しくは「miniSDカード」の取り扱い説明書をご参照ください。メモリースティック、SDメモリーカード、xD-ピクチャーカードは各々同時に使用することはできません。
＊22：1ポートは液晶ディスプレイに接続します。
＊23：本機のDVI端子は添付のディスプレイのみ動作確認を行っております。
＊24：本機のPS/2端子は添付のキーボードのみ動作確認を行っております。
＊25：SmartVisionにおける音声は出力できません。
＊26：ディスプレイに添付のオーディオケーブルを接続します。
＊27：周波数特性を保証する値ではありません。
＊28：エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。省エネ基準達成率の表示語Aは達成率100%以上200%未満、AAは達成率200%以上500%未満、AAAは達成率500%以上を示します。
＊29：本機を横置きにしてのご使用はサポートしておりません。
＊30：乾電池の質量は含まれておりません。
＊31：擬似的に画素を拡大して表示しているため文字などの線がぼやけて表示される場合があります。
＊32：DVD+R 2層書込みはDVD+R（2層）ディスクのみに対応しています。

# その他のご注意

[TV 視聴／録画について]
・ 地上デジタル・BS デジタル・CS デジタル放送対応のチューナを本商品の外部入力端子に接続した場合、「一回だけ録画可能」の番組などのコピー制御された番組は本商品で録画およびタイムシフトできません。
・ TV をご覧いただくためにはご家庭のアンテナケーブル（別売）と接続する必要があります。
・ TV放送やデータ放送をご覧になる場合、ノイズやゴーストなど電波障害が強いところでは、TV映像がコマ落ちしたり、データ放送が受信できないなどの現象が発生する場合があります。電波の弱い場合は、ブースタが必要になる場合があります。また、ケーブルテレビをご利用の場合は、ADAMS および文字放送などのデータ放送が受信可能かどうか、ご利用のケーブルテレビ会社へお問い合わせください。
・ 録画時間は映像の内容およびご利用状況によって前後する場合があります。

[著作権に関するご注意]
・ お客様が複製元のCD-ROM やDVD-ROM などの音楽コンテンツやビデオコンテンツの複製や改変を行う場合、複製元の媒体などについて、著作権を保有していなかったり、著作権者から複製や改変の許諾を得ていない場合、利用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。
・ 複製の際は、複製元の媒体の利用許諾条件、複製などに関する注意事項にしたがってください。
・ お客様が録音・録画したものは、個人として楽しむなどのほかには、著作権法上、著作権者に無断で使用することはできません。

[CD/DVD の読み込み／書き込みについて]
・ コピーコントロール CD など一部の音楽 CD では、再生や CD 作成ができない場合があります。
・ CPRM（Content Protection for Recordable Media）の著作権保護機能には対応しておりません。
・ メディアの種類、フォーマット形式によって読み取り性能が出ない場合があります。また、記録状態が悪い場合など、読み取りできない場合があります。
・ 12cm CD、DVD 以外は使用できません。ハート形、カード型などの特殊形状をした CD は故障の原因となりますので使用できません。
・ 設定した書き込み、書き換え速度を実現するためには、書き込み、書き換え速度に応じたメディアが必要になります。
・ 映像ソフトの再生は、ソフトウェアによるMPEG2再生方式です。NTSCのみ対応しております。Regionコード「2」、「ALL」以外のDVDビデオの再生は行えません。再生するDVDディスクおよびビデオCDの種類によってはコマ落ちする場合があります。リニアPCM（96KHz/24bit）で記録されている20KHz以上の音声信号は再生できません。DVDレコーダで記録されたDVDで、書き込み形式により再生できないものがあります。そのような場合はDVDレコーダの取扱説明書などをご覧ください。
・ ライティングソフトウェアが表示する書き込み予想時間と異なる場合があります。
・ 作成したDVDは家庭用のDVDプレーヤやDVD-ROMドライブ搭載パソコンで再生できますが、一部のDVDプレーヤやDVD-ROMドライブでは再生できないことがあります。また、メディアやプレーヤの状態により再生できないことがあります。

[インターネット電話／インターネットテレビ電話について]
・ ご利用の通信事業者、プロバイダ、お客様の環境によってはご利用になれない場合があります。事前に通信事業者やプロバイダにご確認ください。ADSLなどのブロードバンド環境でのご利用を推奨いたします。

[周辺機器接続について]
・ 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
・ 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネットhttp://121ware.com/valuestar/（各シリーズページ→「接続情報」）をご覧ください。
・ USB1.1対応の周辺機器も利用できます。USB2.0で動作するにはUSB2.0対応の周辺機器が必要です。動作確認済み機種についてはインターネットhttp://121ware.com/valuestar/（各シリーズページ→「接続情報」）をご覧ください。
・ IEEE1394インターフェイスを装備した商品と他社製デジタルビデオカメラの連携は、機種により対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネットhttp://121ware.com/valuestar/（各シリーズページ→「接続情報」）をご覧ください。
・ 光デジタルオーディオ出力端子に接続するオーディオ機器は48KHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般のCDプレーヤ・MDデッキ類と同様に、SCMS（シリアルコピーマネジメントシステム）に準拠した信号を出力します。

# FAXモデム仕様一覧

| 項目 | | 規格 |
|---|---|---|
| 適用回線 | | 加入電話回線 |
| ダイヤル方式 | | パルスダイヤル(10/20PPS)<br>トーンダイヤル(DTMF) |
| FAX機能 | 交信可能ファクシミリ装置 | ITU-T　G3ファクシミリ装置 |
| | 同期方式 | 半2重調歩同期方式 |
| | 通信規格[*1] | ITU-T<br>V.17:14,400 / 12,000 / 9,600 / 7,200 bps<br>V.29:9,600 / 7,200 bps<br>V.27ter:4,800 / 2,400 bps<br>V.21 ch2:300 bps |
| | 送信レベル | -10 ～ -15dBm(出荷時 -15dBm) |
| | 受信レベル | -10 ～ -40dBm |
| | 制御コマンド | EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1) |
| データモデム機能 | 同期方式 | 全2重調歩同期方式 |
| | 通信規格[*1] | K56flex:56,000 ～ 32,000 bps[*2]<br>ITU-T<br>V.90:56,000 ～ 28,000 bps[*2]<br>V.34:33,600 ～ 2,400 bps<br>V.32bis:14,400 ～ 4,800 bps<br>V.32:9,600 ～ 4,800 bps<br>V.22bis:2,400 / 1,200 bps<br>V.22:1,200 / 600 bps<br>V.21:300 bps |
| | エラー訂正 | ITU-T V.42(LAPM) MNP class 4 |
| | データ圧縮 | ITU-T V.42 MNP class 5 |
| | 送信レベル | -10 ～ -15dBm(出荷時 -15dBm) |
| | 受信レベル | -10 ～ -40dBm |
| | 制御コマンド | Hayes ATコマンド準拠[*3] |

*1:回線状態によっては通信速度が変わる場合があります。

*2:送信時は 33,600 ～ 2,400 bpsになります。

*3:ATコマンドについては、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「ATコマンド」をご覧ください。

# LAN仕様一覧

| 項目 | 規格 |
| --- | --- |
| ネットワーク形態 | スター型ネットワーク |
| 伝送速度 | 100BASE-TX使用時：100Mbps<br>10BASE-T使用時：10Mbps |
| 伝送路 | 100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5<br>10BASE-T使用時　：UTPカテゴリ3,4,5 |
| 信号伝送方式 | ベースバンド伝送方式 |
| メディアアクセス制御方式 | CSMA/CD方式 |
| ステーション台数 | 最大1,024台/ネットワーク |
| ステーション間距離/<br>ネットワーク経路長* | 100BASE-TX：最大約200m/ステーション間<br>10BASE-T：最大約500m/ステーション間<br>最大100m/セグメント |

＊リピータの台数など、条件によって異なります。

# リモコン仕様一覧

| 外形寸法 | 52（W）×225（D）×25（H）mm |
| --- | --- |
| 質量 | 約127g（電池含まず） |
| 赤外線周波数 | 940nm |
| 赤外線キャリア周波数 | 38KHz |
| 赤外線フォーマット | 2bitPPMフォーマット |
| 赤外線到達距離 | PCモード時：3m以内 |
| | TVモード時*：7m以内 |
| 対応キー | PCモード時：57キー |
| | TVモード時*：19キー |
| TVモード時*リモコン<br>対応メーカー | Panasonic、SONY、HITACHI、MITSUBISHI、TOSHIBA、SANYO、SHARP、VICTOR（JVC）、NEC、AIWA、富士通ゼネラル、FUNAI、Pioneer、PHILIPS |
| 電池 | 単3形アルカリ乾電池2本 |
| 電池寿命 | PCモードにてキー連続操作約100時間 |

＊TVモードは、プリセット機能付リモコン（TVチューナ内蔵23型ワイド液晶ディスプレイ（F23W11（A））セットモデルに添付のリモコン）のみ対応しています。

# 索 引

## 英数字



## あ行



## か行



## さ行

# パソコンの中にもマニュアルがある

## ● サポートナビゲーターで調べてみよう ●

このパソコンには、使いながら画面で説明を見るための、サポートナビゲーターが入っています。

デスクトップにある 困ったときのサポートナビゲーター をダブルクリックすれば、いつでも利用できます。

**必要に応じて、次の５種類の説明を利用してください。**

| | |
|---|---|
| **つながった後のインターネット** | ウイルス対策やセキュリティの設定などについて説明しています。 |
| **パソコン使いこなし術** | Windowsの便利な操作方法など、一歩進んだ使い方を説明しています。 |
| **ソフトの紹介と説明** | このパソコンに入っているアプリケーションソフトの使い方などを説明しています。 |
| **パソコン各部の説明** | このパソコンの各部の機能や設定について、詳しい情報を知りたいときに利用してください。 |
| **トラブル解決** | うまくいかないときや、故障かな？と思ったときに利用してください。 |